科目名:教育制度	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　今日の学校教育や地域の社会教育を含む教育制度についての知識を理解し、特性や問題点について展望できる思考力を獲得する（保育学科DP３）（国際教養こども学科DP1、2)。方法は、各回、ムードルに資料を掲載し、授業時に説明し、各自がその資料に書き込みをして学修を進める。それと共に、授業ノートをムードルへ提出する(7回)。映像を用いて説明し事例検討を行う。グループ・ディスカション(2回)。毎回、パソコンを持参すること。

授業の到達目標
　到達目標は、①現代の学校教育に関する制度的な事項について、基礎的な知識を身に付け、そこにある課題を理解できること、②学校と地域との問題について理解できること、③学校安全への対応に関する基礎的知識について理解し、教育制度の特性と問題点について考察できることにある。（保育学科DP3）（国際教養こども学科DP12）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　基本的に、次回の資料を開示するので、予習として読んでおくこと（事前学修）。授業後は、書き込んだ資料を読み直し、ポイントを振り返りながら、授業ノートに記載し後日提出すること(事後学修)。

評価方法
　事後学修として提出する授業ノート（50点）、学期末試験（50点）を合計して100点満点で評価する。授業ノートのフィードバックについては授業内で行う。

教科書	参考図書
毎回、資料と授業ノートをムードルに掲載する。	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「小学校学習指導要領」、 その他については授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参して下さい。
　オフィスアワー　木曜日昼休み　研究室。　　メールアドレス　t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教育制度の原理と理念①　教育基本法、改正教育基本法、教育振興基本計画
02	教育制度の原理と理念②　学校教育法及び学校教育法施行規則
03	教育制度の原理と理念③　地方教育行政の組織及び運営に関する法律
04	教育制度の原理と理念④　学校評議員、コミュニティスクール、学校評価、学校選択制
05	教育制度の原理と理念⑤　教育職員免許法、教育公務員特例法
06	学校施設整備指針と学校づくり
07	家庭教育の支援政策
08	幼保一元化の問題
09	小中一貫校と義務教育
10	学校・子どもの生活の変化と近年の教育政策の動向
11	地域学校協働本部と学校づくり
12	地域と学校の安全への取り組み
13	学校保健安全法と事件・事故・災害への取り組み
14	学校安全といじめ問題
15	今日の教育制度の特性と課題
16	学期末試験

科目名:保幼小連携総論	担当者:淺野 卓司・基村 昌代・森川 拓也・寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保幼小連携の意義と重要性について、接続期の発達課題、教育カリキュラムの課題、現場での課題から学ぶ。実践事例を参考にしながら子どもの育ちを具体的にイメージし、遊びと活動、学習の関係について考察する。グループワーク、ディスカッション等を取り入れながら、保幼小連携の具体的方策についての考えを深め、保育者・教育者としての意識を高める。

授業の到達目標
①保幼小連携の意義・重要性・課題について、今後の自らの課題として意識し、積極的に関わり考察できる【DP】
②保幼小連携の意義・重要性・課題について、他者と共にそれぞれの考えを出し合いながら学び合うことができる【DP】
③保幼小連携についての知識や技能を備え、保幼小の関連性を理解し、連携期の子どもの姿を具体的にイメージできる
④保幼小連携の課題について、教育・保育に関する知識や技能を基に、その課題に向かう方法を考察し、その結果を他者に正確に伝える力を身につけている。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各回で指示された課題に取り組む

評価方法
フィードバック：レポート・課題・グループワーク等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
最終レポート40%　　授業内提出物・課題　40%　　授業内活動・態度　20%

教科書
文部科学省：小学校教育学習指導要領　　文部科学省：幼稚園教育要領　　厚生労働省：保育所保育指針
内閣府：認定こども園教育保育要領

参考図書
各教員が指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
欠席の場合、必ず事前に連絡をすること。無断欠席・遅刻は厳禁。連絡先は授業内で伝える。

01	オリエンテーション・保幼小接続期教育の課題の諸相
02	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント①（保幼小連携を担う教科としての音楽科）
03	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント②（保幼小連携を担う教科としての図画工作科）
04	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント③（保幼小連携を担う教科としての体育科）
05	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント④（保幼小連携を担う特別支援教育）
06	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント⑤（保幼小連携を担う教科としての国語科）
07	アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラムの現状と構成
08	まとめ　保幼小連携のあり方と具体的方策について
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:教育・保育学特講Ⅱ	担当者:嶋守さやか・小柳津和博・辻岡和代・小原倫子・金子晃之・寺田泰人・太田早津美・森川拓也・勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 保育学に求められる専門的知識の確認・定着を図ることを目指す。ここまでの講義・演習等を振り返るために、保育士試験や公務員保育職の専門試験レベルの内容を確認していく。
授業の到達目標 保育者として十分な専門的知識と技能を確認し、就職後に活用できるようにしていく(DP)。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ○主体的に学ぼうとする力 ◎思考力・判断力・表現力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 これまでの教科書・講義や演習で使用したプリントの見直しができるようにしておくこと。また演習内容はノートなどにまとめ、確認できるようにしていくこと。
評価方法 出席態度（50%）、moodleテスト（50%）。テストについてmoodle上で解説を提示し、フィードバックを行う。

教科書 適宜紹介する	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 公立保育職希望者で専門試験がある者はぜひ受講してほしい。またここまでの授業の総復習をしたい者の受講も歓迎する。 勝浦が主担当である。katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	社会福祉のまとめ
02	障害児関連のまとめ
03	子どもの食と栄養のまとめ
04	子育て支援のまとめ
05	教育学のまとめ
06	健康・保健のまとめ
07	保育者としてあるべき姿―面接を通して―①
08	保育者としてあるべき姿―小論文を通して―②
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:音楽科教育法	担当者:五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、小学校音楽科の目標、内容、評価および校種間の連携について理解を深めながら、音楽科教育の意義や今日的課題について学ぶ。また、表現（歌唱、器楽、音楽づくり）および鑑賞の教材研究や指導案作成、模擬授業を通して、音楽科の授業づくりについて多角的に検討する。なお、授業づくりの際にはICT機器を積極的に活用し、時代に即した実践力を身につけるようにする。【AL】

授業の到達目標
①小学校音楽科の目標、各領域における具体的な内容、評価および校種間の連携について理解する。②児童の音楽的発達や今日的課題を踏まえながら教材研究、指導計画の立案を行い、授業分析を通して実践力を身につける。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
音楽科で扱う教材について、実際に演奏を聴いたり歌ったりしながら理解を深めること。
ICT機器などを活用しながら、教材研究に必要な資料や音源、映像を自主的に収集すること。
授業づくりに関する資料や事例を自主的に収集すること。

評価方法
確認テスト（30%）、指導案の作成（30%）、模擬授業の振り返りとレポート（30%）、授業への参加態度（10%）提出された課題（確認テスト、指導案、レポート）は添削およびコメントを付し、返却する。

教科書	参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領解説　音楽編』 初等科音楽教育研究会編『改訂版　最新初等科音楽教育法 　2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社	小学校音楽科教科書　第1学年～第6学年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ソプラノリコーダーを各自用意すること。
実際に表現活動を行いながら授業づくりについて検討するため、積極的に参加すること。
連絡方法などは、授業内に開示する。

01	オリエンテーション、音楽教育の意義と小学校音楽科の実際
02	音楽科の目標と指導内容の枠組み
03	各領域の内容(1)：表現
04	各領域の内容(2)：鑑賞と〔共通事項〕
05	音楽科の評価、確認テスト
06	授業実践の事例検討(1)：表現（歌唱）
07	授業実践の事例検討(2)：表現（打楽器、リコーダー）
08	授業実践の事例検討(3)：表現（ICT機器、教材を活用した音楽づくり）
09	授業実践の事例検討(4)：鑑賞（ICT機器、教材を活用した鑑賞）
10	教材研究の重要性、学習指導案の作成と内容
11	模擬授業の実践と検討(1)：表現（歌唱）
12	模擬授業の実践と検討(2)：表現（器楽）
13	模擬授業の実践と検討(3)：表現（音楽づくり）
14	模擬授業の実践と検討(4)：鑑賞
15	これからの音楽科教育の課題
16	

2022年度シラバス

科目名:家庭科教育法	担当者:栗田 舞	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
講義で小学校における教科としての家庭科に必要な知識と具体的な指導方法を身に付け、家庭科の概要と指導内容、そして様々な指導法を修得する。そして様々な分野について教材研究を行なう。また、最終的には各自で学習指導案を作成、発表し全体検討を行ない高め合う。

授業の到達目標
①学習指導要領における家庭科の内容を修得する
②教育を高める意識を持ち教材研究を行ない、学習指導案を作成することができる（DP）
③家庭科の授業を成立させることができる（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：日々の生活を送るなかで、疑問に思ったことや気になったことをそのままにせず、調べて実践することにより自分なりの解釈を広げていくこと。生活のあらゆることが、家庭科の学習の糧になるので、常にアンテナをたて生活をしてほしい。このことが教材研究へとつながる。
教科書によく目を通し、家庭科の知識を修得する。２時間
事後学修：講義内容をきちんと理解でき、教師として生徒に教えることができるよう復習し身に付ける。疑問点があったら明らかにする。２時間

評価方法
学習指導案　４５％　　教材研究　２５％　　確認テスト　２０％
グループ討議参加態度、自己評価シート　１０％
学習指導案は添削し返却する。

教科書	参考図書
小学校　家庭科教育法　大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子　㈱建帛社、新しい家庭５・６　東京書籍	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教材研究、学習指導案の課題はMoodleにて提出する。
質問等は、授業後に教室にて受け付ける。またMoodleでも受け付ける。

01	ガイダンス　学習指導要領における家庭科の概要と展開
02	家庭科の学習指導と評価
03	確認テスト　教材研究の方法
04	家族・家庭生活分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
05	食生活分野、調理における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
06	衣生活分野、製作における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
07	住生活分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
08	消費生活と環境分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
09	家庭科の授業づくりと学習指導案
10	学習指導案の構成
11	家族・家庭生活分野における模擬授業と全体検討
12	食生活分野、調理における模擬授業と全体検討
13	衣生活分野、製作における模擬授業と全体検討
14	住生活分野における模擬授業と全体検討
15	消費生活と環境分野における模擬授業と全体検討
16	なし

2022年度シラバス

科目名:英語科教育法	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校における外国語活動及び外国語指導法の理論と実践の両面について学びながら、児童に対する外国語の指導法についての知識を深めていく。授業は講義及び実践の形を取り、小学校における外国語きょういくについての概要を学ぶとともに、教材研究や指導案の作成の方法を学び、実際に模擬授業を行うことで実践的なトレーニングも行う。

授業の到達目標
小学校における外国語活動と外国語の学習・指導に関する知識及び授業における指導と学習評価の基礎を身につける。（DP）また、模擬授業に取り組むことにより授業実践力の向上を図る。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
指導案の作成に必要な参考資料収集に取り組み、教材研究に活かせるようまとめておくこと。また、授業で使う教材には事前に目を通しておくこと。

評価方法
グループワーク・ディスカッション等を含めた授業への参加度　20%　授業レポート　20%　模擬授業　30%　定期試験　30%　次回の授業時に前回授業における授業コメントに基づいたフィードバックを全体に行う。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　外国語編	授業内にて適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
グループワークやディスカッションを多く取り入れるため、積極的に自分の意見を発信すること。連絡手段等は授業内にて伝える。

01	学習指導要領から見る外国語活動と外国語
02	小中高の連携と小学校の役割
03	児童や学校の多様性への対応
04	言語使用を通した言語習得・音声によるインプット
05	コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動
06	受信から発信、音声から文字へ
07	国語教育との連携
08	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方
09	文字言語との合わせ方、読む活動から書く活動への導き方
10	題材の選定と教材研究
11	学修到達目標、指導計画カリキュラム・マネジメント
12	学修指導案の作成
13	模擬授業①　ALT等とのTTによる指導の在り方
14	模擬授業②　ICT等の活用の仕方
15	学修状況の評価（パフォーマンス評価）
16	定期試験

科目名:特別活動・総合的な学習の時間の指導法	担当者:木村 幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
総合的な学習の時間は、子供たちが身の回りの事象に主体的にかかわり、問題解決を行う場である。授業では、その指導法を学んだり、グループワークで指導計画の作成を行いながら学習を進める。また、児童一人一人を生かし育てる特別活動の指導については、模擬授業や場面指導を取り入れながら、その指導法について授業を進める。

授業の到達目標
・子どもたちの主体的な問題解決を促す総合的な学習の在り方を理解することができる。
・児童の主体性を育み、有用感を高める特別活動の指導法を理解することができる。「知識・技能）」
・教科や行事の体験的活動の場としての総合的学習・特別活動の運営の在り方を考えることができる。「思考力・判断力・表現力」
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前学修：指導要領解説を事前に読み込む。また、グループワークや模擬授業の前には、自分なりの案をノートなどにメモしておく。
事後学修：授業で扱った資料を確認し、重要な事項をノートに書き留めておく。

評価方法
①授業への積極的参加度：２０％　②毎時の小レポート：４０％　③課題レポート：４０％
フィードバック：次回の授業日に特徴的な小レポートの内容の解説をする。また、小レポートの内容等をもとに講義を進める場合もある。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編・特別活動編	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業内容が、新学習指導要領のどんな事項にかかわっているかを確認しておく。
・指導計画づくり・模擬授業を行う際は、グループで意見が出せるようにしておく。
・質問は、Mooddleで受け付けます。

01	ガイダンス：優れた総合的な学習や特別活動の取り組み例をもとに
02	新学習指導要領が目指す見方・考え方を使った総合的学習の在り方を考える。
03	社会や環境に関する事象を学ぶ場としての総合的学習の在り方について考える。
04	学校行事や教科などの体験的学習の場としての総合的な学習の在り方を考える。
05	地域の特色を生かした学校づくりを推進する場としての総合的な学習の在り方を考える。
06	教科横断的な学習の場としての総合的な学習の在り方を考える。
07	学校行事や教科などを取り入れた総合的な学習の指導計画の立案をする。（グループワーク）
08	子供たちの主体性をはぐくむ学級活動の運営の指導法を考える。
09	子供たちを生かし、有用感を育てる係活動の運営と指導法を考える。
10	学校づくりの一翼を担い参加する児童会活動や委員会活動の在り方を考える。
11	異学年を結び、児童を育てる兄弟学級や通学団活動の運営方法を考える。
12	一人一人の子供に寄り添い、人間関係を深めるノウハウを学ぶ。（場面指導のグループワーク）
13	明るい学級づくりのノウハウを学ぶ。（場面指導のグループワーク）
14	子供たちや家庭を取り巻く課題に対する教師のかかわり方を考える。
15	学級会運営の模擬授業を行う。
16	なし（課題レポート）

科目名:生徒・進路指導論	担当者:山口 正	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
○保育学科の学修で身につけてきた保育専門職として求められる専門職としての基礎的力量を土台に、小学校教員（教育専門職）として必要な子どもの発達に関する基礎的能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を学ぶ。
○具体的には、事例（紹介・検討）をとおして、現代社会に生きる子どもの「生きづらさ」の背景や「いじめ」「不登校」「暴力行為」などの問題の本質を理解する。また、進路指導・キャリア教育の意義や基本的原理を理解する。
○授業では多様な意見から学ぶこと（意見交流）を重視し、必要に応じて、グループワーク（話し合い）と全体交流（発表）を設ける。
○提出するレポートは小レポート４回、最終課題レポート（レポート試験）

授業の到達目標
○現代の子どもの変化や特徴を理解した、生徒指導・進路指導のあり方を考え深めることができる（DP)。
○また、その指導を具体化できるだけの基本的理解（理論と対処方法）を身につけることができる（DP)。
○上記をとおして、子どもの発達を可能にする（保育）教育専門職としての視野を広げることができる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Ohka Moodleにアップする授業関連情報・プリントを読み、以下の学修課題に取り組む。
準備学修：次回の授業目標と授業展開予定を確認し、事前学習課題（授業資料の読了や線引きなど）に取り組む。
事後学修：前回の授業内容を振り返り、自らの学習成果と今後深めたい課題を確認する。

評価方法
意見交流（グループワークと発表）：２０％
小レポート４回：４０％
最終課題レポート（レポート試験）：４０％
フィードバックは、提出物の返却時のコメント付記や授業時における全体講評等によって行う。

教科書	参考図書
自作の授業（教材）プリント	文部科学省『生徒指導提要』 その他は授業中に紹介　　学習資料（文献）の一部は事前学習課題として位置づける。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
○保育職も教育職も他者理解の専門的なコミュニケーション能力が鋭く問われる専門職である。本授業で意見交流を重視していのは、その能力を体験的にも学んでほしいからである。その体験の積み重ねを期待したい。
○受講生の率直な意見（質問、疑問、異なる意見など）は授業での学びを豊かにするものである。忌憚なく意見を授業担当者に伝えてほしい（伝え方の方法は授業で説明）。

01	ガイダンス　教育課程における生徒指導・進路指導とは何か
02	現代の子どもが問いかけていること（その１）　子どもの生きづらさ
03	現代の子どもが問いかけていること（その２）　集団のなかで生きる子どもたち
04	現代の子どもが問いかけていること（その３）「普通の子ども」の変化と思春期理解
05	生徒指導の問題理解（その１）　「いじめ」理解と対処方法
06	生徒指導の問題理解（その２）　「不登校」理解と対処方法
07	生徒指導の問題理解（その３）　「暴力行為」理解と対処方法
08	上記の生徒指導の問題に関する課題整理
09	生徒指導と学級づくり（その１）　実践記録の検討　仲間づくり
10	生徒指導と学級づくり（その２）　実践記録の検討　学級集団づくり
11	生徒指導と学級づくり（その３）　実践記録の検討　相談活動
12	進路指導の課題理解（その１）　進路指導・キャリアの意義・目的
13	進路指導の課題理解（その２）　進路指導・キャリア教育の実際
14	進路指導の課題理解（その３）　働くこと・仕事の魅力
15	まとめ
16	

2022年度シラバス

科目名:音楽	担当者:五十嵐 睦美、基村昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の授業内容を理解し、各分野（各2回）の体験を通して音楽活動の楽しさや音楽表現の面白さについて学ぶ。各分野の授業は個人演奏、グループワークを含めた実技演習を中心に行い、その都度実技試験、発表、振り返りを行う。【AL】

授業の到達目標
小学校音楽科の目標や内容について理解を深め、表現（歌唱、器楽、音楽づくり）及び鑑賞の活動に必要な基礎的な知識・技能を身につける。また、音楽的な見方・考え方を働かせ、表現を通して他者に伝える力を身につける。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
歌唱、器楽、音楽づくりは、実技が中心です。授業外でも歌や楽器に触れ、表現を工夫できるよう練習しましょう。
音楽づくりと鑑賞は、グループワークが中心です。これまで培った音楽知識を活かしながら互いに学びを深めることができるよう、教材について事前に調べたり、授業アイデアについて考えたりしましょう。

評価方法
歌唱及びリコーダーの実技試験(40%)、音楽づくりの発表(20%)、鑑賞の振り返り(20%)、平常点(20%)で評価する。平常点は担当教員が学習意欲、目標到達度等を総合して評価する。なお、実技試験は授業時間内に実施する。課題（実技試験、発表、振り返りシート）にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程』音楽之友社、2020年	小学校学習指導要領解説　音楽編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ソプラノリコーダーを各自用意してください。
授業に関する質問は、各授業担当者へ連絡してください。
連絡事項はすべてMoodleを通して行うため、各自こまめに確認をしてください。

01	小学校音楽科の目標と内容、歌唱共通教材（基村）
02	さまざまな歌唱形態（斉唱、輪唱、合唱）（基村）
03	ソプラノリコーダーの正しい奏法（基村）
04	ソプラノリコーダーを用いた合奏（基村）
05	打楽器を用いた音楽づくり（五十嵐）
06	旋律楽器を用いた音楽づくり（五十嵐）
07	鑑賞教材と〔共通事項〕とのかかわり（五十嵐）
08	日本の伝統音楽と鑑賞の授業づくり（五十嵐）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:家庭	担当者:辻岡 和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．小学校家庭科で取り扱う「衣・食・住」の分野における基礎知識の学習　（全4回）
２．調理実習、縫製実習、授業研究・教材研究などの演習　（適宜）
３．家庭科における教材研究とプレゼンテーション　（全4回）

授業の到達目標
①学習指導要領における小学校家庭科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。【DP】
②小学校家庭科の「衣・食・住」分野の内容について指導上の留意点・評価の考え方を理解している。【DP】
③小学校家庭科と背景となる領域との関係を理解し、教材研究に対する考えを仲間とともに深め合い、よりよい方法を追求しようとする力を身につけることができる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　生活のあらゆる場面で家庭科の内容をふり返り、住まい方への関心をもつとともに、生活に役立つ物の製作や調理を積極的に行って実践力を磨くこと。準備学修として、事前学習や事前課題を提示することがある。事後学修として、各回で設定する制作物や課題が完成していない場合は家庭で完成させる。模擬授業の準備を行う（指導案作成・教具の作成・授業時に使用する教材や食材の購入・模擬授業のための直前準備）

評価方法
プレゼンテーションを含む授業態度40%、提出課題60%で評価する。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書	参考図書 小学校学習指導要領解説　家庭編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス　学習指導要領における「小学校家庭」の目標および主な内容
02	小学校家庭科衣生活分野の概要および指導上の留意点①　手縫いの基礎
03	小学校家庭科衣生活分野の概要および指導上の留意点②　ミシンの使い方　児童への指導法
04	小学校家庭科食生活分野の概要および指導上の留意点①　栄養素のはたらき
05	小学校家庭科食生活分野の概要および指導上の留意点②　調理実習
06	小学校家庭科住生活分野の概要および指導上の留意点　4R SDGs と小学校家庭科
07	模擬授業
08	家庭科における効果的な発問、授業の工夫　総括
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:英語	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校における外国語活動及び外国語における教材研究を中心に、外国語科の授業づくりの基礎を学修する。英語に関する背景的な知識を土台に、小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要となる総合的な英語運用能力の習得を目指し、ペア、グループワーク・プレゼンテーション等の活動を積極的に取り入れ、コミュニケーションに焦点を置いた実践的なトレーニングを行う。【AL】

授業の到達目標
小学校における外国語活動及び外国語の授業実践に必要な基本的な英語表現を正確に運用する力を身につけるとともに、英語や言語習得に関する背景的な知識を理解する。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教材研究に必要な資料等は日頃から当たっておくこと。また、資料には事前に目を通し、まとめておくこと。

評価方法
グループワーク・ディスカッション等を含めた授業への参加度　20%　授業レポート　20%　提出物　20%　プレゼンテーション　40%　次回の授業時に前回授業における授業コメントに基づいたフィードバックを全体に行う。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　外国語編	授業内にて適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日本語だけでなく英語でのコミュニケーションのトレーニングにも積極的に取り組むこと。連絡手段等については授業内にて連絡する。

01	オリエンテーション：言語学と第二言語習得論
02	英語の音声と発音と綴りの関係
03	英語の語彙と文構造
04	児童文学（絵本と子ども向けの歌や詩）
05	異文化理解
06	英語コミュニケーション① 聞くこと・読むこと
07	英語コミュニケーション② 話すこと・書くこと
08	英語コミュニケーション③ 領域統合型の言語活動
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:乳児保育Ⅲ	担当者:太田 早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限: 乳児保育Ⅰ、Ⅱを受講したもの		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務者経験】保育士・保育所園長
乳児保育ⅠⅡで学修したに知識や技術をより深め、保育士の専門性や実践力を高めるための授業とする。乳幼児の発達の理解、子ども理解を深め、どのように関わると良いかを、映像や実践事例に基づき学修する（AL）。乳児保育における指導計画や記録、おたより帳の書き方、教材研究などを実際に考えながら学修する（AL）。保育現場における保護者支援や保育者どうしの連携や担当制についても知識を深めていく。

授業の到達目標
①乳児保育の基本的な考え方を基に乳幼児理解をさらに深め、乳児保育の在り方を考る（DP）。②保育士としての専門性や実践力をさらに高め、乳児保育に必要な知識や技術を主体的に身に着ける（ＤＰ）。③乳幼児に安心安全な保育を行うための環境構成の仕方・臨機応変な対応や配慮についてより深く学び、実践力を高める（ＤＰ）
【到達目標と深く関連する学科DP】◎主体的に学ぼうとする力○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
乳児保育に関する知識や技術をより深め、専門性・実践力を身に着け、保育士としての自覚を高めるための授業です。主体的に学修していくために以下のことに取り組みましょう。
保育所における乳幼児の生活の流れや保育士の関わり方を実習等を通して理解を深めましょう。
乳幼児の発達や子どもの動きや反応が理解できるよう、実際に子どもと触れ合う機会を持つようにしましょう。子どもの反応をどのように受け止めていいかが理解できるように、乳幼児を観察したり、積極的に関わるように実践力を高めていきましょう。手作りおもちゃや、3歳未満児向けの絵本についても主体的に研究していきましょう。

評価方法
筆記試験６0%。授業への参加態度２０％。レポート・提出物２０％を基準として総合的に判断する。フィードバック方法は毎回の授業時に学びや感想、質問を記載する。
筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
理論と実践に学ぶ「乳児保育」太田早津美（編）青踏社　・ 平成２９年告示保育所保育指針（フレーベル）	必要に応じ指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育実践力が豊かになるように、日ごろから乳幼児との関わりを持つようにしましょう。手遊びや、読み聞かせをする絵本や紙芝居などの教材研究をして、自分のレパートリーを増やしておきましょう。（研究室7402）

01	授業ガイダンス・3歳未満児の発達の理解と保育実践について
02	乳児保育における指導計画、評価について
03	保護者との連携（クラスだより、おたより帳の作成）
04	教材研究（手作りおもちゃの作成）
05	3歳未満児の保育の実際　その①
06	3歳未満児の保育の実際　その②
07	保育士の連携と協働について
08	定期試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育相談A	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園や小学校の教員には、子どもたちや保護者・地域からの相談に適切に応じることが出来る資質が求められている。教育相談の意義や目的を解説し、コミュニケーション力を高め自己理解や他者理解を深めるためにアクティブラーニングを毎回取り入れ、カウンセリングの理論と諸技法の修得を図る。さらに、毎回異なる学生とコミュニケーションをとることを通して様々な子どもや保護者とのコミュニケーション力の向上を図る。

授業の到達目標
1. 教育相談の知識と態度を理解し、自己理解・他者理解を深めることを通して、教育相談を実践するために必要な人間関係形成力やコミュニケーション力をつける（DP）2. 学校教育との関わりの中での幼児・児童の理解を深め、幼児・児童、そしてその保護者を支援する具体的な方法としてのカウンセリングの基礎的な知識・技術を習得する（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学んだカウンセリングの諸技法やアクティブラーニングによる体験活動を、日常のコミュニケーションに活用し、交友関係や家族との会話が円滑になった実感がもてるようになるまで使ってみることが大切です。
準備学修：日常生活や実習、ボランティアなどの子どもと関わる経験を通して、子どもの意図や欲求などの感情をイメージし、授業での学修と結び付けて考えることを心がけてください。子育て支援や家族機能の変遷などの子どもを取り巻く社会状況の変化などにも関心を持ち、自分なりの考えを持つようにしてください。授業で出す課題にしっかり取り組み授業を欠席した場合でも、その回の課題は提出してください。
事後学修：授業で配布するプリントは、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（試験、レポート）に対しては、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書 幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡方法・オフィスアワーは授業で開示します。 幼稚園や小学校の実習を通して子どもたちの会話や遊びなどを観察し、子どもの想いや行動を理解する力量を養ってください。新聞やニュースから、子どもや保護者の置かれている生活実態に関心をもってください。

01	幼稚園・小学校における教育相談の意義と課題を理解する
02	教育相談に関係する心理学の基礎的な理論・概念を理解する
03	カウンセリング理論について学ぶ
04	問題行動への対応－幼児期・児童期の心の問題の捉え方
05	心理アセスメントについて学ぶ
06	具体的事例（愛着障がい・虐待等）基本的概念の整理と事例検討のグループワークから教育相談の実際を学ぶ
07	チーム学校としての教育相談－保護者との教育相談と関係機関との連携について学ぶ
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:教育相談B	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
幼稚園や小学校の教員には、子どもたちや保護者・地域からの相談に適切に応じることが出来る資質が求められている。教育相談の意義や目的を解説し、コミュニケーション力を高め自己理解や他者理解を深めるためにアクティブラーニングを毎回取り入れ、カウンセリングの理論と諸技法の修得を図る。さらに、毎回異なる学生とコミュニケーションをとることを通して様々な子どもや保護者とのコミュニケーション力の向上を図る。

授業の到達目標
1. 教育相談の知識と態度を理解し、自己理解・他者理解を深めることを通して、教育相談を実践するために必要な人間関係形成力やコミュニケーション力をつける（DP）2. 学校教育との関わりの中での幼児・児童の理解を深め、幼児・児童、そしてその保護者を支援する具体的な方法としてのカウンセリングの基礎的な知識・技術を習得する（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
学んだカウンセリングの諸技法やアクティブラーニングによる体験活動を、日常のコミュニケーションに活用し、交友関係や家族との会話が円滑になった実感がもてるようになるまで使ってみることが大切です。
準備学修：日常生活や実習、ボランティアなどの子どもと関わる経験を通して、子どもの意図や欲求などの感情をイメージし、授業での学修と結び付けて考えることを心がけてください。子育て支援や家族機能の変遷などの子どもを取り巻く社会状況の変化などにも関心を持ち、自分なりの考えを持つようにしてください。授業で出す課題にしっかり取り組み授業を欠席した場合でも、その回の課題は提出してください。
事後学修：授業で配布するプリントは、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（試験、レポート）に対しては、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書 幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	小学校における教育相談の意義と理論及び実際の進め方について理解する
02	小学生の発達の理解と教育相談に必要な心理学の理論や技法の習得
03	教育相談で使われるカウンセリングの理論と技法を学ぶ
04	授業内で活用できるアセスメントの方法やカウンセリングの技法を習得する
05	教師の行う相談支援の利点を学び、その有効活用の方法を知る
06	具体的事例（いじめ）の基本的概念の整理と事例検討のグループワークから教育相談の実際を学ぶ
07	具体的事例（発達障がい）の基本的概念の整理と教育相談のグループワークから教育相談の実際を学ぶ
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:子育て支援	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
近年、核家族化や少子高齢化の進展などの社会情勢の変化に伴い、家族形態や機能が変化しています。また、発達障がいや情緒面の問題を持つ子どもの対応に悩み、育児ストレスを抱える保護者も少なくありません。この授業では子どもの発達の理解を深め、子育て支援についての演習をしっかり行い、保育現場で求められている相談支援の実践力をつけていきたいと考えています。授業方法は一斉授業及びグループ・ワークを行います。また、グループ調査・グループワーク、施設見学あるいは子育て支援の専門家による講演授業等を通じて、子育て家庭の現状や保護者のニーズを知り、多様な子育て家庭に対する支援の実際について考察する。

授業の到達目標
１．子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解する（DP）
２．子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：日常生活や実習、ボランティアなどで出会う親子を良く観察し、親子の関係性の理解に努め、授業での学修と結び付けて考えることを心がけてください。子育て支援や家族機能の変遷などの子どもを取り巻く社会状況の変化にも関心を持ち、自分なりの考えを持つようにしてください。授業で出す課題にしっかり取り組み授業を欠席した場合でも、その回の課題は提出してください。
事後学修：授業で配布するプリントは、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（試験、レポート）に対しては、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
二宮祐子著(2018) 子育て支援　萌文書林	平成29年告示保育所保育指針及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	子育て支援の意義・基本的価値・基本的姿勢ー子育て支援が求められる社会背景と意義
02	子育て支援の原則ー子どもの最善の利益
03	保育者の専門性を生かした子育て支援ー子育て支援の基本的技術
04	守秘義務に関する理解ー保育士倫理綱領
05	受容的関わりの理解ー傾聴と受容（グループワーク）
06	子育て支援の実践を学ぶー面接の基本的概念と概要
07	事例で学ぶー発達に個性を持つ子どもと精神疾患のある保護者への対応（カウンセリングの実習）
08	授業のまとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:知的障害教育論Ⅱ	担当者:小川 純子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】特別支援学校（知的障害）教諭、教頭、校長
特別支援学校（知的障害）教諭及び管理職として勤務した経験を踏まえ、知的障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニーズ及び教育現場の現状を踏まえた授業内容を計画・実施する。【AL】
知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた各教科等や教育課程編成、年間指導計画、個別の教育支援計画・個別の指導計画などについて、体験的な学習を中心として主体的に学ぶ。

授業の到達目標
①知的障害教育における教育課程編成の考え方をもとに、年間指導計画や個別の指導計画、授業の指導案等を作成できる。
②知的障害（発達障害を含む）のある子どもに関する知識・理解を深め、実態に応じた指導法、支援方法について考えることができる。
③知的障害教育の課題、教員の専門性について理解し、自ら専門性を高めるように行動することができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としては、特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領を読み込んでおくこと。また、日常的に障害児・者に関するニュース、話題、映画などに触れ、自分自身の疑問や考えを持てるようにすること。事後学修としては、指示されたレポート等の課題に必ず取り組むこと。

評価方法
授業への参加態度（１０%）、課題（４0%）、定期試験（５0%）の達成度をもとに総合的に評価する。課題等に関するフィードバックは次回講義内及びメールで行う。

教科書	参考図書
プリント資料	特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領及び解説（総則編、自立活動編） 特別支援教育の基礎・基本 特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領及び解説（総則編、自立活動編） 特別支援教育の基礎・基本 特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領及び解説 特別支援教育の基礎・基本 特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領及び解説　特別支援教育の基礎・基本

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
半期学んだことをベースとして、さらに実践的な学びを深めていきましょう。自分で考え、その考えを仲間と共有し、さらに深めていきましょう。そこから実践的な力がついてくると考えます。
連絡先は授業で開示します。

01	オリエンテーション　我が国における知的障害教育の歴史
02	発達障害と知的障害（１）　ダウン症等の知的障害を中心に
03	発達障害と知的障害（２）　自閉症を中心に
04	知的障害特別支援学校における教科別の指導（生活科、国語科、算数・数学科を中心に）
05	知的障害特別支援学校における領域別の指導（自立活動、特別活動を中心に）
06	知的障害のある児童生徒の自立活動の実際（仮想事例から個別の指導計画を作成する）
07	知的障害特別支援学校における各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導) 知的障害特別支援学校における各教科等を合わせた指導（日常生活、遊びの指導）
08	知的障害特別支援学校における各教科等を合わせた指導（作業学習、生活単元学習）
09	知的障害児教育における実態把握と個別の教育支援計画
10	知的障害児教育における学習指導案作成と学習評価
11	知的障害教育における交流及び共同学習の実際
12	（知的障害のある児童生徒が在籍する）特別支援学級における教育課程と指導
13	知的障害教育の専門性
14	知的障害者の自立と社会参加
15	本講義のまとめ
16	なし

科目名:肢体不自由教育論Ⅱ	担当者:猶原 秀明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
脳性まひや筋ジストロフィー症など様々なタイプの肢体不自由児に関する障害の成り立ちと実態について、その概要を解説する。特別支援学校現場での実務経験を活かして、特別支援学校の肢体不自由領域における指導内容、指導方法、教育的支援の在り方について教育課程を踏まえて解説する。
自立活動において多く実践されている動作法について実技を交えて解説する。

授業の到達目標
脳性まひをはじめ、特別支援学校に在籍する様々なタイプの肢体不自由児の理解とそれらの子ども達への指導と教育支援、発達支援の在り方について、特に教育現場での実践を踏まえた理解を目指す（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○ 知識・技能　　◎ 思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業資料をよく読み、理解と必要な知識の習得に努めること。

評価方法
授業への取り組み、課題の提出（30%）とまとめの課題（70%）により総合的に評価する。
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書	参考図書
指定しない	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で伝えるメールアドレスあてにメールで連絡すること。

01	オリエンテーション
02	肢体不自由教育について（1）特別支援教育とは
03	肢体不自由教育について（2）肢体不自由教育の現状
04	肢体不自由教育についての理解（1）肢体不自由とは
05	肢体不自由教育についての理解（2）子どもの発達
06	肢体不自由教育についての理解（3）発達と反射
07	特別支援学校での教育課程と教育実践について（1）コミュニケーション1
08	特別支援学校での教育課程と教育実践について（2）コミュニケーション2
09	特別支援学校での教育課程と教育実践について（1）動作法1
10	特別支援学校での教育課程と教育実践について（2）動作法2
11	肢体不自由児への自立活動（1）学習指導要領1
12	肢体不自由児への自立活動（2）学習指導要領2
13	肢体不自由児への自立活動（3）ポジショニング
14	肢体不自由教育での指導の安全と配慮
15	まとめ
16	

2022年度シラバス

科目名:聴覚障害児の心理・生理・病理	担当者:大島 光代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
聴覚の仕組みや聴覚障害の原因についての知識を得るとともに、聴覚障害児の教育の歴史や、ことばと文化に触れながら、聴覚に障害があることによって生じる言語獲得や言語力における課題、発達段階ごとの教育支援や言語指導方法について学ぶ。特にコミュニケーション方法の選択による様々な課題、アイデンティティの形成、家族との関係性、保護者を含めた障害認識・障害受容について具体的に論じる。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力
聴覚障害児の原因や実態を踏まえながら、その心理発達や家族を含めた心理的支援、言語獲得や教育支援の具体的な方法について理解する（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
コミュニケーション手段である手話や指文字に関心をもち各自学修の機会を設けるとともに、文部科学省HP（特別支援教育）や国立特別支援教育総合研究所HPを閲覧することにより、聴覚障害児教育についての基礎知識や特別支援教育の最新情報と動向について理解しておくこと。

評価方法
レポート：40％
平常点（出席状況、小レポート等、授業内での発言）：60％
フィードバックは、授業時等において、レポート等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書	参考図書
必要な資料については、適宜配付する。	言語聴覚士のための事例で学ぶことばの発達障害　編者大石敬子　医歯薬出版株式会社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
聴覚障害教育について、現場経験を活かしながら講義をすすめるので、疑問点等多くの質問を前向きに行って欲しい。

01	オリエンテーション（授業の目標・進め方・評価）・聴覚障害の定義
02	聴覚障害の原因と聴覚管理・活用（聴覚生理および病理）
03	聴覚障害児教育の歴史
04	聴覚障害児の発達課題（聴覚障害に起因する２次的３次的障害）
05	コミュニケーション手段とアイデンティティの課題（心理）
06	聴覚障害児の言語獲得を目指した教育支援・指導方法
07	聴覚障害児教育における教材開発と保護者支援
08	まとめ（テスト）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:発達障害の理解	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
ここまでの学修内容を踏まえて、発達障害（知的障害含む）に関する発展的な学修を行う。発達障害支援に関する幅広い手立てを学んでいくとともに、発達障害のある人とむかいあう自分自身の態度・姿勢について考えを深めていく。各回、事例検討会を行い、担当者が個人発表を行い、全体で議論する。

授業の到達目標
１、発達障害のある幼児・児童に対する幅広い手立てを身につける。
２、発達障害のある幼児・児童へのむかいあい方を省察することを通して、自身の教育・保育観、障碍観を豊かにしていく（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
これまでの実習、インターンシップ、ボランティア、アルバイト等で出会ったきた、発達障害（知的障害を含む）のある幼児・児童の事例、または、発達障害傾向のある幼児・児童の事例について発表するため、これまでの実践経験を振り返っておいてください。また事例検討に関連する論文・書籍等を調べてみてください。

評価方法
個人発表（40%）事後レポート（30%）発表に対する意見・質問等の発表（20%）出席態度（10%）発表に対するフィードバックを行う。

教科書 なし	参考図書 随時、紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
2年生の特別支援基礎論の続きになります。4年生の集大成として、各個人の力を高めていくことを目指します。発表は大変ですが、乗り越えることで力をつけることができます。
katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	自閉症のある幼児・児童に関する事例検討会
03	ＡＤＨＤのある幼児・児童に関する事例検討会
04	ＬＤのある幼児・児童に関する事例検討会
05	知的障害のある幼児・児童に関する事例検討会
06	配慮を要する幼児・児童（発達の遅れを含む）に関する事例検討会
07	インクルーシブな保育・教育に関する事例検討会
08	発達障害のある幼児・児童を育てる親・家族に関する事例検討会
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:聴覚障害教育論	担当者:大島 光代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
聴覚障害教育における現状及び音声言語を身につける口話法、手話、トータルコミュニケーション等の活用における成果と課題を検討するとともに、インテグレーション教育からインクルーシブ教育への変遷に触れながら、聴覚障害児の認知・言語的な発達の特徴及び具体的な教育・指導の内容について学習する。さらに聴覚障害教育における課題についての理解を深める。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力
聴覚障害教育における現状と聴覚障害児教育史をふまえた課題を理解するとともに、聴覚障害児教育におけるインテグレーション教育・インクルーシブ教育への考察を深め、特別支援教育体制の中での聴覚障害児教育にあり方についての理解を深める（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
コミュニケーション手段である手話や指文字に関心をもち各自学修の機会を設けるとともに、文部科学省HP（特別支援教育）や国立特別支援教育総合研究所HPを閲覧することにより、聴覚障害児教育についての基礎知識や特別支援教育の最新情報と動向について理解しておくこと。

評価方法
レポート：40%
平常点（出席状況、小レポート等、授業内での発言）：60%
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書	参考図書
必要な資料については、適宜配付する。	改訂聴覚障害Ⅱ―臨床編　山田弘幸　建帛社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
聴覚障害教育について、現場経験を活かしながら講義をすすめるので、疑問点等多くの質問を前向きに行って欲しい。

01	聴覚障害に関する基礎的知識：音の耳の仕組みと音の性質
02	聴覚障害に関する基礎的知識：聴覚障害の種類と補聴器・人工内耳
03	聴覚障害教育に関する教育機関：特別支援学校と特別支援学級・通級指導教室
04	言語獲得における課題（手話・人工内耳）と教育支援・保護者支援
05	聴覚障害の指導方法：乳幼児（入学前）
06	聴覚障害の指導方法：児童及び生徒（教科学習・自立活動）
07	聴覚障害教育における近年の動向と課題
08	まとめ（テスト）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:重複障害等教育論	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
重複障害教育に関する基礎的な知識の習得から、実際の学校現場における指導方法および支援の方策について学ぶ。参加者同士で体験したり、検討したりする中で、特別支援教育教員として必要な力量について考察する。

授業の到達目標
①重複障害教育の理念や課題、また対象となる幼児児童生徒の特徴を理解する。[DP]
②重複障害児への支援・指導のあり方について仲間と協働して検討できる。[DP]
③重複障害教育に携わる教員として必要な知識・技能・態度を培う。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
重複障害児・者に係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
授業内課題（40%）、小テスト（20%）、授業への参加態度（40%）により総合的に評価する。
授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領 ②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部） ③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）	①特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部） ②幼稚園教育要領 ③小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
重複障害児の教育方法について理解することによって、特別の教育的ニーズに応じた適切な支援・指導ができるようになる。他の特別支援教育に関わる科目と関連させながら理解を深めてほしい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、重複障害児の定義、重複障害児教育の現状と課題
02	重複障害の病因、重複障害児の発達（運動、認知、社会性）
03	重複障害児の教育課程
04	重複障害児への学習指導（身体の動きを通した学習指導の意義）
05	重複障害児の障害特性を踏まえた授業作り（自立活動）
06	模擬授業発表・相互検討
07	重複障害児への学習指導上の留意点
08	重複障害児に必要な教育的支援（姿勢管理、健康管理、環境設定）本講義のまとめ、小テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅳ	担当者:森川 拓也・松永 康史・辻岡 和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限: 学校インターンシップ指導　学校インターンシップの履修者		単位数	3
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
小学校における３週間の教育実習を行う。教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら児童と関わる中、初等教育の基本・教師としての職業倫理などの理解を深め、発展的な知識・技術・態度の実践的な履修をめざす。 同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの教育観を形成していく。

授業の到達目標
①小学校における教育実習の意義や目標、課題を理解し、現場に立つ教員としての意識を高めることができる【DP】
②学級担任の立場にとして、授業づくり、学級経営を適切に行う力量を高めることができる【DP】
③研究授業や児童への指導などを通して、自身の課題を意識し、今後の学びに活かす手立てを具体的にもつことができる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅳで学んだことをよく確認すること。 ②事前訪問時に実習校からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。③事前に担当学年の教材研究をしておくこと

評価方法
フィードバック：研究授業を参観し、講評を行う
実習校からの評価 50%、実習日誌 20%、実習事後レポート 10%、 その他（実習への意欲・実習状況・巡回指導報告書など）20%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅳハンドブック（大学から配布）	教育実習Ⅳハンドブック（小学校）、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書　愛知県教員研修の手びき

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅳ」を履修し、小学校教員を志す強い意志があることが条件となる。② 実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること。（急病などで急に欠席する場合は、実習校には午前7時30分までに、大学には午前9時30分までに電話連絡すること。大学の受付は教務課実習担当：0562－85－2345

01	実習実施期間：2022年6月1日（火）を含む３週間の小学校における実習で、観察、参加、実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。 ① 幼稚園・小学校の役割や機能についての理解 ② 小学校における子どもの実際についての理解 ③ 観察、参加、実習等を通して小学校の教育（教科・道徳・外国語活動・総合 的な学習の時間、特別活動、生徒指導等）の実際についての理解 ④ 特別支援保育・教育についての理解 ⑤ 外国語活動についての理解 ⑥ 幼稚園・小学校と家庭、地域との関係についての理解
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ｖ	担当者:小柳津 和博・柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限: 教育実習指導Ｖを履修していること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・特別支援学校における２週間（実習校の指定により3週間の場合もある）の教育実習を行う。
・今までの学びや体験をいかし、自ら課題をもちながら特別支援教育を必要とする幼児児童生徒と関わる中で、特別支援学校での教育の実際を学ぶ。
・教師としての職業倫理などの理解を深め、発展的な知識・技術・態度の実践的な履修を目指す。
・修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、特別支援学校教師としての専門性や資質を理解して特別支援教育における教育観を形成していく。

授業の到達目標
①特別支援学校の役割や機能について実際に即して学ぶ[DP]
②幼児児童生徒の実際の姿や活動を通して子ども理解を深める。[DP]
③実践・授業の観察、参加、（指導）実習等を通して、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間、特別活動、自立活動等の実際について理解する。[DP]
④家庭・地域・関係機関との連携について理解する。[DP]
①～④から自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康管理や養護に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を日頃から自覚して行うこと。
実習実施に先立ち、教育実習指導Ｖで学んだことをよく理解すること。事前訪問時に実習校からいただいた指導をよく確認して実習の事前準備をすること。

評価方法
実習校からの評価 50%、実習日誌 20%、実習事後レポート 10%、 その他（実習への意欲・実習状況・巡回指導報告書など）20%を総合して評価する。
実習終了後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
教育実習Ｖ手引き（大学より配布）	①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領 ②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部） ③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） ④特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習指導Ｖ」を履修し、特別支援学校教員を志す強い意志があることが条件となります。② 実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること。（急病などで急に欠席する場合は、実習校には午前7時30分までに、大学には午前9時30分までに電話連絡すること。大学の受付は教務課実習担当：0562－97－5503）。

01	実習実施期間：実習校が指定する期間の２週間の特別支援学校における実習で、観察、参加、実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。 ①特別支援学校の役割や機能についての理解 ②特別支援学校における子どもの実際についての理解 ③観察、参加、実習等を通して特別支援学校の教育（教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間、特別活動、自立活動等）の実際についての理解 ④家庭、地域、関係機関との連携についての理解稚園・小学校と家庭、地域との関係についての理解
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習指導Ⅳ	担当者:森川 拓也・松永 康史・辻岡 和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:　学校インターンシップ指導　学校インターンシップの履修者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
教育実習Ⅳのための事前事後指導として、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標
①小学校における教育実習の意義や目標、課題を理解し、自らの課題を意識して学びを深める【DP】
②学級担任の立場に立つ心構えを備え、授業づくり、学級経営に必要な知識・技能を高め、実習の準備ができる【DP】
③授業づくり、学級経営の具体的方法について、グループ学習や模擬授業等通して協同的に学び合うことができる【DP】
④教育実習を振り返り、自己課題を把握し、教員としての力量を高めるための学びを広げる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
それまでの実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。指導案作成などが課題となる

評価方法
フィードバック：個別の課題やグループワークについて適宜評価し、課題点や留意事項などを伝える
事前課題（ワークシート・指導案発表）50%、事後課題（実習ノート・事後課題発表ワークシート）40%、授業への意欲10%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
教育実習ハンドブック（大学から配布）	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書　愛知県教員研修の手引き

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、小学校教員を志すこと　　連絡手段は授業内に伝える

01	1　教育実習Ⅳの課題と事前事後指導の計画の理解 2　小学校における授業や学級経営の実際 3　教材研究の方法 4　学習指導案の作成方法 5　児童理解と学級経営の方法 6　観察・参加・実習　について 7　事前訪問のための学内指導　直前指導 8　教育実習事後指導
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習指導Ⅴ	担当者:小柳津 和博・柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限: 当該年度の教育実習Ⅴの履修を希望していること。教育実習Ⅰ・Ⅱを履修済であること。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育実習Ⅴのための事前事後指導として、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題にいかしていく。

授業の到達目標
①特別支援学校教育実習の意義や目標を理解する。[DP]
②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む。[DP]
③観察実習、参加実習、授業実習の内容について理解し、準備、実践、振り返りに意欲的に取り組む。[DP]
④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学修や就職にいかしていく。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1・2・３年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案発表）50%、事後課題（ワークシート）40%、授業への意欲10%を総合的に評価する。
各課題の後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
教育実習Ⅴ手引き（大学より配布）	①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領 ②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部） ③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） ④特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、特別支援学校教員を志すこと。無断欠席は実習そのものの履修資格を失います。やむを得ず遅刻や欠席をする場合、事前であれば教育・保育職支援センターに連絡すること。当日の場合は、教務課実習担当に自分で連絡すること。教育実習Ⅴを再履修する学生においても、教育実習指導Ⅴも再受講することが原則で、実習履修資格となります。

01	１、オリエンテーション（教育実習Ⅴの位置づけ・目標・課題）、事前訪問についての説明 ２、実習校の教育について ３、授業参観・参加記録の書き方 ４、特別支援学校教員から学校現場の話を聞き、現状を学ぶ ５、指導案の書き方 ６、実習直前指導（諸注意、各自の課題整理・確認） ７、実習事後指導①（学びの振り返り・交流） ８、実習事後指導②（自己課題の明確化・交流）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教職実践演習（幼・小）	担当者:金子晃之・辻岡 和代・上村 晶・小柳津 和博・松永 康史・五十嵐 睦美・伊藤 茂美・内田将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　教職課程（小免・幼免）に関する学修の集大成としての演習となる。保育学科DPの中の、主体的に学ぶ力(DP1)、他者と共有し学び合う力(DP2)、知識・技能、思考力・判断力・表現力(DP3)と共に、文部科学省が要請する教師としての力、本学科が目標とする教師像、教育専門職を巡る政策の流れを含めて、教職課程の学びを振り返り、教職生活の出発点としての教師像を明確に描き、学び続ける教師としての今後の展望を明確にする。方法は、各回、グループ・ディスカション、ICTを用いたプレゼンテーションを行い、ICT活用力も確認する。

授業の到達目標
　文部科学省が要請する教師としての力である、①教員の使命や責任を自覚し、自主的・積極的に自己課題を立て学び続ける姿勢、②他の教員との協力や保護者・地域住民との連携の重要性の理解、③子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができる学級経営の基礎、④「小学校学習指導要領」や「幼稚園教育要領」に対応した教職と教科の的確な指導力・実践的なマネージメント力が身に付いていることを確認する。そして本学科が目標とする教職課程教師像の到達すべき目標を含めての振り返りを行ない、⑤スタートとしての自己の教師像を明確にする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　各回、授業時に発表し討論する内容（事前課題）に９０分以上、授業後のまとめ（事後課題）を３０分以上行う。

評価方法
　提出課題（事前課題＝発表シート、事後課題＝授業ノート等）が８０点、参加・発表の姿勢が２０点で、合計100点満点で評価する。欠席回については、欠席課題を課す。その詳細については初回に指示する。

教科書	参考図書
特に設定しない。毎回、ムードルを経由して資料と課題を配布する。	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参すること。ムードルを経由して課題や資料等を配布し、ムードルを経由して提出する。　連絡先は初回に指示する。

01	今日の教員養成の課題、保育学科の教職課程が目指す教師像、教職実践演習の目的について
02	「学びのカルテを通した教職課程　振り返りシート」（１）（２）の検討
03	「学びのカルテを通した教職課程　振り返りシート」（３）（４）の検討
04	外部講師講義①　養護教諭　（講義内容に基づいたグループ・ディスカションを行う）
05	外部講師講義②　小学校教諭　（講義内容に基づいたグループ・ディスカションを行う）
06	外部講師講義③　幼稚園教諭　（講義内容に基づいたグループ・ディスカションを行う）
07	外部講師講義④　特別支援学校教諭　（講義内容に基づいたグループ・ディスカションを行う）
08	「桜花学園大学保育学科・教師像　振り返りシート」（１）（２）の検討
09	「桜花学園大学保育学科・教師像　振り返りシート」（３）（４）の検討
10	教職・教科内容の補足①　　オムニバス形式の演習
11	教職・教科内容の補足②　　オムニバス形式の演習
12	教職・教科内容の補足③　　オムニバス形式の演習
13	教職・教科内容の補足④　　オムニバス形式の演習
14	「自分が目指したい教員像シート」（１）（２）の検討
15	「自分が目指したい教員像シート」（３）（４）の検討
16	なし

科目名:保育実習Ⅱ	担当者:金子 晃之・堀 由里・樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて、保育所での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援・保育士としての職業倫理等に関する発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す（AL）。より多くの有意義な学びができるよう、実習前には保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、指導案の作成・発表等を行うことで準備を進め、実習後はグループ討議等を通して実習を振り返り、自己の課題を明確化する（AL）。

授業の到達目標
1）保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める（DP）。
2）子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める（DP）。
3）既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する（DP）。
4）保育の計画・実践・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める（DP）。
5）保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践に結びつけ理解する（DP）。
6）自己の課題を明確化する（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康を中心とした自己管理や、保育に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を、学生各自が自覚して日頃から意識的に行うようにして下さい。実習実施に先立ち、保育実習指導Ⅱで学んだことをよく確認すること。また事前訪問時に実習園からいただいた資料やご指導をよく理解して入念な準備を行うこと。実習後は、自身が実習を通して学んだことをよく振り返り整理して、今後の自己の課題を明らかにし、その達成に向けて計画的に取り組み、実践力を高めましょう。

評価方法
実習園からの評価（60%）、実習日誌（20%）、実習事後レポート（10%）。その他、実習への取り組み（10%）を総合して評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅱ手引き、実習ハンドブック（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
大学生活最後の実習であることの重要な意味を各自よく胸に刻み、真摯に実習に取り組みましょう。
連絡手段等については、授業時に指示します。

01	学生自らの課題意識に基づき、学外の保育所で、以下の内容について2週間の実習を実施する予定である。 1）観察・参加実習 ①保育の概要の理解、②当該施設の人的・物的・地域的環境についての理解、③在園児の行動や姿の観察・理解、④保育士の職務内容と役割についての概要の理解、⑤家庭や地域社会との関係についての概要の理解 2）参加・指導実習 ①保育全般に参加しながら、子どもの生活や発達、ニーズについての体験的な学習（特に、子どもの個人差についての理解と対応、発達の遅れや偏り、生活環境に伴う子どものニーズについての理解と対応について）　②保育全般に参加しながら、保育の方法や技術の体験的な学習　③指導計画についての立案・実践を通しての体験的な学習　④職員間の役割分担とチームワークについての体験的な学習　⑤子どもの最善の利益を具体化する方法についての体験的な学習 ⑥保育士としての倫理・使命・責任等についての体験的な学習
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅲ	担当者:寺田 泰人・嶋守 さやか・樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:原則、当該年度の保育実習指導Ⅲを履修すること（未履修者は本実習に参加することはできない） 保育実習Ⅰの単位を修得していること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて、保育所以外の児童福祉施設での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援・保育士としての職業倫理等に関する発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。より多くの有意義な学びができるよう、実習前には保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、援助案の作成・発表等を行うことで準備を進め、実習後はグループ討議等を通して実習を振り返り、自己の課題を明確化する。（A L）

授業の到達目標
1）既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する（D P）。
2）家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する（D P）。
3）保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する（D P）。
4）実習おける自己の課題を理解する（D P）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康を中心とした自己管理や、保育に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を、学生各自が自覚して日頃から意識的に行うようにすること。実習実施に先立ち、保育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認すること。また事前訪問時に実習施設から配布された資料や指導をよく理解して入念な準備を行うこと。実習後は、自身が実習を通して学んだことをよく振り返り整理して、今後の自己の課題を明らかにし、その達成に向けて計画的に取り組み、実践力を高めること。

評価方法
実習施設からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況等）10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
大学生活最後の実習であることの重要な意味を各自よく胸に刻み、真摯に実習に取り組みましょう。
連絡手段等については、授業時に指示します。

01	学生自らの課題意識に基づき、保育所以外の児童福祉施設で、以下の内容について概ね10日間の実習を実施する予定である。 1）観察・参加実習 ①保育の概要の理解、②当該施設の人的・物的・地域的環境についての理解、③利用者の行動や姿の観察・理解、④保育士の職務内容と役割についての概要の理解、⑤家庭や地域社会との関係についての概要の理解 2）参加・指導実習 ①業務全般に参加しながら、利用者の生活や発達、ニーズについての体験的な学習 ②業務全般に参加しながら、保育の方法や技術の体験的な学習 ③援助計画についての立案・実践を通しての体験的な学習 ④職員間の役割分担とチームワークについての体験的な学習 ⑤利用者の最善の利益を具体化する方法についての体験的な学習 ⑥保育士としての倫理・使命・責任等についての体験的な学習
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習指導Ⅱ	担当者:金子 晃之・堀 由里・樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅱを充実したものにするための事前事後指導を行う。事前指導では、実習の在り方や指導案の作成、実習への心構え等について学び、事後指導では省察を通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で、保育実践力を培うことを目指す。基本的にクラスごとに演習形式で行う（AL）。

授業の到達目標
1）保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅱでの実践に活かすことができる（DP）。
2）実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題・留意事項等をよく理解している（DP）。
3）自己の実習体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から自己を振り返り、実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。
実習に必要な知識・技術・態度は、自主的に修得し磨いていくこと。

評価方法
事前課題：課題レポート・指導案の提出、発表等（65%）
事後課題：実習日誌、実習レポート、事後振り返りシート、体験発表等（35%）
を総合的に評価する
事前課題は、当回もしくは翌回の授業時にフィードバックを行い、事後課題は授業内でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育実習Ⅱ手引き、実習ハンドブック（大学より配布）	29年度告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は厳禁であり、実習そのものの履修資格を失う。止むを得ず欠席や遅刻をする場合は、教務課実習担当に必ず自分で連絡をすること。欠席者には課題を出すため、必ず担当教員を訪ね指導を受けること。保育実習Ⅱを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅱを再受講することが原則であり、実習の履修資格となる。
教員への連絡手段は授業時に提示する。

01	オリエンテーション：保育実習Ⅱの位置づけ、目標、課題、事前訪問での注意点
02	発達理解：1-6歳までの子ども身体・運動、認知、言語、社会性の発達
03	人権：子どもを尊重する保育
04	指導案・日誌の書き方：添削を通して記述を再確認する
05	教材研究：廃材を利用して遊びを考える
06	実践：製作した教材と宿題の指導案をグループ内で披露し、省察する
07	事後指導：個別面談
08	事後指導：学びを他者に伝える
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習指導Ⅲ	担当者:寺田 泰人・嶋守 さやか・樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:当該年度の保育実習Ⅲの履修を希望していること。保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修済であること。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅲを充実したものにするための事前事後指導を行う。事前指導では、実習の在り方や援助案の作成、実習への心構え等について学び、事後指導では省察を通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で、保育実践力を培うことを目指す。基本的にクラスごとに演習形式で行う（A L）。

授業の到達目標
1）保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅲでの実践に活かすことができる（D P）。
2）実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題・留意事項等をよく理解している（D P）。
3）自己の実習体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる（D P）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から自己を振り返り、実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。実習に必要な知識・技術・態度は、自主的に修得し磨いていくこと。

評価方法
事前課題（授業課題シート、援助案、発表、提出物等）50%、事後課題（実習日誌、実習レポート、実習振り返りシート、体験発表等）40%、授業への参加態度10%で総合的に評価する。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は厳禁であり、実習そのものの履修資格を失う。止むを得ず欠席や遅刻をする場合は、教育・保育職支援センターに必ず自分で連絡をすること。欠席者には課題を出すため、必ず担当教員を訪ね指導を受けること。保育実習Ⅲを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅲを再受講することが原則であり、実習の履修資格となる。
教員への連絡手段は授業時に提示する。

01	オリエンテーション（保育実習Ⅲの位置づけ・目標・課題）、事前訪問についての説明
02	福祉施設利用者との交流
03	施設長先生から施設での保育現場のお話を聞き、現状を学ぶ
04	児童福祉施設での援助案演習①　援助案の書き方説明、案の作成
05	児童福祉施設での援助案演習②　援助案の発表・交流（グループ別）
06	児童福祉施設での援助案演習③　援助案の発表・交流（グループ別）
07	実習直前指導（諸注意、各自の課題整理・確認）
08	実習事後指導（各自の振り返り及び実習体験を通して学んだことの発表・交流）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実践演習	担当者:古畑 淳・基村 昌代・太田 早津美・堀由里・樋口 桂子・嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:保育士資格		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
グループ討議、ロールプレイイング等を通し、保育に関する知識や技術などのこれまでの自らの学びを、実習体験と結びつけながら学修する（AL）。専門職として必要な知識、総合的な能力や倫理観が習得、形成されたかについて自らの学びを振り返り把握する。それらをふまえ、自己の課題を明確にし保育実践に必要な知識、技術、資質を定着させる。

授業の到達目標
①保育士として必要な専門的な知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得と形成について自らの学びを振り返り把握する（DP）。②保育実習等を通した自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題を分析し、保育士や保育現場、地域社会に求められることは何かを多様な視点から考察する力を習得する（DP）。③自己の課題を明確にし、保育実践に必要となる基礎的資質・能力を定着させる（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】〇協同的に学び合う力◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育士資格を習得し、保育士として働くための自覚を持つために重要な授業です。専門職としてのふさわしい態度や知識、技術を身につけるためにも以下のことを自主的に学修しましょう。
①保育実習に必要な知識や技術は自らの課題や目標に照らし合わせ、保育関係科目を復習し、自主的に学修する。　②保育に関する現状や課題に関心を持ち、その要因や背景、課題の解決方法について考察する。③コミュニケーション能力を高めるために、多くの人との対話を楽しみながら、より良い人間関係づくりに努める。

評価方法
定期試験５０％、提出物・課題レポート30%。授業への参加態度２０％を総合的に判断し評価する。
筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を授業時に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
使用しない（資料配布）	保育所保育指針＜29年告示＞フレーベル館、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領＜29年告示＞フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から健康管理に留意し、保育士として必要な体力を身に着けるようにしましょう。保育士としての役割を意識し、職業倫理や、社会人としてふさわしい考え方や態度が身につくよう自己研鑽しましょう。研究室7402（太田）

01	ガイダンス（本教科の意義、授業内容の進め方についての説明）保育士として働くこと
02	保育実践のための教材研究　（保育実践１）
03	保育実践のための教材研究　（造形実践）
04	保育実践のための教材研究　（音楽実践）
05	保育に関わる現代的課題についてのグループワーク（１）保護者、職員との連携と人間関係
06	保育に関わる現代的課題についてのグループワーク（２）保育現場における危機管理とその対応
07	保育に関わる現代的課題についてのグループワーク（３）支援の必要な子どもの理解と支援
08	学びの振り返り（４）保育士としての社会性、対人関係能力
09	学びの振り返り（５）保育士としての判断力、対応能力と関係機関との連携
10	学びの振り返り（６）多様な子どもや子育て家庭への支援の展開
11	実践力を高めるための教材研究　（造形実践）
12	実践力を高めるための教材研究　（音楽実践）
13	保育士の意義や役割、職業倫理
14	保育実践者との交流から学ぶ（保育現場の現状を聞き、実習体験での疑問や課題を討論する）
15	まとめ（これまでの学びや保育実習等での体験から、自己の課題を記述し明確化する）
16	定期試験

科目名:卒業研究演習Ⅰ	担当者:淺野 卓司・辻岡 和代・古畑 淳・基村 昌代・太田 早津美・上村 晶・金子 晃之・勝浦 眞仁・森川 拓也・小柳津 和博・松永 康史・五十嵐 睦美・寺田 泰人・堀 由里・柏倉 秀克・嶋守 さやか・伊藤 茂美・小原倫子・内田将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習

免許･資格:	開講時期	前期
	配当学年	4
受講者制限:履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。	単位数	1
	必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究演習は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめることを課題とする。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。指導方法は、主に個別指導とゼミ全体の集団指導となる。

授業の到達目標
①個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる【DP】
②個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる【DP】
③個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識・技能・体験を理解し身に付けている
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分の研究テーマを考察する作業（文献研究、フィールドワーク、アンケート調査、データ分析等）は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
fフィードバック：個別指導及び集団指導の中で、適宜講評し課題点や留意事項などを直接伝える
課題提出物（70点）、参加態度（30点）を合計して100点満点で評価する。卒業研究報告会への参加・発表は、単位修得の際の前提条件とする。

教科書 各教員が指示する	参考図書 各教員が指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業要件　４年ゼミ（卒業研究演習）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。
但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　各教員へ尋ねること。

01	卒業研究指導について
02	教職履修カルテの振り返り
03	卒業研究についての個別指導＆集団指導①
04	卒業研究についての個別指導＆集団指導②
05	卒業研究についての個別指導＆集団指導③
06	卒業研究についての個別指導＆集団指導④
07	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑤
08	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑥
09	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑦
10	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑧
11	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑨
12	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑩
13	卒業研究についての個別ゼミ中間報告①
14	卒業研究についての個別ゼミ中間報告②
15	卒業研究についての個別ゼミ中間報告③
16	なし

科目名:卒業研究演習Ⅱ	担当者:淺野 卓司・辻岡 和代・古畑 淳・基村 昌代・太田 早津美・上村 晶・金子 晃之・勝浦 眞仁・森川 拓也・小柳津 和博・松永 康史・五十嵐 睦美・寺田 泰人・堀 由里・柏倉 秀克・嶋守 さやか・伊藤 茂美・小原倫子・内田将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習

免許・資格:	開講時期	後期
	配当学年	4
受講者制限:履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。	単位数	1
	必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究演習は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめることを課題とする。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。指導方法は、主に個別指導とゼミ全体の集団指導となる。

授業の到達目標
①個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる【DP】
②個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる【DP】
③個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識・技能・体験を理解し身に付けている
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
自分の研究テーマを考察する作業（文献研究、フィールドワーク、アンケート調査、データ分析等）は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
フィードバック：個別指導及び集団指導の中で、適宜講評し課題点や留意事項などを直接伝える
課題提出物（70点）、参加態度（30点）を合計して100点満点で評価する。卒業研究報告会への参加・発表は、単位修得の際の前提条件とする。

教科書 各教員が指示する	参考図書 各教員が指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業要件　４年ゼミ（卒業研究演習）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。
但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　各教員へ尋ねること。

01	卒業研究についての個別指導＆集団指導①
02	卒業研究についての個別指導＆集団指導②
03	卒業研究についての個別指導＆集団指導③
04	卒業研究についての個別指導＆集団指導④
05	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑤
06	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑥
07	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑦
08	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑧
09	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑨
10	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑩
11	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑪
12	卒業研究抄録集の指導
13	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション①
14	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション②
15	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション③
16	なし

科目名:卒業研究	担当者:淺野 卓司・辻岡 和代・古畑 淳・基村 昌代・太田 早津美・上村 晶・金子 晃之・勝浦 眞仁・森川 拓也・小柳津 和博・松永 康史・五十嵐 睦美・寺田 泰人・堀 由里・柏倉 秀克・嶋守 さやか・伊藤 茂美・小原 倫子・内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習

免許・資格:	開講時期	後期
	配当学年	4
受講者制限:履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめるものである。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。

授業の到達目標
①教育教育・保育に関する個々の研究・ゼミの共通課題を探求するために適切な知識や技能・方法を用いた上、研究が論理的に展開され、的確な考察ができている。また創造的な作品に仕上がっている。【DP】
②教育・保育に関する個々の研究やゼミの共通課題としての作品制作に、他者との学び合いや協力が、成果として表れている【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
自分の研究テーマを考察する作業、論文執筆、作品製作等は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
フィードバック：提出・終了後に最終的講評を直接伝えると共に、卒研発表会で様々な教員からもコメントを伝える
卒業研究の論文もしくは創作、卒業研究発表会の参加・内容を100点満点で評価する。

教科書 各教員が指示する	参考図書 各教員が指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業要件　４年ゼミ（卒業研究）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。
但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:子ども家庭支援の心理学	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもは社会に生まれ、社会の中で発達していきます。子どもにとって最初に出会う最も重要な意味を持ち身近な社会が家庭です。家庭の中での保護者やきょうだいなどとの様々な相互作用を通して子どもは発達していきます。そのような家庭における子どもの発達と家族の役割について深く理解し、保育の場で実践する際の自分なりの視点を持つことを目指します。授業方法は視覚資料を使用し、一斉授業及びグループ・ワークを行います。

授業の到達目標
１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し説明することができる（DP）
２．家庭・家族の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し説明することができる（DP）
３．子どもの精神保健とその課題について理解し説明することができる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：日常生活や実習、ボランティアなどの子どもと関わる経験を通して、子どもの意図や欲求などの感情をイメージし、授業での学修と結び付けて考えることを心がけてください。子育て支援や家族機能の変遷などの子どもを取り巻く社会状況の変化などにも関心を持ち、自分なりの考えを持つようにしてください。授業で出す課題にしっかり取り組み授業を欠席した場合でも、その回の課題は提出してください。
事後学修：授業で配布するプリントは、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（試験、レポート）に対しては、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
大倉得史・新川泰弘編著　(2021)　子ども家庭支援の心理学入門	保育所保育指針及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	生涯発達とは何か
02	乳幼児期の発達
03	学童期の発達
04	青年期の発達
05	成人期・老年期の発達
06	家族・家庭の意義と機能
07	家族関係・親子関係の理解
08	子育て経験と親としての育ち
09	ライフコースと仕事、子育て
10	多様な家庭とその理解
11	特別な配慮を要する家庭への支援
12	発達支援の必要な家庭への支援
13	子どもの生活・生育環境と発達への影響
14	子どもや保護者のこころの健康への理解
15	授業のまとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育心理学	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
発達や学習の概念や理論についてスライドを使用して紹介する。発達については、認知発達や関係性の心理発達を中心に考える。その他、学習のメカニズムや集団のメカニズム、適応や評価について、乳幼児・児童を対象とした教育に資する基本的な知識を扱い、受講生同士で議論する時間も設ける【AL】。

授業の到達目標
1) 幼児、児童の心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を説明することができる（DP）。
2) 各発達段階における心理的特性を踏まえた子どもたちの学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる（DP）。
3)子どもの主体的な活動を支える教師のあり方や、現代社会での教育に関する課題について、心理学的観点から考察することができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：発達心理学で学んだ知識を復習しておく。
事後学修：配布プリントを自分なりにまとめ直す。

評価方法
授業への取り組み（30%）、授業内の確認テスト（70%）
尚、確認テストは1時間で行い、残りの時間にテストの解説等フィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	適宜、資料配布

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に疑問を持ちながら受講し、保育や教育にどのように活かせるのかを考え続けましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。

01	教育心理学とは何か
02	様々な発達理論、発達の捉え方
03	発達と教材・教具の関連
04	記憶のメカニズム
05	条件づけやモデリング等の学習理論
06	知識構造と問題解決
07	やる気のメカニズム
08	パーソナリティ理解
09	仲間関係、教師の影響力
10	集団のメカニズム
11	教授方法
12	教育評価
13	個人差を理解する
14	問題行動とカウンセリング
15	学習内容の確認
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育・保育学特講Ⅰ	担当者:古畑 淳・勝浦 眞仁・堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 保育学に求められる専門的知識の確認・定着を図ることを目指す。ここまでの講義・演習等を振り返るために、保育士試験や公務員保育職の専門試験レベルの内容を確認していく。
授業の到達目標 保育者として十分な専門的知識と技能を確認し、就職後に活用できるようにしていく(DP)。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎知識・技能 ○思考力・判断力・表現力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 これまでの教科書・講義や演習で使用したプリントの見直しができるようにしておくこと。また演習内容はノートなどにまとめ、確認できるようにしていくこと。
評価方法 出席態度（50%）、課題提出（50%）。課題に対してノートチェックによるフィードバックを行う。

教科書 適宜紹介する	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 公立保育職希望者で専門試験がある者はぜひ受講してほしい。またここまでの授業の総復習をしたい者の受講も歓迎する。 勝浦が主担当である。katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンスー保育学の専門的知識の必要性ー
02	社会福祉・児童福祉①
03	社会福祉・児童福祉②
04	社会福祉・児童福祉③
05	発達心理学・教育心理学①
06	発達心理学・教育心理学②
07	保育学関連－目指す人物像（面談）―①
08	保育学関連－目指す論述のありかた（小論文・作文）―②
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育カリキュラム論	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、幼児教育及び保育現場における教育課程や、教育・保育の内容に関する全体的な計画の意義を理解した上で、園の指導計画と実践の系統性・往還性を認識しながら、指導計画と評価の在り方について理解を深める。また、学生自身が幼児教育・保育のグランドデザインを編成する中で、カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した様々な指導計画の在り方を深く考えることを基軸に、11-12月の教育実習Ⅲに向けた実践的学びの往還を踏まえながら、授業を展開する。【AL】

授業の到達目標
①幼児教育・保育カリキュラムの意義、教育課程及び教育・保育に関する全体的な計画の編成や指導計画の役割や機能について理解する（HDP3）。
②子どもの発達過程を踏まえた教育課程や指導計画の意義、作成方法について理解する（HDP4）。
③さまざまな教育・保育の実際と内容、記録の在り方・評価の意義と方法を踏まえ、カリキュラム・マネジメントやカリキュラム評価の基本的な考え方を理解する（HDP3）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP3：知識・技能　○HDP4：思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想園課題に関しては、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。

評価方法
最終筆記試験（45%）、私の理想園（指導計画）ファイル及びプレゼンテーション（25%）、授業への取組（各回FB：30%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：各回のFB等における質問に関しては、次回授業時に口頭とスライドで回答する。また、理想園に関しては第15回授業時に総評すると同時に、最終試験に関しては成績開示後に総合結果と特に留意すべき事項等を解説する。

教科書	参考図書
「保育カリキュラム論　－計画と評価－」豊田和子・新井美保子編著　建帛社	平成29年告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
指導計画の作成は保育現場で必要な力量の1つです。どのような幼児教育や保育をデザインしていきたいかなど、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OH等は初回に開示します）。

01	オリエンテーション、幼児教育・保育の基本とカリキュラムーカリキュラムの考え方と展望
02	幼児教育・保育の実践とカリキュラムの関係　－社会に開かれた教育課程・全体的な計画の意義
03	保育所保育指針における全体的な計画と指導計画の基礎理解
04	幼稚園教育要領における教育課程及び全体的な計画と指導計画の基礎理解
05	幼保連携型認定こども園教育・保育要領における全体的な計画と指導計画の基礎理解
06	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（１）－乳児・3歳未満児
07	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（２）－幼児・3歳以上児
08	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（１）－預かり保育・長時間保育等
09	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（２）－保幼小接続カリキュラム
10	保育のカリキュラム・マネジメント　－PDCA サイクル、記録・反省・評価の意義
11	指導計画のデザインと実践展開　－長期指導計画と短期指導計画の系統性と往還性
12	私の理想園作成（１）－教育及び保育に関する理念・方針・目指す子ども像
13	私の理想園作成（２）－教育課程・全体的な計画、教育・保育の内容に関する全体的な計画
14	私の理想園発表（１）－グループプレゼンテーションと質疑応答
15	私の理想園発表（２）－全体プレゼンテーションとカリキュラムの評価
16	定期試験

科目名:保育内容指導法（健康）	担当者:寺田 泰人・寺田恭子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身につける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身につける。授業ではICTの活用、協働学習も行う。（AL）

授業の到達目標
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説に示された領域「健康」のねらい及び内容を理解する（DP）。
・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○専門的知識・技術
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育実践における子どもの活動理解やねらいの達成について関連する資料をもとに要点をまとめる。
・模擬保育のための教材・資料づくりや保育実践の振り返りを行う。
・乳幼児を取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持つようにする。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（40%）、②指導計画の立案、模擬保育の実践（40%）、③講義内容に関する筆記試験（20%）
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
担当教員作成の資料を使用する。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを使用し、資料の閲覧を行うこともある。
・授業形態としては、各自でまとめた課題レポートを基にグループで話し合ったり、話し合った内容を発表し合ったりする参加型の学習活動を重視する。
・質問や相談等の連絡手段　y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	保育における「健康」とは
02	基本的生活習慣の形成を支える援助
03	健康管理と安全管理を育む援助
04	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案１）
05	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究１）
06	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育１）
07	健康な心と体を育む保育の評価と改善１
08	多様な動きの経験を促す援助
09	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
10	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案２）
11	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究２）
12	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育２）
13	健康な心と体を育む保育の評価と改善２
14	乳幼児期に育まれる健康な心と体と小学校の生活や学習で生かされる力
15	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:社会科教育法	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う社会科の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、先人の実践事例に学び、検討する。
本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようにする。学習指導要領を理解したうえで、社会科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、教材研究、指導計画（単元構想）の検討、学習指導案作りを行う。その際、学習課題の把握、学習課題の追究、学習課題の解決といった問題解決的な学習を想定するとともに、模擬授業を行うことで授業づくりを振り返りながら、実践的な力を養う。【AL】

授業の到達目標
社会科教育の目標、内容、指導計画等を理解し、問題解決的な学習の充実を見据えた教材研究や学習指導案の作成、授業実践の分析を通して、実践的な指導力を身につける【DP】。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教材研究のため資料を収集すること、読むこと、指導案の作成など課題を指示します。

評価方法
レポート試験60%、課題及び授業への参加態度40%
フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時に紹介する。

教科書	参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領解説　社会編』	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー木曜昼休み

01	学習指導要領解説①：オリエンテーション、社会科を学ぶ意義
02	学習指導要領解説②：社会科教育の目標と内容
03	日本における社会科教育の歴史
04	社会科教育における授業理論、問題解決的な学習と
05	授業実践の事例検討①：3学年実践
06	授業実践の事例検討②：4学年実践
07	授業実践の事例検討③：5年生実践
08	授業実践の事例検討④：6年生実践
09	学習指導案の作成と内容、作成手順
10	学習指導案の作成と模擬授業①：教材研究
11	学習指導案の作成と模擬授業②：指導計画・単元構想の検討
12	学習指導案の作成と模擬授業③：指導案の検討
13	学習指導案の作成と模擬授業④：教育技術とICT活用
14	学習指導案の作成と模擬授業⑤：評価
15	これからの社会科教育に求められる指導力と課題
16	

2022年度シラバス

科目名:理科教育法	担当者:木村 幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
理科教育の目標や新しい授業づくりについて、新学習指導要領や厳美の授業事例をもとに講義を行う。特に、新学習指導要領については、「資質・能力」や「主体的・対話的で深い学び」など、新たなキーワードの意味やそれらに基づいた授業のポイントなどもと取り上げていく。なお、講義に当たっては、グループワークや模擬授業などをもとに、実際の授業をイメージした指導案作りを行う。理科教育の目標や新しい授業づくりについて、新学習指導要領や現場の指導案をもとに講義を行う。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業の到達目標
児童の資質・能力を高める問題解決的な授業を考え、その指導案をつくることができる。「思考力・判断力・表現力」「知識・技能」（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前学修：小学校学指導要領解説理科編や・講義中に配布する資料をあらかじめ読み込んでおく。指導案作りや模擬授業扱う場合は、あらかじめ資料から必要事項を抜き出しておく。
事後学修：授業で取り上げた学習に対する自分の考えや他の考えをノートに書き足しておく。

評価方法
①授業への参加度：２０％　②毎時の小レポート：３０％　③指導案：５０％
フィードバック：次回の授業日に特徴的な小レポートの内容の解説をする。また、小レポートの内容等をもとに講義を進める場合もある。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　理科編	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業内容が、新学習指導要領のどんな事項にかかわっているかを確認しておく。
・指導案づくり・模擬授業を行う際は、グループで疑問や意見が出せるようにしておく。
・質問は、Mooddleで受け付けます。

01	オリエンテーション、講義の導入：達人の理科授業から
02	理科の教育目標と新学習指導要領（新しい教育の視点：PISA調査と問題解決的な授業）
03	資質・能力の育成と見方・考え方（理科教育の在り方：国立教育政策の資料から）
04	子どもたちの考えとミスコンセプション（子供たちのものの見方：授業づくりの基本）
05	主体的・対話的で深い学びを促す授業（授業づくりの手立て：文部科学省が示す新しい授業）
06	理科の授業と観察・実験：物理・化学（教材の開発：追究は、火責め・水攻め・色変わり）
07	理科の授業と観察・実験：生物・地学（教材の開発：小さなことから世界を見る）
08	問題意識を高める授業と学習問題・発問（子供たちの問い：学習問題と授業づくり）
09	国立教育政策研究所の指導例をもとにした授業（授業づくり）：グループワーク
10	国立教育政策研究所の指導例をもとにした授業（模擬授業）：ディスカッション
11	理科の指導案とその書き方（指導案の記述方法：児童の実態・教材観・指導計画・本時の展開）
12	資質・能力を高める授業づくり（教材研究と指導案づくりの基本を学ぶ①）
13	資質・能力を高める授業づくり（教材研究と指導案づくりの基本を学ぶ②）
14	資質・能力を高める授業づくり（模擬授業の試行と相互評価）
15	これからの理科教育と新しい授業（講義のまとめ）
16	なし（課題レポート）

2022年度シラバス

科目名:体育科教育法	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:小学校教諭希望者		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校学習指導要領「体育」の主旨を理解する。そして、現在抱える体育科教育の課題を勘案しながら、実際の学校教育の場において実践できるための体育授業づくりを中心に、小学校の体育教育全般を通して指導者としてどうあるべきかを学ぶ。
・体育の授業づくりにおいて必要な基礎的な知識や方法を理解する。
・授業づくりにおける子どもの活動理解や評価の視点について学ぶ。
・模擬授業を行い、授業の進め方や評価について学ぶ。

授業の到達目標
①小学校学習指導要領に示された「体育科」の目標及び内容を理解している。（D P）
②児童の発達や学びの過程を理解し、「体育科」に関わる具体的な指導場面を想定した授業を構想する力を身につけている。（D P）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・現場を体験する意味で、公園の固定遊具や運動施設の見学、母校や近隣の学校の行事・部活動・授業後活動等（名古屋市のふれあいフレンド活動やトワイライトスクール・ルームの学生ボランティア活動等）への積極的な参加・体験・見学を行う。
・授業づくりにおける子どもの活動理解や評価の視点について関連する資料をもとに要点をまとめる。
・模擬授業のための教材・資料づくりを行い、学習者の成績評価や授業の振り返りを行う。

評価方法
①指導計画の立案、模擬授業の実践（50%）、②講義内容に関する筆記試験（30%）③授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育編	小学校学習指導要領（平成29年告示）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを使用し、資料の閲覧を行うこともある。
・授業形態としては、各自でまとめた課題レポートを基にグループで話し合ったり、話し合った内容を発表し合ったりする参加型の学習活動を重視する。
・質問や相談等の連絡手段　y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	小学校学習指導要領　体育の目標と学習領域に関する理解
02	体育科教育の課題１　①体力の現状と将来への影響　②安全を優先する体育科教育
03	体育科教育の目標と実際　体育科教育の必要性について
04	体育科教育の内容１　体つくり運動系　器械運動系　陸上運動系　水泳運動系　ボール運動系
05	体育科教育の内容２　表現運動系　集団行動　保健領域と健康教育
06	各学年の目標及び内容と「資質・能力」について
07	体育科教育の課題２　体育的行事および学校管理内での事故と危機管理
08	授業の進め方と実際１　年間指導計画と単元指導計画の作成
09	授業の進め方と実際２　教材研究（ 情報機器を用いた教材の活用を含む）指導案の作成
10	授業の進め方と実際３　指導と評価
11	授業の進め方と実際４　施設設備の安全管理と授業経営
12	模擬授業（低学年を対象とした授業の構想）
13	模擬授業（中学年を対象とした授業の構想）
14	模擬授業（高学年を対象とした授業の構想）
15	模擬授業の振り返りと授業評価について
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:幼児と健康	担当者:寺田 泰人・寺田恭子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、乳幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。授業ではICTの活用、協働学習も行う（AL)。

授業の到達目標
①乳幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解し、説明できる（DP)。
②乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明できる（DP)。
③安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、説明できる（DP)。
④乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明できる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○専門的な知識・技術
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・乳幼児を取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持つようにする。
・授業の事前事後に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説をしっかりと確認し、理解を深めるように努める。
・実習等で乳幼児と関わる機会を積極的に活用し、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣を理解することに努める。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（40%）、②発表・レポート（30%）、③講義内容に関する筆記試験（30%）最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
担当教員作成の資料を使用する。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを使用し、資料の閲覧を行うこともある。
・授業形態としては、各自でまとめた課題レポートを基にグループで話し合ったり、話し合った内容を発表し合ったりする参加型の学習活動を重視する。
・質問や相談等の連絡手段　y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	乳幼児の健康問題
02	領域「健康」について
03	乳幼児期の身体の発達的特徴
04	乳幼児期の生活習慣の形成
05	乳幼児期の運動発達の特徴
06	日常生活における運動
07	遊びとしての運動
08	幼児の安全教育と健康管理
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:社会	担当者:松永 康史・嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 小学校社会科の目標や理念を理解し、具体的内容にも触れる教材研究を行う。授業は講義を中心にするが、受講生自らが学習指導要領にしたがい、具体的な授業方法も体験する。学習指導要領についての理解を深め、具体的な授業展開についてのレポートやグループ発表・グループディスカッション成果のポスター制作を行う【AL】。担当者松永は、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や単元構想についての具体的な説明を行う。
授業の到達目標 社会科を暗記科目ではなく、子どもたちが興味を持ち、調べ考える力を身につけるアクティブラーニングを実践する科目として理解する【DP】。また、子どもたちが人間としての生きる力を養う教科として理解する。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎知識・技能 ○思考力・判断力・表現力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 教材研究に関する資料を読むこと、資料の作成など課題を指示します。
評価方法 評価は、確認テストの成績50%、グループワーク・プレゼンテーションの評価50%にて行います。 フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時に紹介する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説編　社会科	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) オフィスアワー木曜昼休み（松永）、オフィスアワー木曜日昼休み（嶋守）

01	社会科教育の目指すもの（松永）
02	小学校社会科の学年ごとの目標と内容（松永）
03	教材研究と単元構想（松永）
04	教材研究とICT活用について（松永）
05	３・４年生の社会科指導計画の作成と模擬授業（嶋守）
06	５年生の社会科指導計画の作成と模擬授業（嶋守）
07	６年生の社会科指導計画の作成と模擬授業（嶋守）
08	理解度評価および解説（嶋守）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:理科	担当者:木村 幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
身の回りの自然に潜む不思議を調べる方法や基本的な知識を身につける。講義では、主にグループワークを中心に、小・中学校の理科で扱う観察・観察を取り上げる。なお、授業を進めるに当たっては、幼保との関連も視野に入れた教材も扱っていく。

授業の到達目標
・小学校理科の学習内容を理解し、観察・実験を指導する基本的な知識・技能を身につけることができる。「知識・技能
・子どもの見方・考え方や疑問を理解し、理科研究やレポートを作成することができる。「思考力・判断力・表現力」
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事準備学修：次の授業の内容に関わる学習指導要領の記述読み込んでおく。
事後学修：「子どもたちがどんな疑問をもつか、どのように考えるか」という視点で自然事象をとらえ、学んだ内容をノートにまとめておく。

評価方法
①授業への参加度２０％　②　毎時の小レポート３０％　③理科研究レポート５０％
フィードバック：次回の授業日に特徴的な小レポートの内容の解説をする。また、小レポートの内容等をもとに講義を進める場合もある。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　理科編	小学校学習指導要領解説　理科編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・身近な自然現象に興味をもち、不思議なことを進んで調べようとする姿勢を大切にしてください。
・理科学習の既習事項を生かし、自分なりの考えをもちながら学習を進められるようにしてください。
・質問は、講義内またはMooddleで受け付けます

01	オリエンテーション、講義の導入：身の回りのおもしろサイエンス
02	身身近な水溶液とその性質（水溶液の色の変化・ものが溶ける限界）
03	料理の科学（おいしい食べ物と化学変化）
04	おもちゃに潜む不思議な科学（よく回るコマの秘密・光：虹と光の秘密）
05	物理現象と力学実験（現代社会と暮らしを支えるガリレオ・ガリレイの発見）：グループワーク
06	植物のからだのつくりと環境（植物の増え方の秘密）；フィールドワーク
07	理科研究と追究方法（理科コンクールの優秀論文をもとにして）
08	なし（課題レポート）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:体育	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:小学校教諭希望者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
体育科の目標である「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを理解する。また現代の子どもの体力の現状についても理解を進める。授業では体系化した体育科の領域構成について、自ら経験することにより児童の体力や技能に応じた運動を提供したり、運動技能の習得に対する適切な指導ができるように実践的に学んでいきます。授業方法にはグループ学習やプレゼンテーションなどを取り入れます。 (AL)

授業の到達目標
①各種の運動の行い方を理解するとともに、主体的に取り組む中で基本的な動きや技能を身につける。 (D P)
②児童の運動発達過程を理解する。 (D P)
③体育授業を担当するために必要な実践力を身につける。 (D P)
④運動や健康についての自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を身につける。 (D P)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・小学校学習指導要領体育科の「目標・内容・内容の取り扱い」について要点をまとめる。
・各学年の目標、各領域の内容について要点をまとめる。
・授業後に自分の気づきを記録する。

評価方法
①毎回の授業内容をまとめた授業ノート (40%)
②授業内で行う実技発表 (30%)
③授業への取り組みに対する意欲や態度 (30%)
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説　体育編	授業の事前に適宜資料を配布する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・この授業は体育館での実技が中心になります。運動に適したジャージやシューズを必ず着用してください。また授業内容を記録するノート等を持参してください。・運動するのにふさわしい服装でなければ受講を認めません。
・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。　y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　体育科の内容構成について
02	体つくり運動系
03	器械運動系①（第１学年及び第２学年の内容）
04	器械運動系②（第３学年から第６学年の内容）
05	陸上運動系
06	ボール運動系①（第１学年及び第２学年の内容）
07	ボール運動系②（第３学年から第６学年の内容）
08	表現運動系
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児音楽ⅡＡ	担当者:基村 昌代・赤松 みどり・鬼頭 愛・後藤 祐里・竹内 理恵・谷田 育代・森野 直子・森 恵美子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえた上で、基礎歌唱法及び弾き歌い奏法を理論と実践で学びます。取り上げる教材は幼児歌曲・わらべうた・斉唱曲・重唱曲です。授業を半分（45分）に分け、弾き歌いやコード譜の個人レッスンと、声の出る仕組みを踏まえた上での歌唱法を学ぶグループレッスンを受講し、個々の課題を追求し、実践力の向上を目指します。最終授業では試験を行い、学びの成果をプレゼンテーションします。また、授業外の準備学修・事後学修の位置付けとして、オンラインの譜読み課題を課します。毎提出後に解答表示にて確認しフィードバックを行い読譜力を高めます。(AL)

授業の到達目標
　任意の弾き歌い12曲以上、コード譜3曲以上習得することを目標とします。乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえた上で、弾き歌い楽曲の奏法・表現方法・内容解釈、基礎歌唱法では音声生理学を踏まえた歌唱法の習得を目指し、音楽表現力を養います。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。毎日、弾き歌い曲の練習と、オンライン譜読み課題を行って下さい。

評価方法
　試験評価100点、個人弾き歌いレッスン(授業への参加態度など)評価100点、歌唱グループレッスン(授業への参加態度など)評価100点、オンライン譜読課題100点の合計400点を100点に平均して算出する。個人弾き歌いレッスン評価及び歌唱グループレッスン評価は半期を通して到達度、学修意欲、出欠状況、学習態度を総合して評価する。なお、試験は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。最終授業時に個別にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
＊教育や保育に携わる人々のための「新・声楽指導教本」（教育芸術社） ＊保育のための歌とあそび「こどもの世界」（ドレミ出版社）	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　カラオケでは歌えるのに授業となると歌えない？　まずは恥ずかしがらず声を出してみましょう。声はその人しか出せない世界で一つの宝物であり、その人の個性でもあります。その素敵な声を活かせるよう、毎日ピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

01	任意の弾き歌い曲１（歌詞に基づいた表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（姿勢・腹式呼吸）、リズム打ち実践(単純拍子)、譜読課題１
02	任意の弾き歌い曲２（歌詞に基づいた表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（頭声と胸声、共鳴）、リズム打ち実践（３拍子）、譜読課題２
03	任意の弾き歌い曲３（歌詞に基づいた表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（音程について）、リズム打ち実践(３拍子）、譜読課題３
04	任意の弾き歌い曲４（楽曲の内容解釈と表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（発語法について）、リズム打ち実践(複合拍子・４拍子）、譜読課題４
05	任意の弾き歌い曲５（楽曲の内容解釈と表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（リズムについて）、リズム打ち実践(複合拍子・４拍子）、譜読課題５
06	任意の弾き歌い曲６（楽曲の内容解釈と表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（フレーズについて）、リズム打ち実践(複合拍子・６拍子）、譜読課題６
07	任意の弾き歌い曲７（楽曲の内容解釈と表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（レガートについて）、リズム打ち実践(複合拍子・６拍子）、譜読課題７
08	総括（フィードバック）、試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児音楽ⅡＢ	担当者:基村 昌代・赤松 みどり・鬼頭 愛・後藤 祐里・竹内 理恵・谷田 育代・森野 直子・森 恵美子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえた上で、基礎歌唱法及び弾き歌い奏法を理論と実践で学びます。取り上げる教材は幼児歌曲・わらべうた・斉唱曲・重唱曲です。授業を半分（45分）に分け、弾き歌いやコード譜の個人レッスンと、声の出る仕組みを踏まえた上での歌唱法を学ぶグループレッスンを受講し、個々の課題を追求し、実践力の向上を目指します。最終授業では試験を行い、学びの成果をプレゼンテーションします。また、授業外の準備学修・事後学修の位置付けとして、オンラインの譜読み課題を課します。毎提出後に解答表示にて確認しフィードバックを行い読譜力を高めます。(AL)

授業の到達目標
　任意の弾き歌い12曲以上、コード譜3曲以上習得することを目標とします。乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえた上で、弾き歌い楽曲の奏法・表現方法・内容解釈、基礎歌唱法では音声生理学を踏まえた歌唱法の習得を目指し、音楽表現力を養います。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。毎日、弾き歌い曲の練習と、オンライン譜読み課題を行って下さい。

評価方法
　試験評価100点、個人弾き歌いレッスン(授業への参加態度など)評価100点、歌唱グループレッスン(授業への参加態度など)評価100点、オンライン譜読課題100点の合計400点を100点に平均して算出する。個人弾き歌いレッスン評価及び歌唱グループレッスン評価は半期を通して到達度、学修意欲、出欠状況、学習態度を総合して評価する。なお、試験は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。最終授業時に個別にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
＊教育や保育に携わる人々のための「新・声楽指導教本」（教育芸術社) ＊保育のための歌とあそび「こどもの世界」（ドレミ出版社)	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　カラオケでは歌えるのに授業となると歌えない？　まずは恥ずかしがらず声を出してみましょう。声はその人しか出せない世界で一つの宝物であり、その人の個性でもあります。その素敵な声を活かせるよう、毎日ピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

01	任意の弾き歌い曲１（歌詞に基づいた表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（こどもの声の発達１）、リズム打ち実践(３拍子)、譜読課題１
02	任意の弾き歌い曲２（歌詞に基づいた表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（こどもの声の発達２）、リズム打ち実践(３拍子)、譜読課題２
03	任意の弾き歌い曲３（歌詞に基づいた表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法１）、リズム打ち実践(４拍子)、譜読課題３
04	任意の弾き歌い曲４（楽曲の内容解釈と表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法２）、リズム打ち実践(４拍子)、譜読課題４
05	任意の弾き歌い曲５（楽曲の内容解釈と表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法３）、リズム打ち実践(複合拍子・４拍子)、譜読課題５
06	任意の弾き歌い曲６（楽曲の内容解釈と表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法４）、リズム打ち実践(複合拍子・６拍子)、譜読課題６
07	任意の弾き歌い曲７（楽曲の内容解釈と表現方法）、音声生理学を踏まえた歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法５）、リズム打ち実践(複合拍子・９拍子)、譜読課題７
08	総括（フィードバック）、試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児造形Ⅱ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:幼児造形Ⅰを履修した者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本講は、保育学科のDP及びCPにある、教育・保育に関する専門的な知識・技能等を身につけることを目的としています。保育者を目指す学生が、小学校図画工作等の学習活動を見通しながら、乳幼児の造形表現を支援・指導することに必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付けるようにします。「幼児造形Ⅱ」は、協同的学修（AL)の学修形態をとりながら、立体表現を体験（全６回）しその学修成果をICTを使ってまとめていきます（１回）。

授業の到達目標
（1）子どもの造形活動に関して主体的に学ぼうとする力
教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法についての知識や技能、思考力・判断力・表現力を身につけるため、題材に関する視覚的情報（図表、イラスト等）や資料を自ら進んで収集し参考にしながら意欲的に学ぶ。実際の体験を通して学んだ内容をわかりやすく伝えようとする。
（2）造形実践に必要な思考力・判断力・表現力
教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法に関する知識や技能を基に、ポートフォリオ（PowerPoint）作成を通して題材の捉え方や実践の方法について工夫を行ったり改善した結果をわかりやすく伝えることができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・自ら進んで、様々な実践事例に触れながら、造形活動の意義や支援・指導について学びます。
・実践事例を調べ、実技で取り組んだことを含めてポートフォリオ（PowerPoint）にまとめます（15時間）。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオ（PowerPoint）としてまとめたものを学びの過程として評価を行います（70%）。その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能や感じたことや考えたことを評価します。（30%）。第4回までの授業内容について中間まとめとして評価し、フィードバックする。

教科書	参考図書
「よくわかる！造形あそびの材料・用具」サクラクレパス 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワーは火曜日、木曜日のお昼休みです。授業について不明な点は、asano-t@ohkagakuen-u.ac.jpまでメールを送ってください（大学アカウントを使って送信すること）。

01	第１回：幼児の発達の特徴と表現活動の意義について
02	第２回：土に触れる活動
03	第３回：土粘土の精製と粘土遊びについて
04	第４回：粘土活動における用具の利用と環境構成
05	第５回：紙粘土を使った表現（小学校図画工作との関連）
06	第６回：粘土と他の素材を組み合わせた表現
07	第７回：紙粘土への着色について
08	第８回：活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児体育Ⅱ	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
授業概要と方法<200文字>
幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しみかつ創造できる力を取得する（AL)。幼児が実施している様々な運動遊びを自ら経験することによって、幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びを提供したり、運動動作の習得に対する適切な援助・指導ができるように実践的に学んで行く。そのためグループ学習やプレゼンテーションを取り入れる。（A L）

授業の到達目標
①様々な運動遊びを経験し、上達を目指して主体的に取り組む中で、運動の楽しさを知り運動技能の向上を図る。（D P）
②幼児期の運動発達過程を理解する。（D P）
③工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる。（D P）
④運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。（D P）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・事前学習として、シラバスに記載してある運動遊びについて文献等で調べておくこと。
・事後学習として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容について、授業ノートを作成・提出する。
・学外実習やボランティア活動を通して、子どもの運動発達を理解する。

評価方法
① 毎回の授業内容をまとめた授業ノート（50%） ② 授業内で行う実技発表（30%） ③ 授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
「幼児の楽しい運動遊びと身体表現　めざせガキ大将」（圭文社）（1年次に購入済み）	幼児期運動指針　文部科学省、「幼児の運動あそび　幼児期運動指針に沿って」（チャイルド本社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
集中講義で開講する予定であり、詳細は掲示等で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は申し出て下さい。日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

01	オリエンテーション、幼児の運動能力テスト①（実践）
02	幼児の運動能力テスト②（実践と評価）
03	巧技台、跳び箱、鉄棒、マットを利用した運動遊び
04	サーキット遊びの考案
05	運動会種目の企画と検討
06	運動会の実践
07	水遊び
08	伝承遊び、授業のまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもの保健	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 子どもの保健では、子どもの健やかな成長や発達、病気の特徴や予防法などを学びます。この講義では子ども達の健全な成長を支援するため、子どもの保健の意義を理解し、発育（月齢や年齢）にともない変化する身体的な特徴、生理機能、運動機能や精神機能（社会性）の発達、子どもの疾病とその予防について学びます。
授業の到達目標 1.子どもの身体発育、生理機能、運動機能、疾病などに関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深める(DP) 2.ICT スキル（PC を用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する(DP) 【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎知識・技能 ○思考力・判断力・表現力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 子どもの保健では習得すべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。
評価方法 授業への取組30%、授業内での提出物20%、学期末試験50% 最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育者のためのわかりやすい子どもの保健（日本小児医事出版）	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで Moodleを利用しますので、毎週の授業へノートパソコンを持参してください。

01	ガイダンスおよび子どもの保健の現状、保健水準
02	行政が実施している母子保健活動(AL)
03	虐待の防止と支援
04	発育と発達の評価　成長曲線、統計用語の理解
05	生理機能の発達① 呼吸と循環
06	生理機能の発達② 体温調節・感覚機能・睡眠
07	乳幼児期の運動指針
08	運動機能の発達、スキャモンの臓器別発育曲線
09	子どもの健康状態の観察、健康診断
10	子どもの身体発育の評価
11	精神機能の発達、認知機能
12	感染症の種類と予防
13	感染症対策
14	アレルギー疾患
15	子どもに多い疾患
16	まとめと試験

2022年度シラバス

科目名:子どもの健康と安全	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの健康及び安全は、子どもの生活の基本である。この授業では、子どもの健康管理や安全の確保について、関連するガイドラインなどを参照しながら学習を進めていく。安全の確保の一環として防災についても学習する。

授業の到達目標
1.保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する(DP)。
2.関連するガイドライン等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する(DP)。
3.子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する(DP)。
4.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
子どもの保健で覚えるべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を必ず行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取り組み（30%)、プレゼンテーション課題（30%)、講義内容に関する筆記試験（40%)
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書 保育者のためのわかりやすい子どもの保健（日本小児医事出版）、幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで
Moodleを利用しますので、授業時にノートパソコンを持参してください。

01	子どもの健康と安全とは、オリエンテーション
02	保育所における感染症対策ガイドライン(AL)
03	保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(AL)
04	保育所等における新型コロナウイルスへの対応について(AL)
05	教育・保育施設等における事故防止
06	個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等)
07	避難訓練、防災訓練
08	保育における保健活動の計画及び評価
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもの食と栄養Ⅰ	担当者:辻岡 和代・早瀬 和利	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）
２．子どもの発育・発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食についての理解を深める為の演習（6回）
３．グループ学習とプレゼンテーション（3回）

授業の到達目標
１．食と健康がどのように関わっているかを理解できる。【DP】
２．保育者として必要な栄養についての基礎知識や技能、食育、食生活に関する諸問題について理解できる。【DP】
３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけ、仲間と協力しながら他者へ伝えることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行ってください。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んできてください。
具体的な学修活動については、授業内で提示します。

評価方法
授業への参加態度30％、確認テスト40％、プレゼンテーション30％の割合で評価します。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行います。

教科書	参考図書
子どもの食と栄養　建帛社	保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　質問等は、メール、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	子どもの健康と食生活の意義　　（辻岡・早瀬）
02	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（１）炭水化物　（早瀬）
03	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（２）タンパク質　（早瀬）
04	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（３）脂質　（早瀬）
05	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（４）ビタミン（早瀬）
06	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（５）ミネラル　（早瀬）
07	食事摂取基準と献立作成・調理の基本　（早瀬）
08	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（１）母乳・育児用ミルク　（辻岡）
09	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（２）冷凍母乳・離乳食　（辻岡）
10	幼児期の心身の発達と食生活・家庭や児童福祉施設における食事と栄養　（辻岡）
11	学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活　（早瀬）
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　（辻岡）
13	食育の基本と内容　（辻岡）
14	総括と確認テスト　（辻岡・早瀬）
15	プレゼンテーションとその活用　（辻岡）　【AL】
16	

2022年度シラバス

科目名:子どもの食と栄養Ⅱ	担当者:辻岡 和代・鈴村 昌子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:「子どもの食と栄養Ⅰ」を履修していることを受講要件とする		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．子どもの食と栄養Ⅰで学んだ基礎知識をさらに深める為の講義と演習（各回）
２．乳児期から学童期までの発達の特徴を踏まえた調理実習（各回）
３．食育の組み立てと実習（各回：幼児弁当実習および食育実習は学生主体で行う）

授業の到達目標
１．保育者として子どもの精神的な満足や個々の体質に配慮した食生活の支援について主体的に考える事ができる。【DP】
２．子どもの食を想定した食材の選択、献立作成、調理方法、衛生管理について他者と協力しながら実践的に学ぶ事ができる。
３．保育所における食育を実践するためのスキルを身につける事ができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　自分自身の食生活についての振り返りを常に行いながら自宅でも積極的に調理を行うこと。また、授業内で意見交換するためのレシピや調理法について準備学修を行うこと。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んでくること。具体的な学修活動については、授業内で提示する。（4時間程度）

評価方法
授業態度50%、レポート試験50%の割合で評価する。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書	参考図書
子どもの食と栄養演習書　　医歯薬出版	教科書 子どもの食と栄養実習書　　医歯薬出版 参考図書 保育所保育指針　等　授業態度50%、レポート試験50%の割合で評価する教科書 子どもの食と栄養実習書　　医歯薬出版 参考図書 保育所保育指針　等保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	オリエンテーション、簡単な調理の基礎　（辻岡・鈴村）
02	乳児栄養実習　　（辻岡）
03	離乳食実習①　講義・実習準備　　（辻岡）
04	離乳食実習②　実習・試食・評価・振り返り　（辻岡）
05	幼児食実習①　講義・実習準備　（鈴村）
06	幼児食実習②　実習・試食・評価・振り返り　（鈴村）
07	幼児弁当実習①　講義　演習　実習準備　（辻岡）　【AL】
08	幼児弁当実習②　実習　試食　評価　振り返り　（辻岡）　【AL】
09	アレルギー食実習①　講義　演習　実習準備　（辻岡）　【AL】
10	アレルギー食実習②　実習　試食　評価　振り返り　（辻岡）【AL】
11	食育実習①　講義　演習　実習準備　（鈴村）　【AL】
12	食育実習②　実習　試食　評価　振り返り　（鈴村）【AL】
13	行事食実習①　講義　演習　実習準備　（鈴村）
14	行事食実習②　実習　試食　評価　振り返り　（鈴村）
15	総合実習　（鈴村）　【AL】
16	

科目名:障害児保育	担当者:勝浦 眞仁・小柳津 和博・柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】特別支援学校教諭
この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、障害等により特別の支援を必要とする子どもを保育する保育所、施設等における指導・支援方法について具体的な検討を行う。また、障害児保育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。【ＡＬ】

１．障害児保育を支える理念、２． 障害児等の理解と保育における発達の援助、３．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、４．家庭及び自治体・関係機関との連携 、５．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状 と課題 、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学ぶ。

授業の到達目標
① 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。[DP]
② 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。[DP]
③ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。[DP]
④ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。[DP]
⑤ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読み、授業内容の発表を学生が行う。オリエンテーションでグループ分けを行う。事例検討についてもグループ分けし、支援の方法を学び合う。障がいのある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
3名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。授業内容発表（5%）、事例検討会発表（10%）、小テスト・レポート（75%）、授業への参加態度（10%）により総合的に評価する。
授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者を目指す学生にとって、障がいのある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・障がい観を見つめ直す機会となる。２年生での学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。
連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp
katuura@ohkagakuen-u.ac.jp
oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	＜柏倉担当＞　障害児保育の歴史的変遷―統合保育まで―
03	障害児保育の現状―インクルージョンに向けて―
04	特別支援教育からインクルーシブ教育へ―障害者権利条約と合理的配慮―
05	関係者との連携（地域専門機関、小学校）
06	＜勝浦担当＞　障害児保育の対象：２年時の復習と配慮を必要とする子ども（気になる子ども）
07	ＮＰＯ・学童保育での障害児保育
08	医療的ケア児の保育
09	乳幼児健康診査、就学時健康診断
10	＜小柳津担当＞　子ども同士の関わり合い・育ち合い
11	個々の発達を促す生活と遊びの環境
12	保護者・家族との連携
13	個別の支援計画・指導計画の作成と活用、ケース会議
14	事例検討会の準備
15	事例検討会（発表）
16	なし

科目名:乳児保育Ⅱ	担当者:太田 早津美・川合 真由美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:乳児保育Ⅰを修得したもの		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務者経験】保育士・保育所園長
乳児保育の重要性を自覚し、保育士としての専門性をよりめる為に、乳児の生活と保育について講義と演習により具体的に学ぶ（AL）。産休明け児からの乳児保育について、より具体的で実践的な援助の仕方が学べるように事例検討やグループ討議により学びを深める（AL）。手遊びやふれあい遊びなどを実践的に学ぶ（AL）。

授業の到達目標
①乳児保育1を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術をさらに習得し、保育士としての自覚をもち、専門性を高める（DP）。②乳児保育をするためのより具体的な保育実践について考え、子どもや保護者に対する援助の仕方を習得する（DP）。③保育に必要な教材研究を主体的に行い、実際にそれを活用した保育実践力が身につく（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】〇主体的に学ぼうとする力◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
乳児保育における保育士としての専門性や実践力をより高めるための授業です。
乳幼児の発達の理解が深まるよう乳幼児と接触する機会を積極的に作り、援助の仕方を体験しながら習得できるようにしましょう。乳児保育に役立つふれあい遊び、手遊びの習得と乳児保育に必要な環境や手作りおもちゃについて関心を深めましょう。

評価方法
筆記試験（６０％）、授業への参加態度（２０％）、課題・提出物（２０％）を総合的に判断する。フィードバック方法は毎回の授業時に学び、感想や質問を記載する。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
理論と実践に学ぶ「乳児保育」太田早津美（編）青踏社 ２９年告示保育所保育指針　フレーベル	授業時に適宜紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもに関するニュースや社会の動きについて関心を持ち、積極的に情報収集する。日頃から乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳幼児の理解に努める。子育て支援センターなどで、子育て支援について理解を深める。（連絡先）研究室7402

01	授業概要　保育所保育指針が示す３歳未満児の保育内容
02	乳児の育ちの実際と育ちを理解して伝える意義・方法
03	指導計画と記録（ドキュメンテーションの作成・クラスだより） ０．１．２
04	３歳未満児の遊びと環境（手作りおもちゃの制作）
05	実践例から見る援助の実際（連絡帳・保育記録の書き方）
06	実践例から見る援助の実際（乳幼児のかからりやすい感染症　危機管理・保育現場の事例検討）
07	乳児保育と連携（保護者との連携・保育者の連携と協働）
08	定期試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:医療保育Ⅱ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:医療保育に強い興味・関心があるもの（病院実習は５名まで）		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
外来・病棟の保育・施設見学
外来：①外来保育活動を見学
②外来での検査などのプレパレーション・ディストラクションの見学
病棟：5病棟（NICU・PICUを以外）の見学
①病棟での集団・個別保育活動の見学
②手術・検査などのプレパレーション・ディストラクションの見学
③HPS資格を併せ持つ医療保育士の役割や支援内容を理解する。

授業の到達目標
①小児専門病院のチーム医療を知る。
②HPS資格を併せ持つ医療保育士の役割や支援内容を理解する（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
特になし

評価方法
①実習態度(50%)②実習記録（30%）③実習発表会(20%)。発表に関するフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
医療保育実習に出る場合は、実習費(1日1,500円)が必要になる。また、病院での受け入れは5名までである。
服装：動きやすい服装。首、脇が大きく開いてないもの。長ズボン。
連絡はkatuura@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	オリエンテーション
02	医療保育実習の記録の書き方
03	外来の医療保育見学
04	病棟の保育見学①
05	病棟の保育見学②
06	病棟の保育見学③
07	病棟の保育見学④
08	医療保育事後報告会
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:知的障害児の心理・生理・病理	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
知的障害児の発達および支援の実際を事例および映像を通して学修していく。また知的障害に関連する障害について紹介するとともに、その心理機能に合わせた支援について学ぶ。

授業の到達目標
１、知的障害児の定義と分類、要因、関連する障害について理解する。
２、知的障害児の発達をおさえた上で、その心理機能と支援を知る（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
知的障害のある児童・生徒とかかわる機会をもつようにしてほしい。そのため、ボランティアやインターンシップなどへの参加が望ましい。

評価方法
出席態度（30%）、テスト（70%）。授業に関する意見・質問およびテストについて、毎回のコメントおよび最終試験によりフィードバックを行う。

教科書 特になし	参考図書 特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦　眞仁編著、ナカニシヤ出版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
katuura@ohakagekuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	知的障害の定義
03	知的障害とダウン症・発達障害との関連
04	知的障害の医学的基礎知識
05	心理学的基礎知識①　言語面
06	心理学的基礎知識②　知能検査
07	心理学的基礎知識③　発達検査
08	医学的・心理学的介入①　言語面へのアプローチ
09	医学的・心理学的介入②　発達心理学的介入
10	医学的・心理学的介入③　応用行動分析
11	医学的・心理学的介入④　TEACCH・情報保障
12	医学的・心理学的介入⑤　ICT活用
13	生涯発達支援①　就学前から卒業後まで
14	生涯発達支援②　家族・家庭支援
15	まとめのテストと解説
16	なし

2022年度シラバス

科目名:肢体不自由児の心理・生理・病理	担当者:小柳津 和博・越知 信彦	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
肢体不自由児の心理・生理・病理に関する基礎的な知識を習得する。
医療としての肢体不自由児の理解や支援について学ぶ。
肢体不自由児を理解するための基礎知識を得る中で、特別支援教育教員として必要な力量について考察する。

授業の到達目標
①肢体不自由児の心理・生理・病理について理解する。[DP]
②肢体不自由児の各種障害に応じた支援のあり方について理解する。[DP]
③肢体不自由教育に携わる教員として必要な知識・技能・態度を培う。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
肢体不自由児・者に係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
２名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。
授業内課題（30%）、小テスト（30%）、授業への参加態度（40%）により総合的に評価する。
各担当者の授業の最後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中に配布する資料を使用する。	特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特別支援教育に携わる教員を目指す学生にとって、障害のある子どもの心理・生理・病理を理解することは、子どもたちの実態を正しく見立てる基礎となる。２年次までの学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。
連絡先：小柳津：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp、越知：初回授業時に連絡先を伝える

01	＜小柳津担当＞オリエンテーション、肢体不自由者の理解について
02	肢体不自由児の病因
03	肢体不自由児の障害特性を理解する体験
04	肢体不自由児の発達と障害特性（運動面・認知面）
05	肢体不自由児の生活・学習を支援する補助具
06	肢体不自由児への心理リハビリテイションの理論と実践
07	肢体不自由児の姿勢・運動を支援する際の基礎知識、まとめ
08	＜越知担当＞小児の正常発達
09	脳性麻痺の発生と病理
10	脳性麻痺の合併症①　発達障害や知的障害の評価と対応
11	重症心身障害児者の医療的ケアと在宅医療
12	脳性麻痺の合併症②　てんかんの原因とその対応
13	脳性麻痺の合併症③　その他の合併症と治療（呼吸、嚥下障害）
14	教育現場からみた障害への支援（リハビリやその他の対応を含めて）
15	障害児者への社会福祉環境と自立プログラム
16	なし

2022年度シラバス

科目名:病弱児の心理・生理・病理	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
病気と共に生きる子どもたちやその家族を支援できるように、主な基礎疾患の生理や病理、対応する際の留意点、および病弱児や家族の心理などについて学ぶ。

授業の到達目標
１、病弱教育の意義について理解する。（DP）
２、病気の生理と病理を理解する。
３、病弱児の心理について理解を深め、支援する方法および態度を知る。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
病弱のある児童・生徒とかかわる機会をもつようにしてほしい。そのため、ボランティアやインターンシップなどへの参加が望ましい。

評価方法
出席態度（30%）、テスト（70%）。授業に関する意見・質問およびテストについて、毎回のコメントおよび最終試験にてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特になし	特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦　眞仁編著、ナカニシヤ出版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	病弱教育とは―病気のある子どもの理解
03	病気の生理と病理①　循環器疾患の理解
04	病気の生理と病理②　呼吸器疾患の理解
05	病気の生理と病理③　悪性腫瘍（ガン）の理解
06	病気の生理と病理④　腎・泌尿器疾患の理解
07	病気の生理と病理⑤　低身長・糖尿病・肥満の理解
08	病気の生理と病理⑥　心身症などの理解
09	病気の生理と病理⑦　医療的ケア
10	病弱児の心理的特徴①　乳幼児期・学童期
11	病弱児の心理的特徴②　思春期・青年期・ＡＹＡ世代
12	医学的・心理学的介入①　医学的アプローチ
13	医学的・心理学的介入②　臨床心理学的アプローチ
14	長期入院児への教育保障
15	テストと解説
16	なし

科目名:知的障害教育論Ⅰ	担当者:小川 純子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】特別支援学校（知的障害）教諭、教頭、校長
特別支援学校（知的障害）教諭及び管理職として勤務した経験を踏まえ、知的障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニーズ及び教育現場の現状を踏まえた授業内容を計画・実施する。【AL】
知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた各教科等や教育課程編成、年間指導計画、個別の教育支援計画・個別の指導計画などについて、体験的な学習を中心として主体的に学ぶ。

授業の到達目標
①知的障害（発達障害を含む）教育における教育課程に係る法令及び学習指導要領を理解し、説明できる。
②知的障害（発達障害を含む）のある子どもに関する知識・理解を深め、実態把握や支援方法について考えることができる。
③知的障害教育の課題、教員の専門性について理解し、自ら専門性を高めるように情報を得ることができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としては、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領を予習しておくこと。また、日常的に障害児・者に関するニュース、話題、映画などに触れ、自分自身の疑問や考えを持つように心がけること。事後学修としては、指示されたレポート等の課題に必ず取り組むこと。

評価方法
授業への参加態度（20%）、課題（30%）、定期試験（50%）の達成度をもとに総合的に評価する。課題等に関するフィードバックは次回講義内及びメールで行う。

教科書 プリント資料	参考図書 特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領及び解説（総則編、自立活動編）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「問い」を持ちましょう。どうしてだろうかと考えましょう。「自分事」として考えてみましょう。それをみんなで共有しましょう。きっと、「そうか！」「そうだ！！」と思えることがたくさんあるはずです。
連絡先は授業で開示します。

01	オリエンテーション　授業概要及び目標　知的障害とは
02	知的障害のある児童生徒の学習特性と教育課程の特色、教育課程に係る法令・制度
03	知的障害教育における各教科の特性と取扱い
04	知的障害教育における道徳及び特別活動などの取扱い
05	知的障害教育における領域・教科を合わせた指導（小・中学部）
06	知的障害教育における領域・教科を合わせた指導（高等部）
07	知的障害教育における自立活動（内容及び取扱い）
08	知的障害教育における年間指導計画及び日課・週日課
09	知的障害教育における個別の教育支援計画・個別の指導計画
10	知的障害教育における年間指導計画及び日課・週日課
11	知的障害教育におけるキャリア教育
12	（知的障害のある児童生徒が在籍する）特別支援学級における教育課程と指導
13	知的障害教育における教育課程の編成と実施に係る現状と課題
14	知的障害教育を巡る今日的な課題
15	本講義のまとめ
16	なし

科目名:肢体不自由教育論Ⅰ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
肢体不自由教育に関する基礎的な知識の習得から、実際の学校現場における指導方法および支援の方策について学ぶ。参加者同士で体験したり、検討したりする中で、特別支援教育教員として必要な力量について考察する。

授業の到達目標
①肢体不自由教育の理念や課題、また対象となる幼児児童生徒の特徴を理解する。[DP]
②肢体不自由児への支援・指導のあり方について仲間と協働して検討できる。[DP]
③肢体不自由教育に携わる教員として必要な知識・技能・態度を培う。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
肢体不自由児・者に係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
授業内発表課題（70%）、授業への参加態度（30%）により総合的に評価する。
授業の最後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領 ②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部） ③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）	①特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部） ②幼稚園教育要領 ③小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
肢体不自由児の教育方法について理解することによって、特別の教育的ニーズに応じた適切な支援・指導ができるようになる。他の特別支援教育に関わる科目と関連させながら理解を深めてほしい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、肢体不自由教育の変遷および現状と課題
02	肢体不自由児を評価する指標の活用
03	肢体不自由教育における支援・配慮・工夫
04	肢体不自由教育を展開する学びの場、教育課程
05	肢体不自由教育における授業づくりの視点
06	肢体不自由教育における授業作り①（国語・算数）
07	模擬授業①発表・相互検討（国語・算数）
08	肢体不自由児の障害特性を踏まえた各教科の指導の留意点
09	肢体不自由教育における自立活動の指導体験（身体の動き・食べる・飲むことを通した指導）
10	特別支援学校における自立活動の学習指導
11	肢体不自由教育における個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成
12	肢体不自由教育における授業作り②（各教科等を合わせた指導）
13	模擬授業②発表・相互検討（生活単元学習）
14	肢体不自由教育におけるキャリア教育（授業実践から考える）
15	肢体不自由児へのスポーツ指導の体験（ボッチャ）、本講義のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:病弱教育論	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 病弱教育に関する基礎的な知識の習得から、実際の学校現場における指導方法および支援の方策について学ぶ。参加者同士で体験したり、検討したりする中で、特別支援教育教員として必要な力量について考察する。
授業の到達目標 ①病弱教育の理念や課題、また対象となる幼児児童生徒の特徴を理解する。[DP] ②病・虚弱児への支援・指導のあり方について仲間と協働して検討できる。[DP] ③病弱教育に携わる教員として必要な知識・技能・態度を培う。[DP] 【到達目標と深く関連する学科DP】 ○知識・技能 ◎思考力・判断力・表現力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 病気の子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。
評価方法 授業内発表課題（40%）、小テスト（30%）、授業への参加態度（30%）により総合的に評価する。 授業の最後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領 ②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部） ③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）	①特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部） ②幼稚園教育要領 ③小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 病弱児への教育方法について理解することによって、特別の教育的ニーズに応じた適切な支援・指導ができるようになる。 他の特別支援教育に関わる科目と関連させながら理解を深めてほしい。 連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、病弱児とは
02	病弱教育の変遷及び現状と課題、病気の子どもが教育を受ける場
03	病気の子どもとの関係作り
04	病気のある子どもの病因と特性（地域の園・学校、特別支援学校）
05	病弱教育における組織的連携・チーム作り
06	病弱教育に必要な手続きと関連法令等
07	病弱教育における各教科の指導・自立活動の指導
08	病気の状態に応じた授業作り（各教科、自立活動）
09	模擬授業発表・相互検討
10	病気の子どもたちへの担任としての関わり
11	病気の子どもの事例検討
12	進行する病気について考える
13	病気の子どもに必要な教育支援①（学習空白への対応、きょうだい児）
14	病気の子どもに必要な教育支援②（医療的ケア、キャリア教育、死を迎える子ども）
15	出生前診断について考える、本講義のまとめ
16	なし

科目名:視覚障害児の心理・生理・病理	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業科目では、視覚に障害がある幼児・児童・生徒の障害特性について心理学的、生理学的、病理学的側面から検討します。さらに障害の原因となっている眼疾患、その他の要因が視覚に障害がある児童生徒に与える影響について検討します。

授業の到達目標
①視覚に障害がある幼児・児童・生徒の障害特性について心理学的、生理学的、病理学的な側面から理解する。②視覚障害の原因疾患、その他の要因について理解する。③視覚障害児のアセスメントについて主体的に取り組むことができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修としては視覚障害教育に関する基本文献を各自が予習すること。事後学修としてはボランティア体験など視覚障害児に対し実践的にかかわる体験をできるだけ多く持つことが求められる。

評価方法
出席態度（10%）、レポート・小テスト(20%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。
授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたって視覚障害教育に関する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただき、その答えや解決への道筋を皆さんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	視覚障害の概要
02	視機能と視機能障害
03	原因疾患とその病理
04	盲児の触知覚
05	弱視児の視覚特性
06	先天性障害と中途障害の心理
07	地域の社会資源との連携
08	ロービジョンケアと視覚障害教育
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:視覚障害教育論	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 視覚障害教育の概要について理解を深めた上で、視覚障害教育の特殊性、歴史、教育課程の特色について学びます。さらに特別支援学校、特別支援学級、通常学級における教育支援について実践的に理解します。
授業の到達目標 ①視覚障害教育の概要について理解する。②盲児の学修ニーズについて理解するとともに支援方法について主体的に取り組むことができる。【DP】③弱視児の学修ニーズについて理解するとともに支援方法について主体的に取り組むことができる。【DP】
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修としては視覚障害教育に関する基本文献を各自が予習すること。事後学修としてはボランティア体験など視覚障害児に対し実践的にかかわる体験をできるだけ多く持つことが求められる。
評価方法 出席態度（10%）、レポート・小テスト(20%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。 授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講するにあたって視覚障害教育に関する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただき、その答えや解決への道筋を皆さんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	視覚障害教育の歴史
02	視覚障害児の学びの場
03	視覚障害乳幼児の発達と支援
04	盲児に対する支援
05	弱視児に対する支援
06	点字教科書と拡大教科書
07	視覚障害児のキャリア教育
08	視覚障害児の自立活動
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅲ	担当者:小原 倫子・上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:教育実習指導Ⅱの授業欠席が3回未満の学生・実習契約書の内容を遵守できる学生		単位数	3
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、幼稚園教育実習における実践的な学びを体験・学修する。特に、元幼稚園教諭の立場から、実習現場が実習生に求める実践的指導力などを事前に具体的に提示したり、訪問指導時等で学生と共有したりする中で、幼稚園教育実習における学びを学生が更に深めることができるようにする。【AL】

教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら幼児と関わりを深める中で、幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ。また、教師としての職業倫理の理解をさらに深め、応用的・発展的な知識・技術・態度について体験的に学習すると同時に、教師としての実践的指導力の基礎を培う。
同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観を持つようになる。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能や、施設・設備・環境構成等を踏まえた幼稚園教育の在り方について、実際に即して学ぶ(DP) ②発達に応じた幼児の実際の姿を通して幼児理解を深める (DP) ③観察、参加、指導実習（部分・総合）等を通して、指導計画の立案や実践の展開・評価などの幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ (DP) ④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ (DP) ⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について、実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係についての理解を深める (DP) ⑥幼小接続の在り方や、特別な支援を必要とする幼児への指導の実際、教育課程に係る教育時間終了後などに行う教育活動（預かり保育）の実際について、理解を深める (DP) ⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認すること。②事前訪問時に実習園からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。
【留意事項】実習開始までに以下の科目を履修または単位修得していること。
◆領域に関する専門的事項：幼児と健康・幼児と人間関係・幼児と環境・幼児と言葉・幼児と表現から3単位以上
◆保育内容の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等：保育者論・保育内容総論・教育原理・子ども理解の理論と方法・教育の方法・教育心理学・保育内容指導法（人間関係）・保育内容指導法（環境）・保育内容指導法（言葉）・保育内容指導法（表現）
◆教育実習関連科目：教育実習指導Ⅰ・教育実習Ⅰ

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して評価する。
フィードバックの方法：実習園の評価等は、2月に教育保育職支援センターにて、個別面談による口頭開示を行う。

教科書	参考図書
教育実習Ⅲの手引き・実習ハンドブック	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①本実習を行うに当たり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅲ」を履修することが条件となります（未履修者は本実習に参加することはできません）。②実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学・実習園へ必ず電話連絡すること（大学の受付は教務課実習担当：0562－85－2345）。

01	実習実施期間：2022年11月21日（月）～12月9日（金）3週間 事前訪問期間：10月10日（月）～10月28日（金） 巡回教員研究室訪問期間：10月31日（月）～11月10日（木） 【実習概要】幼稚園における120時間（計3週間）の実習を通して、観察・参加・指導実習（部分・総合）を体験する。①観察・参加を通しては、幼稚園での幼児の姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等の幼稚園教育の在り方について、常に自己課題を持ちながら、体験を通した理解する。また、幼小接続の在り方、特別な配慮を必要とする幼児への指導の実際、教育課程に係る教育時間終了後などに行う教育活動（預かり保育）の実際等、幼稚園を取り巻く現実的課題に目を向け、具体的な教育実践の在り方や教師の配慮事項について、理解を深める。②参加・指導実習（部分・総合）を通しては、幼児の発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務の実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、幼児への援助・指導計画の立案・教育実践の展開・実践の評価など、自ら意識的に体験をして実践的な理解を深めることを課題とする。同時に、研究保育などを通じて子と集団の育ちに配慮した教育実践を展開する中で、指導教諭からの意見を参考にして改善していく経験を踏まえ、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方について理解する。③将来の幼稚園教諭としての専門性を自覚し、自らの幼稚園教諭職に対する自覚を高めると同時に、保育観・教育観の涵養を図る。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	

11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習指導Ⅲ	担当者:小原 倫子・上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期・後期
		配当学年	3
受講者制限:当該年度の教育実習Ⅲの履修を希望していること・幼稚園教諭一種免許状の取得を希望していること・教育実習Ⅰを履修済みであること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、元幼稚園教諭としての経験を活かしながら、幼稚園教育実習における実習生の学びの深め方について、具体的に検討する。また、実習現場で求められる指導計画や実践的指導力などを具体的に検討・共有することを通じて、幼稚園教育実習に必要な知識・技能などを体験的に学ぶことができるようにする。【AL】

教育実習Ⅲのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標
①幼稚園における教育実習の意義や目標を理解する（DP）②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む（DP）③観察実習、参加実習、責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組む（DP）④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に活かしていく（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1・2年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのかの自己課題を明確にもてるよう、自ら進んで授業外学修をすること。毎回の予習課題に取り組み、事前学修を深めておくこと。

評価方法
予習復習課題（4×8回＝32%）・各回のFB（5×8回＝40%）、指導案発表（20%）、授業への意欲（8%）を総合的に評価する。
フィードバックの方法：指導案発表に関しては、発表時に教員からも口頭で講評を行う。また、各回の学びに関する質問については、次回の授業時に口頭（もしくはMoodle）で補足説明・回答をする。

教科書	参考図書
教育実習Ⅲの手引き・実習ハンドブック	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書（平成29年告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・本授業は、幼稚園教諭免許状の取得を目指す全ての学生が履修する必要があります。
・公欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生や、正当な理由なく無断で授業を欠席・遅刻した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、その前後に必ず、教務課または授業担当教員に直接連絡をしてください（要課題）。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。
・下記8回の授業の他、教育実習Ⅲを履修する学生は、①実習園発表や実習倫理に関するガイダンス（誓約書・個人票作成）、②事前訪問ガイダンス、③実習評価票に基づく個別面談などが、授業外のガイダンスとして実施しますので、必ず忘れずに参加してください。

01	教育実習Ⅲの課題と幼稚園における教育の理解　－幼稚園教育の実際－
02	教育実習における指導計画の立て方
03	学年別の指導案の作成と発表（１）年少児
04	学年別の指導案の作成と発表（２）年中児
05	学年別の指導案の作成と発表（３）年長児
06	教育実習に向けての幼児理解と記録　―日誌の書き方―
07	教育実習直前指導（教師としての心構えや教職倫理）
08	教育実習事後指導　―学びの振り返りと自己課題の明確化―
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	教育実習事後指導（２）自己課題の明確化

2022年度シラバス

科目名:保育実習Ⅰ（保育所）	担当者:基村 昌代・太田 早津美・樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:当該年度の保育実習指導Ⅰを受講している事		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育所の役割や意義について、子どもや保護者との関わりながら具体的に学ぶ（AL）。観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める（AL）。記録・指導計画について担当保育士等からの指導を受け具体的に理解する（AL）。保育士の仕事について観察や補助的な役割を担当しながら、保育士の仕事内容について理解する（AL）。

授業の到達目標
①保育所保育指針の示す養護と教育を一体的に行うということはどのようなことかを実体験しながら理解する。②保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。③保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。④実習の自己評価から自己課題について確認し、次の実習に生かせるようにする。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】◎主体的に学ぼうとする力　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から健康管理に気をつけ、体力づくりをしたり、実習前の事前準備をしっかり行っておくことが重要です。以下のことを念頭に置いて実習に臨みましょう。
実習先で好まれている遊びや手遊びを事前に学び、実践で生かせるようにする。実際に子どもの状況を観察し、子どもの発達や子ども理解についての学修を深め、子どもへの援助や関わり方に生かせるようにする。
記録や計画、保育実践について指導されたことを改善し次に生かせるようにする。

評価方法
実習への参加や態度　１０％　実習の評価　６０％　実習日誌　２0%　実習事後レポート　１０％　実習園評価は全員開示、それ以外のレポートトや提出物の評価については、評価の基準内容をMoodleに示し、評価して返却する。フィードバックは実習園の評価を個別に開示する。

教科書	参考図書
保育所保育指針　実習ハンドブック、　保育実習Ⅰ実習の手引き　　０～５歳児指導計画の書き方がよくわかる本	その他適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から体調管理に気を付けましょう。実習中に体調が悪くなった時には無理をせず、早めに実習園と大学に連絡を取るようにして、指示を受けましょう。　連絡先　7402　ohta@ohkagakuen-u.ac.jp

01	実習先への事前訪問から実習が始まることを理解し、実習に臨む意識が明確にできるように実習生としての自覚について直前指導をしっかり行う。保育士になるという意識が持てるよう、担当保育士等の子どもや保護者への関わり方をしっかり観察しながら学修することを伝える。 実習期間中に教員による実習園訪問を行う。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当者:基村 昌代・太田 早津美・樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:指定期間に保育実習Ⅰ（保育所）の実習を実施すること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
実習の内容や実習に必要な知識や技術について、講義と演習により学ぶ（AL）。実習施設で自信をもって意欲的に取り組めるようにするために、自主的に記録の書き方や指導計画についての学びを実践的に学び、実習に必要な知識や技術を習得できるようにする（AL）。実習生としてふさわしい心構え・態度や行動について確認し学修する。

授業の到達目標
①保育実習の意義や目的を理解し、実習施設での保育内容や子どもの観察・実習の計画・実践・記録・評価について具体的に理解する（DP）。②実習内容を理解し、実習施設における子どもの最善の利益を考慮した保育や職業倫理ついて理解する。③実習生としてふさわしい態度や行動を身に着けるとともに、実習の目標や自らの課題を明確にする（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎主体的に学ぼうとする力　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習生としてふさわしい態度・行動ができるように日頃から心掛けることや健康管理や体力づくりに心がけることは実習に臨むための基本です。そのことを念頭に置きながら以下のことを準備しておきましょう。
乳幼児との触れ合う機会を多くし、子どもの発達や子ども理解に努める。記録や指導計画については予習復習をしっかり行い記載方法に慣れておくようにする。また、できるだけ多くの絵本の読み聞かせや手遊びを覚え練習して、保育実践に備えておく。

評価方法
授業への出席と授業態度４0%　提出物４0%　総合評価２０%。授業態度、レポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。フィードバックは授業時に学び、感想や質問を記載する。

教科書	参考図書
実習ハンドブック、　保育実習Ⅰ実習の手引き　　保育所保育指針　0～５歳児指導計画の書き方がよくわかる本	その他適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習日までに保育実践に使える歌遊びや手遊びを覚えるとともに、記録や指導計画の書き方を自主的に学修する機会を多くし、自信をもって実習に臨めるようにしておきましょう。

01	保育実習について（オリエンテーション）
02	保育実習の流れの説明と諸注意
03	保育所の説明と保育所の生活の流れについて
04	教材研究（教材の制作）
05	記録の書き方と指導計画について
06	指導計画の作成について①
07	指導計画の作成と展開②
08	健康指導・必要書類の作成
09	直前指導　（記録・指導計画・外部講師）
10	事後指導（自己評価・お礼状）
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:学校インターンシップ指導	担当者:辻岡 和代・森川 拓也・松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:教育実習Ⅱを履修していること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。【AL】
年間を通した小学校での児童の姿や発達、授業や行事などの教育活動、校務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等、小学校教育のあり方について、自ら意識的に体験をして理解を深めることができるよう指導し、実習後の振り返りから自己課題を検証し、今後の課題に繋げていく。

授業の到達目標
①小学校におけるインターンシップの意義や目標、課題を理解する。【DP】
②子どもを指導する立場としての心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組むことができる。【DP】
③インターンシップの活動内容についてグループ学習を通して協同的に学び合うことができる。【DP】
④インターンシップの取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や教育実習Ⅳに活かしていくことができる。【DP】

【到達到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　1・2年の実習を踏まえて、学校インターンシップではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。出された課題は確実に取り組み、授業で報告できるようにしておくこと。具体的な学修活動については、授業内で提示する。また、提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

評価方法
課題（ワークシート等・実習ファイル)70%、授業への参加態度30%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
学校インターンシップ手引き　　愛知県教員研修の手引き	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、２年生時に教育実習Ⅱを履修していること。小学校教員を志す意思があること。
連絡手段は授業時に伝達する。

01	学校インターンシップに関するガイダンス
02	学校事前訪問に向けての準備と心構え
03	学校インターンシップの課題と事前事後指導の計画について
04	学校インターンシップにおける心構え
05	各種記録物の書き方についての理解と練習
06	学校インターンシップの事前学習と事後学習①　小学校での児童の姿や発達
07	学校インターンシップの事前学習と事後学習②　小学校における授業
08	学校インターンシップの事前学習と事後学習③　特別支援学級における授業
09	学校インターンシップの事前学習と事後学習④ 教員の役割
10	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑤ 施設・設備・環境構成
11	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑥ 行事（遠足・運動会・野外活動等）
12	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑦ 長期インターンシップ
13	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑧ 人権集会等の企画
14	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑨　自己目標と課題
15	総括
16	

科目名:学校インターンシップ	担当者:辻岡 和代・森川 拓也・松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:教育実習Ⅱを履修していること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
年間を通して、担任業務の細かな内容を知り、学校の職員の一人としての心構えや留意することなどを学ぶ。また児童を支援する活動を行うことで、児童の見方・支援の方法などを体験的に学ぶ。主に前半に観察実習、参加実習が中心となる。

授業の到達目標
①小学校の役割や機能について具体的に学び、教職意欲の向上を図ることができる【DP】
②児童の実際の姿や活動を通して子ども理解を深めることができる【DP】
③学級活動・授業の観察、参加、学校行事への参加を通して、授業づくり・学級経営についての技量を学ぶことができる【DP】
④教育実習Ⅳに向けての自分の目標を設定することができる【DP】
①～④について、自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①学校インターンシップの実施に先立って、学校インターンシップ指導で学んだことをよく確認すること。 ②事前・事後学習の内容を深めること。

評価方法
実習校からの「教育実習評価表」の評価と（60%）、日誌（20%）及び事後レポート（20%）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
学校インターンシップの手引き　　愛知県教員研修の手引き	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、２年生時に教育実習Ⅱを履修していること。小学校教員を志す意思があること。
連絡手段は授業時に伝達する。

01	実施期間：毎月1回、さらに11月の２週間、その他行事等（小学校年間計画による） 小学校におけるインターンシップから、教育の実際を体験的に学び、理解する。 ①小学校の役割や機能についての理解　② 小学校における子どもの実際についての理解　③ 小学校での授業づくり・学級経営についての理解　④教育活動（行事等）の意義の理解⑤学校経営の意義の理解　⑥教育実習に対する課題の確認
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:総合演習Ｉを履修済みである者		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　子どもの造形活動に関する今日的な課題について触れながら、教育・保育実践に関する自らの課題を「卒業研究」としてまとめるために、以下の内容を目標とする。
【研究法の理解】
①卒業研究を進めるための基礎的な知識・技能を身につける（全2回）
②文献ノートの作成方法、マインドマップによる検討について学ぶ（全２回）
③子どもの造形活動に関する課題を環境・教材・援助の視点からDVDを視聴し、討論を行う（全２回）
④教材開発について体験的に学ぶ（１回）
【研究テーマの設定】
⑤研究キーワードの抽出を行い研究計画について検討を行う（１回）
【研究準備】
⑥先行研究の調査を行い、概要のまとめをゼミでプレゼンし、研究目的・方法・対象の検討を行い、研究デザインとフレームを確定する。（全6回）。
⑦フィールド研究のための倫理的配慮事項について理解し、協力園（校）への調査依頼書を作成する（1回）

授業の到達目標
【研究基礎力】
①ゼミでの学びや活動に主体的に取り組める（主体的に学ぼうとする力）
②ゼミでの他者の学びや体験を共有できる（協同的に学び合う力）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【研究法の理解】
①資料をもとに卒業研究を進めるための基礎的な知識について要点をまとめる（4時間）
②文献ノートを作成し、マインドマップソフトを使って研究テーマに関する論点をまとめる（4時間）
③子どもの造形活動に関するDVDを視聴し内容を要約して、自分の考えをまとめる。討論の内容をまとめる（4時間）
④体験した教材について実践に活用する際の注意点や発展的な活動について意見をまとめる（2時間）
【研究テーマの設定】
⑤研究キーワードの抽出を行い、研究計画を事前に作成しておく（2時間）

評価方法
文献ノート、研究計画書等を30％　ICTを用いたプレゼン資料及び発表を70％として評価する。研究計画や発表に対するフィードバックを授業時等に行う。

教科書	参考図書
初学者のための質的研究26の教え（医学書院）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。資料提示はMoodleにて行う（キーボードを使った入力に慣れるため、スマートフォンの利用はしない）。
・欠席が3回を超えた時点で失格とする。
・３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	研究準備①　ガイダンス（保育学科の教育理念と卒業研究の位置づけ、研究指導スケジュール）
02	研究準備②　問題意識を持ってテーマを決めよう
03	研究準備③　文献を読もう（先行研究に学ぶ）
04	研究準備④　文献の検索と文献リストの作成について理解しよう
05	研究準備⑤　「私の研究計画」（研究目的と対象・方法）
06	研究準備⑥　研究の方法（文献研究、観察法、質問紙法、面接法、実践研究）
07	研究準備⑦　論文の構成と表現について（論文を読んでみよう）
08	研究準備⑧　マインドマップの使い方
09	先行研究の収集と検討①　文献検索とまとめ
10	先行研究の収集と検討②　図書館での文献検索（グループAの面談）
11	先行研究の収集と検討③　図書館での文献検索（グループBの面談）
12	先行研究の収集と検討④　図書館での文献検索（グループCの面談）
13	先行研究の収集と検討⑤　パワーポイントでの資料作成
14	先行研究の収集と検討⑥　ハンドアウトの作成
15	研究成果のまとめ（ICTを使った発表）
16	

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．卒業論文のテーマの検討、研究手法の検討（9回）
２．学外研修に関する準備・実践・反省（3回）
３．その他　ガイダンスなど（3回）

授業の到達目標
１．保育・教育の現場で取り組まれる「食育」について、ゼミ内において発表・考察することができる【DP】
２．先行研究を読み、研究テーマ・研究手法を検討することができる【DP】
３．食育講座における準備と実践を仲間と協力して行う事ができる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
討論や研究に主体的に参加出来る様に、授業外でも沢山の文献を読み、調理体験や保育実践を積み重ねる努力をすること。
具体的な学修活動については、授業内で提示する。(4時間程度)

評価方法
各課題の取り組み40％（授業計画の各項目に課題を設定します）・ゼミ活動への参加態度60%とし評価する。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書 使用しない	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
総合演習ⅡＡの履修対象者は、原則的に総合演習ＩA・ＩBを修了した者とする。但し総合演習ＩA・ＩBが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、総合演習ⅡＡと総合演習ＩAの同時履修について、特別に認められることがある。質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス
02	教職履修カルテの振り返り
03	学外研修について
04	先行研究の紹介と討議
05	先行論文の調べ方
06	卒業論文について
07	研究手法について
08	卒業研究課題の検討①　調理学研究　【AL】
09	卒業研究課題の検討②　栄養学研究　【AL】
10	卒業研究課題の検討③　食育研究　【AL】
11	卒業研究課題の検討④　食物アレルギー研究　【AL】
12	卒業研究課題の検討⑤　その他の研究　【AL】
13	学外研修：食育講座に関する準備
14	学外研修：食育講座
15	学外研修反省会　【AL】
16	

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:古畑 淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　児童（及び生徒）の「成長と発達の権利」を保障するための制度などについて学び、児童をめぐる教育・福祉に関する知識、理解を深めるというのがこのゼミの内容であり目標です。　ゼミの進行ですが、ゼミでは、ゼミ生各自の関心に基づいた個別報告（プレゼンテーション）を中心に進めていくことにします。また、ゼミ全体の共通テーマを決め、議論、検討（グループディスカッション）、を行うこともしたいと思います。演習の性格から、ゼミへの皆さんの積極的な関わりを期待します。【ＡＬ】　なお、本科目は、「総合的な学修・研究科目群」に位置づく科目である。

授業の到達目標
　資料検索の方法を習得する（DP）。レジュメの作成方法、報告・司会の方法を習得する（DP）。卒業研究のテーマを確定し、卒業研究の執筆の準備をする（DP））。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　報告者はレジュメを作成し、人数分の印刷をして授業に出席すること。　ゼミ討論などを通じて学んだことを確実に記録して、次の報告に生かすこと。

評価方法
　レポート課題の評価（50%）、日常的なゼミへの参加態度や主体的な課題解決の取り組み(50%)を総合的に評価する。遅刻・無断欠席はしないこと。
　【授業において提示したレポート課題に対するフィードバックについて】
　レポート締め切り後に行われる授業において、個々のゼミ生に対して講評と指導を行う。

教科書	参考図書
とくに指定しません。	授業において適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。　日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	研究テーマの探し方について
02	資料の検索方法について
03	レジュメの作成方法と報告・司会の仕方について
04	ゼミ共通テーマの決定について
05	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
06	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
07	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
08	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
09	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
10	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
11	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
12	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
13	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
14	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
15	前期活動のまとめ
16	

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:基村 昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では子どもの音楽表現活動に焦点をあて、実践を行います。子どもの表現を育むためには、身近で接する者が表現をすることの楽しさや喜びを感じられていることが重要であり、豊かな感性や表現力を持っていることが望ましいです。子どもの音楽表現活動、音楽劇制作などの実践を通し、学生自らが体験し、感性や想像力を育み、保育者・教育者としての資質向上につなげます。その活動は地域に密着したアウトリーチ活動において実践し、パフォーマンス力なども養います。(AL)

授業の到達目標
　子どもの音楽表現活動や音楽劇制作に触れる上で、子どもが主体的に自分たちで作り上げる表現活動のあり方、ねらいを踏まえた上で、子どもの表現活動がどうあるべきか考察する。また創りあげた制作を地域で披露し、自ら「感動体験」を味わい、子どもにとっての発表体験が如何に大きな機会であるか体験し、子どもの表現活動を様々な視点から援助できる教育者・保育者を目指す。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　ボランティア活動などを行ない、実践力を養うよう努力して下さい。積極的に研究テーマの研究を行って下さい。

評価方法
　レポート提出100点、平常点200点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して到達度、学修意欲、授業への参加態度を総合して評価します。最終授業時に全体向けにフィードバックを行います。

教科書	参考図書
テキストは担当教員が随時提示	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	ガイダンス、自己紹介等相互交流と役割分担、卒業研究に向けての構想
02	映像による事例研究及びディスカッション（１）
03	映像による事例研究及びディスカッション（２）
04	プロジェクト・オリエンテーション及びプランニング（１）
05	プロジェクト・プランニング（２）
06	プロジェクト実施のための練習及び制作（１）音楽稽古①　インプロヴィゼーション・ゲーム①
07	プロジェクト実施のための練習及び制作（２）音楽稽古②　インプロヴィゼーション・ゲーム②
08	プロジェクト実施のための練習及び制作（３）音楽稽古③、舞台セットプランニング①
09	プロジェクト実施のための練習及び制作（４）音楽稽古④、舞台セットプランニング②
10	プロジェクト実施のための練習及び制作（５）音楽稽古⑤、小道具プランニング①
11	プロジェクト実施のための練習及び制作（６）音楽稽古⑥、小道具プランニング②
12	実践（１）
13	実践の反省会
14	実践（２）
15	実践の反省会、総括（フィードバック）
16	

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:保育現場へのフィールドワークによる卒業研究を視野に入れていること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
①幼児教育学・保育学を基づく保育方法や保育者の在り方について、学びを深めるよう展開する。
②研究の在り方を学ぶと同時に、卒業論文執筆の土台作りをしていく（保育トピックや研究方法・自身の関心テーマに関するレジュメ発表とディスカッション：1人につき計2回）。【AL】

授業の到達目標
①保育実践に関連したテーマについて主体的・協同的に語り合う中で、自ら考えを深めるようになる（HDP2）。
②幼児教育・保育学の多様な考え方を理解し、知識を拡げながら関心のあるテーマについて探究すると同時に、自ら問いを立てて、主体的かつ意欲的に研究に取り組む（HDP1）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP1：主体的に学ぼうとする力　○HDP2：協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①各自のレポートは、文献を読んだり配布資料を作成したりするなど、事前準備をします。また、発表やディスカッション・指導後には、再度見つめ直して各自レポートを作成してもらいます。
②保育学・幼児教育学の学びをより実践的に深めるために、可能な限りボランティア活動などを通じて保育現場に出向き、保育現場に埋め込まれた問いを発見してほしいと願っています（Covid-19の感染状況等に応じて適宜対応を検討します）。

評価方法
授業への取り組み（20%）と2種類の課題発表（80%）の割合で評価する。
フィードバックの方法：課題発表等においては、発表時に総評と次の課題作成への留意事項を伝える。

教科書 なし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①前期は、選定図書の輪読とレジュメ発表を通して、卒論テーマ選定と研究デザインの素案作りをします。仲間と共に学ぶ意識をもち主体的な参加を希望します（連絡先・OH等は初回に提示します）。
②３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とします。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	オリエンテーション・2年間の教職に関する学びの省察（学びのカルテの振り返り）
02	卒業研究の進め方と研究方法（１）先行研究・検索の方法
03	卒業研究の進め方と研究方法（２）レビューの仕方
04	卒業研究の進め方と研究方法（３）レジュメの作成方法
05	保育学について考える（１）課題A発表とディスカッション
06	保育学について考える（２）課題A発表とディスカッション
07	保育学について考える（３）課題A発表とディスカッション
08	各自の研究テーマを考える（１）関心トピックの選定
09	各自の研究テーマを考える（２）先行研究の引用方法
10	各自の研究テーマを考える（３）研究倫理について
11	研究計画と先行研究発表（１）課題B発表とディスカッション
12	研究計画と先行研究発表（２）課題B発表とディスカッション
13	研究計画と先行研究発表（３）課題B発表とディスカッション
14	学外体験（ボランティア活動）と保育実践研究におけるフィールドワーク
15	前期のまとめ
16	

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:１年ゼミ（基礎演習）と２年ゼミ（総合演習Ⅰ）の修了者。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　①共通テキストの輪読を行ない、教育・保育の問題点や到達点について皆で考察する（保育学科DP3）。②教育・保育・福祉の実践、思想、理論、自叙伝、かつての日本社会での人の育ち方、教育・保育での事件（当事者や関係者が書いた本）、教育・保育の今日の問題点などを、各自が文献・資料を通して考察する（保育学科DP1、3）。これらの作業を織り交ぜながら、皆で共有して考えて行く作業を行いつつ、各自の卒業論文テーマを浮き上がらせていく（保育学科DP1、2、3）。

授業の到達目標
①文献・資料の内容を理解し、整理し報告する力を身に付ける。②学外実習や学外体験（ボランティア活動参加）を振り返りながら、文献・資料と「現場の現実」とを繋げて考察する思考力を身に付ける（可能であれば教育・保育の「現場の現実」を把握できるような体験も行う）。③他者の意見や報告を共有し、自分自身や他者の考えを広げて行ける発言と思考力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修）は、随時必要となる。各自がそれらの作業を行って参加しないと、総合演習は成り立たないので、強く自覚して参加すること。

評価方法
　参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。ゼミ報告の内容についてのフィードバックはゼミ内で行います。

教科書	参考図書
特に設定しない。	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件は、３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　木曜日昼休み　研究室

01	演習のテーマと方法について
02	各自の問題関心の報告①
03	各自の問題関心の報告②
04	各自の問題関心の報告③
05	共通テキスト輪読①
06	共通テキスト輪読②
07	共通テキスト輪読③
08	卒研についての検討①
09	卒研についての検討②
10	共通テキスト輪読④
11	共通テキスト輪読⑤
12	共通テキスト輪読⑥
13	卒研についての検討③
14	卒研についての検討④
15	夏休み課題およびフィールドワークの確認
16	なし

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本ゼミの中心的なテーマは、発達障害（気になる子ども等を含む）の理解および障害・病気等のある子どもの保護者支援・家族支援である。このテーマに迫っていくための基礎となる力を身に付けることを目指して、文献の輪読および現場での実地体験を行う。特にドミナント・ストーリーの理解だけでなく、アルタナティブ・ストーリーの理解を目指す。

授業の到達目標
①文献の読み方を身に付ける、②自身の研究テーマを定める、③人の生きる姿を深く理解しようとする姿勢を身に付ける（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
発表の順番が回ってきたときには、各自十分に準備し、責任をもって行うこと。また課題の提出期限を守ること。発達障がいのある子どもや配慮を要する子ども、病気の子どもの保育・教育、障害・病気のある子どもをもつ保護者への支援・家族への支援などをテーマに据えて、「子どもを育てる」という営みの面白さや難しさを共に考えていきたい。

評価方法
ゼミでの発表および対話への参加態度（50%）、各学期の課題レポート（50%）により総合的に評価する。レポートおよび発表に対するコメントによりフィードバックを行う。

教科書 なし	参考図書 多様な人生のかたちに迫る発達心理学（川島大輔ら編，ナカニシヤ出版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（自己紹介・ゼミの方向性）
02	本ゼミの年間計画の検討・役割分担・教職履修カルテの振り返り
03	文献輪読①―親子関係・マルトリートメント
04	文献輪読②―親になること・家族であること
05	文献購読③―ともだち・恋愛
06	文献購読④―働く・メディアの問題
07	現場体験（保育）
08	文献購読⑤―死ぬ・老いる
09	文献購読⑥―がん・ビジュアルデイファレンス
10	文献購読⑦―震災・多文化共生
11	現場体験（学校）
12	文献購読⑧―発達障碍
13	文献購読⑨―保護者支援
14	文献購読⑩―家族支援（きょうだい）
15	まとめ
16	なし

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
教育・保育の実践者として「どんな教育・保育者になりたいのか、どんな実践をしたいのか」を具体的に描きながら、自身の成長を目的とした研究をするための基礎的知識・能力を高めるために行う。それぞれが積極的に調査・分析し、ディスカッションを重ねることを大切にし、卒業研究への道筋を見つける。

授業の到達目標
①個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる【DP】
②個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる【DP】
③個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識基礎的な知識・技能・体験を理解し身に付けている【DP】
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
主体的に様々な文献や資料にあたり、報告レポートや配付資料の作成など十分な準備をしておく。学んだことをしっかりと事後学修し、次の報告に生かすようにする。

評価方法
フィードバック：レポートや個別課題・報告について、適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
授業に参加する姿勢・活動（40%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　ゼミへの協力（20%）以上を総合して評価する。

教科書	参考図書
適宜紹介する。	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡はメール（t-morikawa@ohkagakuen-u.ac.jp）を使用する。

01	卒業研究に向けてのガイダンス
02	履修カルテの振り返り
03	レポート・報告書の書き方と討議の進め方について
04	教育・保育の実践に関する演習（教材研究）
05	ブックレポート作成について
06	ブックレポート発表・話題提供・討議①
07	ブックレポート発表・話題提供・討議②
08	教育・保育の実践に関する演習（言語的活動）
09	個々の課題意識の発表・交流①
10	個々の課題意識の発表・交流②
11	教育・保育の実践に関する演習（表現的活動）
12	研究構想の立て方と研究方法について
13	個々の研究構想の発表・交流①
14	個々の研究構想の発表・交流②
15	個々の研究構想の発表・交流③
16	夏季休業中の課題について

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究に向けて、先行研究の調べ方、論文のまとめ方など論文執筆に必要な基本的事項について学ぶ。その中で障害児を中心とした特別な支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。各自の興味・関心を基にした研究活動を通して「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。

授業の到達目標
①卒業研究に向けて、論文執筆をする上で必要な知識を身に付ける。[DP]
②体験的な活動の中から、各自の興味・関心をより具体的なものにして卒業研究のテーマを見つける。[DP]
③特別の支援を必要とする子どもへのよりよい指導・支援のあり方を検討する中で「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　卒業研究に向け、必要に応じて個別指導を行う。その際、各自のテーマに沿って提示する課題に沿って取り組むこと。発表時には自分の考えを正しく相手に伝えられるよう、責任をもって準備を進めてほしい。

評価方法
授業への参加態度（50%）、課題（50%）により総合的に評価する。
各課題の後で対面、メールにてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
プリント資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　全ての子どもにとって理解しやすい（ユニバーサルデザイン）指導・支援ができるよう、特別の支援を必要とする子どもたちへの学びのあり方について、ゼミの仲間と共に考えましょう。初回授業時にオフィスアワーや連絡先を伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方、方向性、ゼミの年間計画、役割分担）
02	２年後期教職履修カルテ振り返り
03	人間関係作りトレーニング・イニシアティブゲーム
04	４年生の発表から学ぶ
05	研究方法の紹介（事例、実験、質問紙、文献等）
06	興味・関心のある内容についての発表・対話（現段階での関心について）
07	特別支援学校児童との交流　計画
08	特別支援学校児童との交流　教材づくり
09	特別支援学校児童との交流　１回目　実施
10	特別支援学校児童との交流　１回目　反省
11	特別支援学校児童との交流　２回目　実施
12	特別支援学校児童との交流　２回目　反省
13	卒業研究に向けたテーマの設定①
14	卒業研究に向けたテーマの設定②
15	夏休みの研究課題（参考文献の収集）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 　教育・保育現場に出た時、向き合う子どもの発言や行動をどのように理解し、授業づくりを進めていくのか検討し、学びます。これまでの先行研究や先人の実践記録、資料、文献をもとに議論、考察する中で、各自の卒業論文のテーマを見つけていきます。
授業の到達目標 　自分自身の被教育体験も振り返りながら、資料・文献を読み、報告・議論し、事象や手立てなど深く考察する力を養う【DP】。議論する中で、自分自身の問題意識を明確にし、卒論研究テーマを設定していく【DP】。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎主体的に学ぼうとする力 ○協同的に学び合う力
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　資料や文献を読み、議論する際は、事前にレジュメを作成するなど準備が必要なこともあります。考察、議論後は、自分自身の問題意識と照らし合わせ、研究テーマを検討してください。
評価方法 授業への参加態度（発言・報告・活動）50%、レポートで50% フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、授業時に適宜行う。

教科書	参考図書
適宜紹介します	適宜紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 教育現場や学外施設への参観が可能な場合は連絡しますので、参加してください。参観について日時未定のため、授業計画が入れ替わることもあります。オフィスアワー木曜昼休み。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス
02	教職履修カルテの振り返り
03	資料・文献講読とディスカッション①
04	資料・文献講読とディスカッション②
05	資料・文献講読とディスカッション③
06	資料・文献講読とディスカッション④
07	資料・文献講読とディスカッション⑤
08	教育現場の参観
09	教育現場の参観報告・交流
10	研究の進め方
11	個別の問題意識の発表・交流①
12	個別の問題意識の発表・交流②
13	個別の問題意識の発表・交流③
14	個別の問題意識の発表・交流④
15	個別の問題意識の発表・交流⑤
16	

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
ICT機器などを利用しながら卒業研究に向けた基本的な資料収集や執筆方法について学び、音楽を中心とした表現の研究について議論しながら理解を深める。また、子育て支援室や親子コンサート、保育現場での表現活動への参加を通して、教育者・保育者に求められる表現力を身につける。【AL】

授業の到達目標
①卒業研究に向けた基本的な研究方法や執筆の手だてについて理解する。②子どもの音楽的表現や指導法などに関する研究や実践について、集団中の相互作用によって理解を深める。(DP) ③保育所・幼稚園や施設等での表現活動を通して子ども理解を深め、保育者に求められる表現力や実践力を身につける。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・ディスカッションが中心となるため、各回の話題に沿ってあらかじめ情報収集を行うこと。
・各々の興味関心に沿って、積極的にボランティア活動を行うこと。
・発表を担当する際は責任を持って事前準備を行い、必要な書類は印刷した上で発表に臨むこと。
・欠席・遅刻が5回を超えた場合は受講資格を失うこととする。

評価方法
授業への取り組み（50%）、発表（50%）
課題（発表資料、実践）にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書 特になし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的に人とかかわる姿勢を忘れずに取り組むこと。連絡手段については、授業内で開示する。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方、役割分担）
02	ゼミ年間計画の立案
03	自己課題の発表
04	研究方法の紹介（1）
05	研究方法の紹介（2）
06	文献収集と調査の進め方
07	事例研究の分析とディスカッション（1）
08	事例研究の分析とディスカッション（2）
09	表現活動の実践―子育て支援―
10	表現活動の実践―歌唱・楽器を通した表現遊び―
11	表現活動の実践―さくら・さくらんぼ保育のリズム遊び―
12	興味関心に沿った先行研究の紹介（1）
13	興味関心に沿った先行研究の紹介（2）
14	研究テーマの発表（1）
15	研究テーマの発表（2）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、「子どもの健康・スポーツ」を大きなテーマとして、現代における子どもを取り巻く健康問題やスポーツ環境と教育者・保育者の役割について具体的な教育・保育現場の事例を用いながら考えて行きます。また卒業研究に向けて、論文の書き方や先行研究の調べ方など、論文執筆の基本的な作法を学びます。

授業の到達目標
１．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる（D P）。
２．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる（D P）。
３．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識・技能・体験を理解し、身につけている（D P）。
４．学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる（D P）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教育・保育現場でのボランティアに可能な限り積極的に参加し、自分の興味関心に対して調べる習慣を身につける。またゼミ発表に向けて、文献を読んだり、配布資料を作成するなど、事前準備をしっかりすること。

評価方法
レポート・提出物等80%、ゼミ活動への取り組み状況・授業への参加態度20％を総合的に判断する。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
適宜、紹介します。	適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として3年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に1年ゼミ(基礎演習)および2年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し2年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは初回授業でのガイダンスで知らせるとともに研究室ドア等に掲示します。
メールアドレス：y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（教職履修カルテの振り返りを含む）
02	ゼミの年間計画（卒業研究を含む）の検討
03	研究の進め方①
04	研究の進め方②
05	研究の進め方③
06	事例研究とディスカッション①
07	事例研究とディスカッション②
08	事例研究とディスカッション③
09	各自の研究テーマを考える①
10	各自の研究テーマを考える②
11	各自の研究テーマを考える③
12	研究計画の作成と先行研究発表①
13	研究計画の作成と先行研究発表②
14	研究計画の作成と先行研究発表③
15	前期のまとめ
16	なし

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育や幼児教育の現場に出てからも絶えず研究と修養が求められています。そのため、自身の探究すべきテーマを見つけ、調べ、分析し、他者に向けて発表するという一連の学びのプロセスを経験する授業にします（AL）。研究は心理学をベースとした方法論に則って行い、前期は実際にグループ研究を行います。研究テーマは人（子ども・保護者・保育者）の心が関連していれば、そして社会的に役に立つものであれば、何でも大丈夫です。

授業の到達目標
1）研究をすることの意味が理解できる（DP）。
2）主体的に問題を発見し、解決するための方法を理解することができる（DP）。
3）他者との協同において適切な社会的スキルを身につけることができる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：共同研究および個人の卒業研究のための先行研究を探し、まとめましょう。また、人に伝えることを意識して発表準備をしましょう。
事後学修：他者からもらった意見をもとに再考する癖をつけましょう。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、発表・レポート（50%）
発表・レポートに関しては適宜、授業内でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	適宜、紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
個別指導も多くなると思います。教員・仲間とのコミュニケーションを面倒がらず、楽しんでゼミ活動をしましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス
02	保育・幼児教育に活かす研究とは何か
03	先行研究の調べ方
04	研究方法の紹介（観察・質問紙）
05	研究方法の紹介（実験 研究方法の紹介（実験・面接）
06	子ども発達の現代的課題
07	子どもを知る（観察）
08	共同研究の目的設定
09	共同研究の方法論の決定
10	共同研究のデータ取得の実施
11	共同研究の分析
12	共同研究の考察
13	共同研究の発表準備
14	共同研究の成果発表
15	前期のまとめ、夏休み中の課題設定
16	なし なし

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
人間の発達及び、人間を取り巻く様々な環境との関係性について、心理学をベースとした方法論に則って論理的・分析的に考える力を習得することを目的とします。自らが探求したいテーマを見つけ、ゼミの仲間と話し合い、協力してお互いの目標を達成することを通して研究の楽しさを学んでほしいと思います。前期は、関心の高いテーマの文献購読を行います。レジュメにまとめグループ発表し、受講生全員でディスカッションを行います。

授業の到達目標
1.発達心理学を中心とした、心理学に関する幅広い知識を学ぶことで、発達の様々な事象を論理的・分析的に考えることができる（DP)
2.文献検索、文献講読、専門用語の理解、レジュメの作成方法、プレゼンテーションやゼミでの討論の方法を習得する（DP)
3.ゼミの仲間と話し合い、協力してお互いの目標を達成することを通して専門職連携の基本を身につける（DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修:卒業研究のための先行研究となる文献を検索し、概要をまとめゼミでのプレゼン資料を作成してください。事後学修:他の人のプレゼン資料から自分の研究に参考となるリサーチクエスチョンや研究方法についてまとめましょう。

評価方法
ゼミの発表及び参加態度（60%）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行います。

教科書 なし	参考図書 適宜紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方）
02	ゼミの年間計画の検討、役割分担 ＊オンデマンド型授業のため、ポータルサイトで配信した課題に対するレポート提出を要する
03	乳幼児を中心とした発達心理学研究の最新の知見を紹介し、教育、保育実践とつなげて考察する
04	関心のあることや身近な話題から研究テーマを設定しリサーチクエスチョンを立てる
05	研究テーマに関連する学術論文の検索方法とレジュメのまとめ方
06	文献講読(1)発表とディスカッション　グループ発表
07	文献講読(2)発表とディスカッション　グループ発表
08	文献講読(3)発表とディスカッション　グループ発表
09	文献講読(4)発表とディスカッション　グループ発表
10	研究方法の概要の紹介と実習(1)観察法
11	研究方法の概要の紹介と実習(2)面接法
12	研究方法の概要の紹介と実習(3)実験・調査法
13	研究方法に関連する先行研究を整理したレポートの発表とディスカッション　グループ発表
14	研究方法に関連する先行研究を整理したレポートの発表とディスカッション　グループ発表
15	前期のまとめ、夏休み中の課題設定
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
病気や障害，貧困など特別なニーズがある子どもに対する支援をさまざまな視点から検討します。さらに子どもを取り巻く家族や物的，人的環境のあり方について検討します。

授業の到達目標
①特別なニーズがある子どもたちを見る眼（アセスメント）を身につけることができる。
②人を対象とする研究に主体的に取り組むことができる。【DP】
③ゼミの共通課題について学びや体験を共有することができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
仲間とともにさまざまな体験や活動に積極的に参加することが求められます。調査対象となるのは特別なニーズがある子どもたちやその家族，セルフヘルプ・グループ（本人の会や親の会）などです。調査フィールドは統合保育の現場，特別支援学校，児童発達支援センター，母子通園施設，小児医療センターなどを想定しています。

評価方法
出席態度（40%），課題レポート（60%）で総合的に評価します。
授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックの方法としては演習内容を各自がプレゼンし、教員が評価する。

教科書	参考図書
使用しない。	授業で紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。
ゼミは学ぶ場であるとともに仲間づくりや思い出作りの場でもあります。さまざまな時間を仲間や教員と共有できる学生を待っています。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス
02	対人支援と自己理解(1)
03	対人支援と自己理解(2)
04	文献購読の方法と進め方
05	文献購読(1)
06	文献購読(2)
07	文献購読(3)
08	文献購読(4)
09	文献購読(5)
10	文献購読のまとめ（グループ発表）
11	フィールドワークの準備と振り返り(1)
12	フィールドワークの準備と振り返り(2)
13	インクルーシブ保育(教育)の理解(1)
14	インクルーシブ保育(教育)の理解(2)
15	前期のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　総合演習ⅡAの学習テーマは、「子どもの遊びと環境整備の理解」です。障がいや発達から子どもを理解し、音楽遊び、野外遊び、障がい児・者との運動会を企画・実施します。

授業の到達目標
　子どもの発達と障がい理解、音楽活動、野外遊びの活動成果をまとめてグループ発表をする。（DP◎○）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　活動ごとに活動内容・ふりかえりレポートをゼミノートに作成することを準備学習・事後学習とします。実際に活動に参加し、ゼミノートに各自記した内容をゼミのメンバーで共有することで理解と学びを深めます。ゼミの学修テーマに則り、基本的な研究方法や文献調査方法を理解します。

評価方法
　ふりかえりレポートを２回作成します（80%）。レポートを添削し、評価を行ったレポートをゼミ生にて返却します。グループワーク・グループディスカッションによるプレゼンテーション20%（ふりかえりレポートにその評点を記載します）にて評価を行います。

教科書 適宜指示します。	参考図書 適宜指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは毎週火、水、木曜日のお昼休みとします。

01	一年の目標・予定・係決め・ゼミの決まり等
02	２年後期の教職履修カルテの振り返り
03	合同ゼミ
04	障がい児・者との遊び①企画
05	障がい児・者との遊び②運営
06	障がい児・者との遊び③参加
07	障がい児・者との遊び④ふりかえりグループディスカッション
08	卒業研究に向けて①調査方法を理解する（文献調査、社会調査の基礎）
09	卒業研究に向けて②卒業研究テーマについてのグループディスカッション
10	子どもと音楽遊び①企画
11	子どもと音楽遊び②運営
12	子どもと音楽遊び③参加
13	子どもと音楽遊び③ふりかえりグループディスカッション
14	子育て支援実習の準備
15	総合演習ⅡA（前期）のふりかえり
16	なし

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では「幼児の内面理解（思い・興味・関心）・幼児に応じた環境の構成や指導の在り方」を共通テーマに、保育現場で必要な実践力を身につけることをめざしていく。ⅡＡでは、各自の卒業研究テーマを決めて、文献を中心に研究を進めるとともに、実践記録や事例から幼児の内面を読み取り、仲間とディスカッションしながら幼児理解を深め、一人一人にふさわしい発達を促す環境の構成や遊びの実際、その指導について学び合う学習を大切に取り組む。

授業の到達目標
○到達目標１　ゼミでの学びや活動に主体的に取り組む。【DP】
○到達目標２　自らの学びと課題を発表しゼミメンバーの考え方に傾聴し共有したり、能動的に学習したりする。【DP】
○到達目標３　体験学習等での気付きをゼミメンバーと伝え合って交流し、ゼミメンバーみんなで学びを深める。【DP】
○到達目標４　ゼミメンバーと交流・協力しながら、・保育者基礎力（子ども理解、遊び、環境の構成、保育者の援助）・研究法（文献資料の検索、読み方、レポートの作成）・ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・「子ども」に親しみをもって見たり関わったり、季節の移り変わりやニュース、周りの状況・変化・出来事などに気付いたりし、日頃から様々に心を動かす。
・各自の研究を計画的に進め、発表は責任をもってできるよう資料等の準備を十分に行う。
・ディスカッション後や指導後は、自分の研究の計画や内容を見直し、学んだことを活かす。

評価方法
授業への参加態度５０％、発表３０％、課題２０％により総合的に評価する。
課題については、授業終了後に、全体的な講評、解答の紹介をする。さらに個別に口頭もしくは記載でコメントをする。

教科書	参考図書
使用しない	随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方、ゼミの年間計画、役割分担）
02	研究の進め方を学ぶ
03	研究論文の書き方・まとめ方について学ぶ
04	幼児の内面理解・発達に応じた環境の構成や指導に関する文献の学習（１）
05	幼児の内面理解・発達に応じた環境の構成や指導に関する文献の学習（２）
06	学外研修の準備
07	学外研修（幼稚園の見学・参加観察）状況により中止あり
08	学外研修で学んだことの振り返り・ディスカッション・参加観察
09	卒業研究に向けての各自の問題意識の発表と意見交換
10	保育実践記録や事例から読み取る（１）３歳児・4歳児
11	保育実践記録や事例から読み取る（２）５歳児
12	遊びの場や遊びを作って実際に知る
13	ゼミ共通テーマについての共同学習・ディスカッション
14	前期の学習のまとめ
15	各自の卒業研究経過発表と個別指導
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　子どもの造形活動に関する今日的な課題について触れながら、教育・保育実践に関する自らの課題を「卒業研究」としてまとめるために、以下の内容を目標とする。
【実践報告研究】
①研究協力園（校）での実践について報告し、検討を行う。（全６回）
【指導方法・カリキュラム面の検討】
②実践場面の改善保育案やカリキュラム、保育者の関わりについて検討を行う（全６回）
【データ分析】
③データ分析について学ぶ（全２回）
【まとめ】
④図表によるまとめ方について学び、得られた結果の評価を行う。発表用のレジュメを作成し発表を行う（全3回）

授業の到達目標
①ゼミでの学びや活動に主体的に取り組める（主体的に学ぼうとする力）
②ゼミでの他者の学びや体験を共有できる（協同的に学び合う力）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【実践報告研究】
①研究協力園（校）での実践について報告書を作成する。話し合いの検討の結果をレポートにまとめる。（12時間）
【指導方法・カリキュラム面の検討】
②実践場面の改善保育案やカリキュラムを作成する。保育者の関わりについて検討した結果をレポートにまとめる（12時間）
【データ分析】
③データ分析について事前に、指定された箇所の資料を読んでおく（2時間）
【まとめ】
④図表によるまとめ方について事前に資料を読み、発表用のレジュメを作成する（6時間）

評価方法
文献ノート、研究計画書等を30%　ICTを用いたプレゼン資料及び発表を70%として評価する。第7回までの授業内容について中間まとめとして評価し、フィードバックする。

教科書	参考図書
初学者のための質的研究26の教え（医学書院）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。資料提示はMoodleにて行う（キーボードを使った入力に慣れるため、スマートフォンの利用はしない）。
・欠席が3回を超えた時点で失格とする。
・３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（後期スケジュールの確認）
02	研究報告検討会①　夏季休業中の研究報告検討
03	研究報告検討会②　夏季休業中の研究報告検討
04	研究報告検討会③　夏季休業中の研究報告検討
05	研究報告検討会④　夏季休業中の研究報告検討
06	研究報告検討会　まとめとテーマの確定
07	保育実践研究について
08	実践場面の改善保育案の作成①
09	実践場面の改善保育案の作成②
10	改善保育案の発表　グループ①
11	改善保育案の発表　グループ②
12	改善保育案の発表　グループ③
13	データ分析法（KJ法、コーディング等）
14	データ分析のまとめ方
15	研究概要の発表
16	

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．学外研修に関する準備・実践・反省（3回）
２．卒業研究課題の検討、研究手法の検討（11回）
３．その他　ガイダンスなど（1回）

授業の到達目標
１．先行研究を読み、研究テーマ・研究手法を検討しながら研究計画を立案し、卒業研究をすすめることができる。【DP】
２．食育講座における立案、準備、実践を仲間と協力して行う事ができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
討論や研究に主体的に参加出来る様に、授業外でも沢山の文献を読み、調理体験や保育実践を積み重ねる努力をすること。
具体的な学修活動については、授業内で提示する。(4時間程度)

評価方法
各課題の取り組み40％（授業計画の各項目に課題を設定します）・ゼミ活動への参加態度60%とし評価する。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書 使用しない	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
総合演習ⅡＢの履修対象者は、原則的に総合演習ＩA・ＩBを修了した者とする。但し総合演習ＩA・ＩBが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、総合演習ⅡＢと総合演習ＩＢの同時履修について、特別に認められることがある。質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス　教職履修カルテの振り返り
02	学外研修に関する準備
03	学外研修
04	学外研修反省会　【AL】
05	卒業研究課題に対する研究手法の検討①　調理学研究　【AL】
06	卒業研究課題に対する研究手法の検討②　栄養学研究　【AL】
07	卒業研究課題に対する研究手法の検討③　食育研究　【AL】
08	卒業研究課題に対する研究手法の検討④　食物アレルギー研究　【AL】
09	卒業研究課題に対する研究手法の検討⑤　その他の研究　【AL】
10	研究内容のプレゼンテーション①　調理学研究　【AL】
11	研究内容のプレゼンテーション②　栄養学研究　【AL】
12	研究内容のプレゼンテーション③　食育研究　【AL】
13	研究内容のプレゼンテーション④　食物アレルギー研究　【AL】
14	研究内容のプレゼンテーション⑤　その他の研究　【AL】
15	総合演習ⅡBの総括と今後の研究の方向性
16	

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:古畑 淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　児童（及び生徒）の「成長と発達の権利」を保障するための制度などについて学び、児童をめぐる教育・福祉に関する知識、理解を深めるというのがこのゼミの内容であり目標です。　ゼミの進行ですが、ゼミでは、ゼミ生各自の関心に基づいた個別報告（プレゼンテーション）を中心に進めていくことにします。また、ゼミ全体の共通テーマを決め、議論、検討（グループディスカッション）を行うこともしたいと思います。演習の性格から、ゼミへの皆さんの積極的な関わりを期待します。【ＡＬ】　なお、本科目は、「総合的な学修・研究科目群」に位置づく科目である。

授業の到達目標
　資料検索の方法を習得す（DP））。レジュメの作成方法、報告・司会の方法を習得する（DP）。卒業研究のテーマを確定し、卒業研究の執筆の準備をす（DP））。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　報告者はレジュメを作成し、人数分の印刷をして授業に出席すること。　ゼミ討論などを通じて学んだことを確実に記録して、次の報告に生かすこと。

評価方法
　レポート課題の評価（50%）、日常的なゼミへの参加態度や主体的な課題解決の取り組み(50%)を総合的に評価する。遅刻・無断欠席はしないこと。
　【授業において提示したレポート課題に対するフィードバックについて】
　レポート締め切り後に行われる授業において、個々のゼミ生に対して講評と指導を行う。

教科書	参考図書
とくに指定しません。	授業において適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。　日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の子ども家庭福祉、社会福祉の話題
02	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
03	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
04	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
05	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
06	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
07	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
08	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
09	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
10	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
11	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
12	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求（プレゼンテーション、グループディスカッション）
13	共通テーマのまとめ
14	卒業研究中間報告の準備について
15	後期・年間活動のまとめ
16	

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:基村 昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では子どもの音楽表現活動に焦点をあて、実践を行います。子どもの表現を育むためには、身近で接する者が表現をすることの楽しさや喜びを感じられていることが重要であり、豊かな感性や表現力を持っていることが望ましいです。子どもの音楽表現活動、音楽劇制作などの実践を通し、学生自らが体験し、感性や想像力を育み、保育者・教育者としての資質向上につなげます。その活動は地域に密着したアウトリーチ活動において実践し、パフォーマンス力なども養います。(AL)

授業の到達目標
　子どもの音楽表現活動や音楽劇制作に触れる上で、子どもが主体的に自分たちで作り上げる表現活動のあり方、ねらいを踏まえた上で、子どもの表現活動がどうあるべきか考察する。また創りあげた制作を地域で披露し、自ら「感動体験」を味わい、子どもにとっての発表体験が如何に大きな機会であるか体験し、子どもの表現活動を様々な視点から援助できる教育者・保育者を目指す。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　ボランティア活動などを行ない、実践力を養うよう努力して下さい。積極的に研究テーマの研究を行って下さい。

評価方法
　レポート提出100点、平常点200点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して到達度、学修意欲、授業への参加態度を総合して評価します。最終授業時に全体向けにフィードバックを行います。

教科書	参考図書
テキストは担当教員が随時提示	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	プロジェクト実施のための練習及び制作（１）音楽稽古①、インプロヴィゼーション・ゲーム①、衣裳プランニング①
02	プロジェクト実施のための練習及び制作（２）音楽稽古②、インプロヴィゼーション・ゲーム②、衣裳プランニング②
03	プロジェクト実施のための練習及び制作（３）音楽稽古③、大道具・小道具・衣裳など製作①
04	プロジェクト実施のための練習及び制作（４）音楽稽古④、大道具・小道具・衣裳など製作②
05	プロジェクト実施のための練習及び制作（５）荒立ち稽古①、大道具・小道具・衣裳など製作③
06	プロジェクト実施のための練習及び制作（６）荒立ち稽古②、大道具・小道具・衣裳など製作④
07	プロジェクト実施のための練習及び制作（７）立ち稽古①、活動レポート作成①
08	プロジェクト実施のための練習及び制作（８）立ち稽古②、活動レポート作成②
09	プロジェクト実施のための練習及び制作（９）立ち稽古③、活動レポート作成③
10	プロジェクト実施のための練習及び制作（９）立ち稽古④、活動レポート作成④
11	実践（１）
12	実践（２）
13	実践の反省会
14	子どもの音楽表現活動についてのレポート報告①、意見交換
15	子どもの音楽表現活動についてのレポート報告②、意見交換、総括（フィードバック）
16	

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:保育現場でのフィールドワークによる卒業研究を視野に入れていること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
①幼児教育学・保育学を基づく保育方法や保育者の在り方について、学びを深めるよう展開する。
②研究の在り方を学ぶと同時に、卒業論文執筆の土台作りをしていく（保育トピックや研究方法・自身の関心テーマに関するレジュメ発表とディスカッション：1人につき計2回）。【AL】

授業の到達目標
①保育実践に関連したテーマについて主体的・協同的に語り合う中で、自ら考えを深めるようになる（HDP2）。
②幼児教育・保育学の多様な考え方を理解し、知識を拡げながら関心のあるテーマについて探究すると同時に、自ら問いを立てて、主体的かつ意欲的に研究に取り組む（HDP1）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP1：主体的に学ぼうとする力　○HDP2：協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①各自のレポートは、文献を読んだり配布資料を作成したりするなど、事前準備をします。また、発表やディスカッション・指導後には、再度見つめ直して各自レポートを作成してもらいます。
②保育学・幼児教育学の学びをより実践的に深めるために、可能な限りボランティア活動などを通じて保育現場に出向き、保育現場に埋め込まれた問いを発見してほしいと願っています（Covid-19の感染状況等に応じて適宜対応を検討します）。

評価方法
授業への取り組み（20%）と2種類の課題発表（80%）の割合で評価する。
フィードバックの方法：課題発表等においては、発表時に総評と次の課題作成への留意事項を伝える。

教科書 なし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①後期は、各自の研究の取り組みに関する発表とディスカッション・個別指導が中心となります。仲間と共に学ぶ意識をもち主体的な参加を希望します（連絡先・OH等は初回に提示します）。
②３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とします。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	オリエンテーション・夏季学外体験等の振り返り
02	教職に関する学びの省察（学びのカルテの振り返り）
03	芸術やアートと保育・幼児教育の関連について考える（芸術鑑賞）
04	卒業研究の経過発表と指導（１）課題C発表とディスカッション
05	卒業研究の経過発表と指導（２）課題C発表とディスカッション
06	卒業研究の経過発表と指導（３）課題C発表とディスカッション
07	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（１）問いを立てるとは
08	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（２）質的研究
09	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（３）量的研究
10	教育実習の振り返りを踏まえた保育者の在り方と保育実践研究
11	卒業研究の経過発表と指導（４）課題D発表とディスカッション
12	卒業研究の経過発表と指導（５）課題D発表とディスカッション
13	卒業研究の経過発表と指導（６）課題D発表と中間発表会への準備
14	卒業研究の経過発表と指導（７）課題D発表と中間発表会への準備
15	後期のまとめ
16	

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本ゼミの中心的なテーマは、発達障害（気になる子ども等を含む）の理解および障害・病気等のある子どもの保護者支援・家族支援である。このテーマに迫っていくための基礎となる力を身に付けることを目指して、研究方法の理解および現場での実地体験を行う。また、病院ですごしている子どもたちのクリスマス会支援等、外部施設と連携した活動も行う。

授業の到達目標
①文献の読み方を身に付ける、②自身の研究テーマを定める、③人の生きる姿を深く理解しようとする姿勢を身に付ける（DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
発表の順番が回ってきたときには、各自十分に準備し、責任をもって行うこと。また課題の提出期限を守ること。発達障がいのある子どもや「気になる」子ども、病気の子どもの保育・教育、障害・病気のある子どもをもつ保護者への支援・家族への支援などをテーマに据えて、「子どもを育てる」という営みの面白さや難しさを共に考えていきたい。

評価方法
ゼミでの発表および対話への参加態度（50%）、各学期の課題レポート（50%）により総合的に評価する。レポートに対して、コメントによるフィードバックを行う。

教科書 なし	参考図書 随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡先katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教職履修カルテの振り返り・後期の授業に向けたガイダンス
02	合同ゼミ（就職・卒論ガイダンス）
03	研究に向けた方法理解―観察法①
04	研究に向けた方法理解―観察法②
05	現場体験（児童発達支援センター）
06	研究に向けた方法理解―アンケートとＫＪ法①
07	研究に向けた方法理解―アンケートとＫＪ法②
08	現場体験（病院）
09	病院のクリスマス会等に向けた取り組み①
10	病院のクリスマス会等に向けた取り組み②
11	病院のクリスマス会等に向けた取り組み③
12	卒業研究の問いを深める①―インタビュー法 卒業研究の問いを深める（３）
13	卒業研究の問いを深める②―インタビュー法
14	中間発表に向けた準備①―テーマ登録の作成―
15	中間発表に向けた準備②―テーマ登録の作成―
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
教育・保育の実践者として「どんな教育・保育者になりたいのか、どんな実践をしたいのか」を具体的に描きながら、自身の成長を目的とした研究をするための基礎的知識・能力を高めるために行う。それぞれが積極的に調査・分析し、ディスカッションを重ねることを大切にし、卒業研究を進める。

授業の到達目標
①個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる【DP】
②個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる【DP】
③個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識基礎的な知識・技能・体験を理解し身に付けている【DP】
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
主体的に様々な文献や資料にあたり、報告レポートや配付資料の作成など十分な準備をしておく。学んだことをしっかりと事後学修し、次の報告に生かすようにする。教育・保育の現場において実地調査を行う。

評価方法
フィードバック：レポート・個別課題・報告を適宜評価し、課題点や留意事項などを直接伝える
授業に参加する姿勢・活動（40%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　ゼミへの協力（20%）以上を総合して評価する。

教科書	参考図書
適宜紹介する。	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡はメール（t-morikawa@ohkagakuen-u.ac.jp）を使用する。

01	履修カルテの振り返り
02	夏季休業中の課題の交流と討議①
03	夏季休業中の課題の交流と討議②
04	研究計画提案・検討①
05	研究計画提案・検討②
06	教育・保育における実践的研究（教材研究）
07	教育・保育における実践的研究（表現的活動）
08	教育・保育における実践的研究（実地見学）
09	研究途中経過報告・分析①
10	研究途中経過報告・分析②
11	研究途中経過報告・分析③
12	中間まとめ作成①
13	中間まとめ作成②
14	個別研究報告・指導①
15	個別研究報告・指導②
16	総括と今後の研究の進め方の確認

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究に向けて、先行研究の調べ方、論文のまとめ方など論文執筆に必要な基本的事項について学ぶ。その中で障害児を中心とした特別な支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。各自の興味・関心を基にした研究活動を通して「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。

授業の到達目標
①卒業研究に向けて、論文執筆をする上で必要な知識を身に付ける。[DP]
②体験的な活動の中から、各自の興味・関心をより具体的なものにして卒業研究のテーマを見つける。[DP]
③特別の支援を必要とする子どもへのよりよい指導・支援のあり方を検討する中で「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究に向け、必要に応じて個別指導を行う。その際、各自のテーマに沿って提示する課題に沿って取り組むこと。発表時には自分の考えを正しく相手に伝えられるよう、責任をもって準備を進めてほしい。

評価方法
授業への参加態度（50%）、課題（20%）、テーマ登録・中間発表資料（30%）により総合的に評価する。
各課題の後で対面もしくはメールでフィードバックを行う。

教科書 プリント資料	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　全ての子どもにとって理解しやすい（ユニバーサルデザイン）指導・支援ができるよう、特別の支援を必要とする子どもたちへの学びのあり方について、ゼミの仲間と共に考えましょう。初回授業時にオフィスアワーや連絡先を伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。

01	ガイダンス、夏休みの研究課題の発表、３年前期教職履修カルテ振り返り
02	合同ゼミ　卒業研究について、就職活動について
03	卒業研究のテーマ再検討
04	院内保育所、特別支援学校施設内教育　見学
05	インクルーシブ保育施設保育補助　特別支援学校学習指導補助　体験
06	インクルーシブ保育施設保育補助　特別支援学校学習指導補助　体験
07	芸術鑑賞会
08	論文のまとめ方に関する解説（担当教員の論文をもとに構成について学ぶ）
09	卒業研究の目的を深める
10	卒業研究の方法を深める
11	卒業研究の方向性確認（テーマ、目的、方法、参考資料、現段階での進捗状況）
12	テーマ登録・中間発表に向けた準備①（資料作成）
13	テーマ登録・中間発表に向けた準備②（資料作成）
14	中間発表会の練習①
15	中間発表会の練習②
16	なし

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育・保育現場に出た時、向き合う子どもの発言や行動をどのように理解し、授業づくりを進めていくのか検討し、学びます。これまでの先行研究や先人の実践記録、資料、文献をもとに議論、考察する中で、各自の卒業論文のテーマを見つけていきます。見つけたテーマに対して、どのように研究を進めていくのか具体的な計画を立て、進めていく。

授業の到達目標
　自分自身の被教育体験も振り返りながら、資料・文献を読み、報告・議論し、事象や手立てなど深く考察する力を養う【DP】。卒業研究中間報告に向けて、テーマを設定し、計画、主体的に研究に取り組むことができる【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　資料や文献を読み、議論する際は、事前にレジュメを作成するなど準備が必要なこともあります。　考察、議論後は、研究テーマを検討し、テーマに関する先行研究にあたり、テーマを具体的に作成します。

評価方法
授業への参加態度（発言・報告・活動）50%、中間発表に向けての研究で50%
フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、授業時に適宜行う。

教科書	参考図書
適宜紹介します。	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　教育現場や学外施設への参観が可能な場合は連絡しますので、参加してください。参観について日時未定のため、授業計画が入れ替わることもあります。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー木曜昼休み。

01	卒業論文に関する進め方
02	教職履修カルテの振り返り
03	資料・文献講読とディスカッション
04	資料・文献講読とディスカッション
05	資料・文献講読とディスカッション
06	個別研究報告と研究・指導①
07	個別研究報告と研究・指導②
08	個別研究報告と研究・指導③
09	個別研究報告と研究・指導④
10	個別研究報告と研究・指導⑤
11	芸術鑑賞
12	個別研究報告と研究・指導
13	卒業研究中間発表と今後の研究に向けて①・経過報告
14	学外研修
15	卒業研究中間発表と今後の研究に向けて②・まとめ
16	

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
総合演習ⅡAで培った研究の執筆方法を基に、子どもの音楽的表現や指導法などを含めた個別の研究テーマに沿って調査し、ICT機器を活用しながら分析を行う。また、子育て支援室や親子コンサート、保育現場での表現活動への参加を通して、教育者・保育者に求められる表現力を身につける。【AL】

授業の到達目標
①研究テーマに沿って実践や調査を進め、多角的に思考する力を身につける。(DP)②子どもの音楽的表現や指導法などに関する研究や実践について、集団中の相互作用によって理解を深める。(DP)③保育所・幼稚園や施設等での表現活動を通して子ども理解を深め、保育者に求められる表現力や実践力を身につける。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・ディスカッションが中心となるため、各回の話題に沿ってあらかじめ情報収集を行うこと。
・各々の興味関心に沿って、積極的にボランティア活動を行うこと。
・発表を担当する際は責任を持って事前準備を行い、必要な書類は印刷した上で発表に臨むこと。
・欠席・遅刻が5回を超えた場合は受講資格を失うこととする。

評価方法
授業への取り組み（50%）、発表（50%）
課題（発表資料、実践）にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特になし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に自分の内面と向き合いながら課題を見つけ、研究テーマに対して根気強く取り組む姿勢を大切にすること。連絡手段については、授業内で開示する。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	研究計画の確認
02	夏休み課題の発表（1）
03	夏休み課題の発表（2）
04	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野1）
05	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野2）
06	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野3）
07	研究手法や実践方法の検討（1）
08	研究手法や実践方法の検討（2）
09	卒業研究中間発表会に向けたガイダンス
10	プレゼンテーションの準備（1）
11	プレゼンテーション準備（2）
12	プレゼンテーションの準備（3）
13	プレゼンテーションとディスカッション（1）
14	プレゼンテーションとディスカッション（2）
15	プレゼンテーションとディスカッション（3）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、「幼児・児童の健康」を大きなテーマとして、「子どもの理解」とそれを前提とした「教育者・保育者の役割」について具体的な教育・保育現場の事例を用いながら考えて行きます。また卒業研究に向けて、文献を読み、各自の教育・保育に関する問題意識を明確にし、その課題を理論的に検討する方法を学び、卒業研究の論文執筆へ具体的な作業を行っていきます。

授業の到達目標
１．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる（D P）。
２．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる（D P）。
３．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識・技能・体験を理解し、身につけている（D P）。
４．学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる（D P）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教育・保育現場でのボランティアに積極的に参加し、自分の興味関心に対して調べる習慣を身につける。またゼミ発表に向けて、文献を読んだり、配布資料を作成するなど、事前準備をしっかりすること。

評価方法
レポート・提出物等80%、ゼミ活動への取り組み状況・授業への参加態度20%を総合的に判断する。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
適宜、紹介します。	適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として3年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に1年ゼミ(基礎演習)および2年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し2年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは月曜日３・４限。
メールアドレス：y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（教職履修カルテの振り返りを含む）
02	後期のゼミの進め方について
03	研究文献の講読とレジュメ発表①
04	研究文献の講読とレジュメ発表②
05	研究文献の講読とレジュメ発表③
06	研究文献の講読とレジュメ発表④
07	研究文献の講読とレジュメ発表⑤
08	芸術鑑賞
09	卒業研究に向けたテーマの設定①
10	卒業研究に向けたテーマの設定②
11	卒業研究に向けたテーマの設定③
12	卒業研究の取り組みに関する指導①
13	卒業研究の取り組みに関する指導②
14	卒業研究の取り組みに関する指導③
15	後期のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育や幼児教育の現場に出てからも絶えず研究と修養が求められています。そのため、自身の探究すべきテーマを見つけ、調べ、分析し、他者に向けて発表するという一連の学びのプロセスを経験する授業にします（AL)。後期は卒業研究につながるように論文講読から研究計画の立案を中心に行います。研究テーマは人（子ども・保護者・保育者）の心が関連していれば、そして社会的に役に立つものであれば、何でも大丈夫です。

授業の到達目標
1）研究をすることの意味が理解できる（DP）。
2）主体的に問題を発見し、解決するための方法を理解することができる（DP）。
3）他者との協同において適切な社会的スキルを身につけることができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：共同研究および個人の卒業研究に向けて、先行研究を調べ、まとめる。また、人に伝えることを意識して発表準備をしましょう。
事後学修：他者からもらった意見をもとに再考する癖をつけましょう。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、発表・レポート（50%）
発表・レポートに関しては適宜、授業内でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	適宜、紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
個別指導も多くなると思います。教員・仲間とのコミュニケーションを面倒がらず、楽しんでゼミ活動をしましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	カルテの振り返り
02	夏休みの課題発表とディスカッション（1）
03	夏休みの課題発表とディスカッション（2）
04	保育環境・保育教材の作成（1）
05	保育環境・保育教材の作成（2）
06	問いをたてる（興味関心を言葉にする）
07	関連する先行研究を紹介する
08	問いの社会的背景・学術的背景についてまとめる
09	研究目的をしぼる
10	目的に即した方法論を検討する
11	行事を体験する（1）
12	行事を体験する（2）
13	行事を体験する（3）
14	中間発表会に向けた準備
15	後期のまとめ
16	なし

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
人間の発達及び、人間を取り巻く様々な環境との関係性について、心理学をベースとした方法論に則って論理的・分析的に考える力を習得することを目的とします。自らが探求したいテーマを見つけ、ゼミの仲間と話し合い、協力してお互いの目標を達成することを通して研究の楽しさを学んでほしいと思います。後期は前期に立てたリサーチクエスチョンを基にデータ収集や分析の手法、研究倫理について学びます。研究計画書としてまとめ、受講生全員による発表とディスカッションを行います。

授業の到達目標
1.研究をすることの意味を理解することができる（DP）
2.主体的に課題を見つけ、科学的な手法で解決するためのスキルを身につける（DP）
3.ゼミの仲間と話し合い、協力してお互いの目標を達成することを通して専門職連携の基本を身につける（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修:卒業研究のための研究計画書をまとめ、ゼミでのプレゼン資料を作成してください。
事後学修:他の人のプレゼン資料から自分の研究に参考となる研究の目的や仮説の立て方、データ分析についてまとめ自らの研究計画書をブラッシュアップしましょう。

評価方法
ゼミの発表及び参加態度（60%）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行います。

教科書 なし	参考図書 適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（後期スケジュールの確認及びフィールドワークの計画と準備）
02	夏休みの課題発表とディスカッション(1)
03	夏休みの課題発表とディスカッション(2)
04	フィールドワークの実施（受講生のテーマに関連するフィールドでの観察・調査学修）
05	フィールドワークの振り返り
06	研究倫理に関して各自で調べた資料を基にディスカッション
07	データ収集、データ整理の実習（統計ソフトウェアの操作）
08	データ分析の実習（統計ソフトウェアの操作）
09	データ分析の実習（統計ソフトウェアの操作）
10	問題と目的、仮説、研究方法について先行研究をふまえて検討する
11	卒業研究中間発表会準備(1)
12	卒業研究中間発表会準備(2)
13	卒業研究中間発表会(1)
14	卒業研究中間発表会(2)
15	後期のまとめ、卒業研究に向けての課題
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
病気や障害，貧困など特別なニーズがある子どもに対する支援をさまざまな視点から検討します。さらに子どもを取り巻く家族や物的，人的環境のあり方について検討します。

授業の到達目標
①特別なニーズがある子どもたちを見る眼（アセスメント）を身につけることができる。
②人を対象とする研究に主体的に取り組むことができる。【DP】
③ゼミの共通課題について学びや体験を共有することができる。【DP】
④卒業研究に向けた計画書を作成する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
仲間とともにさまざまな体験や活動に積極的に参加することが求められます。調査対象となるのは特別なニーズがある子どもたちやその家族，セルフヘルプ・グループ（本人の会や親の会）などです。調査フィールドは統合保育の現場，特別支援学校，児童発達支援センター，母子通園施設，小児医療センターなどを想定しています。

評価方法
出席態度（40%），課題レポート（60%）で総合的に評価します。
授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックとして演習内容を各自がプレゼンする。

教科書	参考図書
使用しない。	授業で紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。
ゼミは学ぶ場であるとともに仲間づくりや思い出作りの場でもあります。さまざまな時間を仲間や教員と共有できる学生を待っています。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス
02	研究論文の目的と構造
03	研究計画書の作り方
04	研究テーマの設定(1)
05	研究テーマの設定(2)
06	参考文献の検索方法
07	研究方法の基礎：質的研究法
08	研究方法の基礎：量的研究法
09	フィールドワークの準備と振り返り(1)
10	フィールドワークの準備と振り返り(2)
11	研究計画書の作成と発表(1)
12	研究計画書の作成と発表(2)
13	中間発表に向けた準備(1)
14	中間発表に向けた準備(2)
15	後期のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究内容についてのグループディスカッションを行い、卒業論文執筆方法等を理解する。また、教育実習の事後学習として、てあそびブックと絵本ブックを作成する。子どもと野外遊びの実際を理解する。

授業の到達目標
　卒業研究中間発表レジュメを作成する。子どもと野外遊びの企画・運営をする（DP◎○）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　卒業研究中間発表に向けて、各自、文献研究、調査を実施しましょう。わからないところは、積極的に個人的に相談すること。

評価方法
　卒業研究内容についての学修レポート90％　グループワーク・グループディスカッションによるプレゼンテーション10％にて評価を行います。評価については提出されたレポートに評点を付けて返却します。

教科書	参考図書
適宜、指示します。	適宜、指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	総合演習ⅡB（後期）の目標・予定の確認
02	３年前期の教職履修カルテの振り返り
03	卒業研究内容についての映像による学修①
04	卒業研究内容についての映像による学修②
05	卒業研究内容についての映像による学修③
06	卒業研究内容についての映像による学修レポート作成
07	卒業研究内容についての映像による学修についてのプレゼンテーション
08	卒業研究内容についての論文講読と所感レポート作成①
09	卒業研究内容についての論文講読と所感レポート作成②
10	卒業研究内容についての論文講読と所感レポートのプレゼンテーション①
11	卒業研究内容についての論文講読と所感レポートのプレゼンテーション②
12	卒業研究中間発表に向けて、ゼミ内発表とグループディスカッション①
13	卒業研究中間発表に向けて、ゼミ内発表とグループディスカッション②
14	卒業研究中間発表会のリハーサル①
15	卒業研究中間発表会のリハーサル②
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では「幼児の内面理解（思い・興味・関心）・発達に応じた環境の構成や指導の在り方」を共通テーマに保育現場で必要な実践力を身につけることをめざしていく。ⅡＢでは、各自が決めた卒業研究テーマについて、さらに文献研究を個別学習として進め、個別指導とゼミ内での発表・ディスカッションによる共同学習を通して考察を深めていく。また、幼児教育実践のための教材や環境について、実際に作成して学ぶ。

授業の到達目標
○到達目標１　ゼミでの学びや活動に主体的に取り組む。【DP】
○到達目標２　自らの学びの成果を発表しゼミメンバーの考え方に傾聴し共有したり、能動的に学習したりする。【DP】
○到達目標３　体験学習等での気付きをゼミメンバーと伝え合って交流し、ゼミメンバーみんなで学びを深め、一緒に成長し合おうと愛欲をもって進める。【DP】
○到達目標４　ゼミメンバーと交流・協力しながら・保育者基礎力（子どもの理解、遊び、環境の構成、保育者の援助）・研究法（文献資料の検索、読み方、レポートの作成）・ICTスキル（PCを用いて学習するスキル）の基礎を獲得し、学びをまとめる。【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・「子ども」に親しみをもって見たり関わったり、季節の移り変わりやニュース、周りの状況・変化・出来事などに気付いたりし、日頃から様々に心を動かす。
・各自の研究を計画的に進め、発表は責任をもってできるよう資料等の準備を十分に行う。
・ディスカッション後や指導後、自分の研究の計画や内容を見直し、学んだことを活かす。

評価方法
授業への参加態度50%、発表３０％、課題２０％により総合的に評価する。
課題については、授業終了後に全体的な講評、解答の紹介をする。さらに個別に口頭もしくは記載でコメントをする。

教科書 使用しない	参考図書 随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。

01	夏休み課題の報告・ディスカッション
02	ゼミ共通テーマについての共同学習・ディスカッション
03	各自の卒業研究経過発表とディスカッション及び個別指導（１）
04	幼児教育実践のための教材研究（１）幼児の興味・関心・発達に合った遊び
05	幼児教育実践のための教材研究（２）幼児の興味・関心・発達に合った環境の構成
06	幼児教育実践の交流・事例研究
07	卒業研究についての個別学習と個別指導（１）
08	卒業研究についての個別学習と個別指導（２）
09	卒業研究についての個別学習と個別指導（３）
10	各自の卒業研究経過発表とディスカッション及び個別指導
11	卒業研究についての個別学習と個別指導（４）
12	卒業研究についての個別学習と個別指導（５）
13	卒業研究中間発表会に向けての準備（ゼミ内での発表とディスカッション及び個別指導）
14	卒業研究中間発表会（１）
15	卒業研究中間発表会（２）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:子ども家庭福祉Ⅱ	担当者:古畑 淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:子ども家庭福祉Ⅰを履修し単位を修得していること。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　子ども家庭福祉Ⅱでは、子ども家庭福祉Ⅰの授業を踏まえて、子ども家庭福祉の現代的な問題を取り上げる。国や自治体の子ども家庭福祉の政策動向の考察のほか、子どもの人権を争点とする事例などの検討を行う。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。授業内容により、グループワークとグループ発表の方法を取り入れる。【AL】　なお、本科目は、「教育・保育の本質・目的に関する科目群」に位置づく科目である。

授業の到達目標
　国や自治体の子ども家庭福祉の政策動向を理解する（DP）。　事例検討を通じて、子ども家庭福祉の領域にどのような問題があるのか、また、どのような解決が考えられるのかについて考察する力を身に付ける（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。
　【試験に対するフィードバックについて】
　授業アンケートのコメントフィードバック時に行う。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　子ども家庭福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の子ども家庭福祉の話題について
02	保育ニーズに応える保育の制度（子ども・子育て支援新制度）について
03	保育サービスの利用をめぐる諸問題について
04	児童虐待問題と虐待から児童を守る制度について
05	児童虐待問題における学校、児童福祉施設、行政機関等の役割について
06	児童福祉施設における子どもの人権保障について
07	ひとり親家庭を対象とする社会保障制度について
08	子ども家庭福祉Ⅱのまとめと試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:子ども家庭支援論	担当者:太田 早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 【担当者の実務経験】保育士・保育園長 授業担当者の現場経験を基にした具体的な事例検討で、子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深め実践力を高めていく（AL）。子育て家庭を取り巻く様々な問題や課題を抱えている子育て家庭の現状把握と支援策を学びながら、保育所や地域の子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえた支援ができるよう理解を深めていく。
授業の到達目標 ①子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子ども家庭支援の意義と保育者の役割について理解する（DP）。②子育て家庭の支援体制について理解する（DP）。③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する（DP）。 【到達目標と深く関連する学科DP】◎知識・技能　○思考力・判断力・表現力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 子どもを取り巻く状況に関心を持ち、子育て家庭の実態と課題を把握し、子育て支援に関連する専門職として必要な知識について自らの学びを確認しながら、授業内容を幅広い知識をもって学ぶようにする。予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておく事。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること。
評価方法 筆記試験（８０％）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０％）。フィードバックは毎回の授業ノートに学び、内容や質問を記載する。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
学ぶ・わかる・みえる　保育と子ども家庭支援論　第2版（編）石動瑞代　（みらい）	＜29年告示＞保育所保育指針、　幼稚園教育要領、　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 新聞や報道による子育て家庭に関連した記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自身のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。　研究室740２

01	授業ガイダンス　・　子ども家庭支援とは
02	子ども家庭支援の意義と役割
03	子育て家庭を取り巻く地域社会の変容と子ども家庭支援の必要性
04	保育士等が行う子ども家庭支援
05	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援
06	保育所・幼稚園・幼保連携型認定子ども園における子育て家庭への支援
07	子育て家庭の支援体制
08	子育て支援事業
09	多様な子育て家庭の支援と関係機関との連携
10	地域の子育て家庭への支援状況（調べ学習のプレゼンテーション）
11	要保護児童及びその家族に対する支援
12	保育現場での子ども家庭支援の現状と課題
13	子ども家庭支援を行う保育士の基本姿勢
14	子ども家庭支援の課題とまとめ　①　事例研究と支援方法の考え方
15	子ども家庭支援の課題とまとめ　②　今後の課題と保育者としての支援の在り方
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅰ	担当者:川上 知幸	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
近年、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の意義はより一層高まっているが、課題も多く残っている。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、児童養護施設や児童相談所など現場の現状と課題について検討、考察していく。
講義（パワーポイント使用）を中心とするが、クラス内で意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員
　子ども・家族への支援の実際や直面している課題について触れながら、実践的な考察を行う。

授業の到達目標
社会的養護に関する基礎知識を習得する。(DP)
児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について理解する。(DP)
子どもや家族への支援の在り方や課題について多角的に理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎ 課題を発見・理解し解決しうる力(豊かな教養、専門的な知識・技術、思考力、判断力、表現力)を身につけている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各自、教科書を用いて自己学習し、基礎知識の習得に努力すること。また、児童関連の文献や新聞などで学生自身で情報収集を心がける。
特に「児童虐待」「愛着：アタッチメント」「発達障害」についての情報、基礎知識を頭に入れておくと授業内容の理解と考察がより一層深まる。

評価方法
確認テスト：60%　レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%
授業後、コメントシートなどで出た質問や疑問については、翌授業または第14回総括にてフィードバックする。

教科書	参考図書
『社会的養護』成清美治・真鍋顕久（学文社）	授業の中で紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問などは授業前後またはメールにて受け付ける。

01	オリエンテーション
02	児童虐待問題の現状と法制度
03	児童虐待への対応と課題
04	性的虐待とDV
05	アタッチメント（愛着）
06	被虐待児の理解
07	児童養護施設の現状と課題
08	社会的養護の役割
09	社会的養護にかかわる専門職に必要な知識と技術
10	児童養護施設、児童心理治療施設における治療的養育
11	日本の子ども家庭が抱える課題と歴史的背景
12	社会的養護の今後の動向
13	家庭（的）養護の意義と課題
14	総括（リフレクション、フィードバック）
15	まとめと確認テスト
16	

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:上田 一稔	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業は保育学部の教育・保育の本質・目的に関する科目に配置された専門教育科目であり、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には施設養護と家庭養護の特性把握、個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活支援・心理的支援・自立支援の方法を理解し、保育者としての支援力を習得する。授業は毎回演習方式で少人数のグループを作り、各事例に対してグループワークを行う。

授業の到達目標
１．社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。
２．施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する(DP)。
３．個々の子どもに応じた個別支援計画書の作成の意味と留意点を理解する(DP)。
４．社会的養護における保育士の専門性を学び、支援者としての援助実践力を身につける(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　社会的に養護を必要とする子どもを支援する保育者は、適切な支援および技術を習得する必要がある。したがって、社会的養護に関連する文献(虐待・障害・貧困等)を読み、児童福祉施設でのボランティア活動および見学(1回4時間程度)を行うことを推奨する。

評価方法
確認テスト(40%)、授業への参加態度(30%)、レポート(30%)により総合的に評価する。
・レポートに関しては、提出期限後に模範解答を示し解説する。

教科書	参考図書
授業時に資料を配布するため、教科書は指定しない。適宜参考文献等を紹介する。	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　日頃から子どもを取り巻く報道に関心を寄せ、自分の見解を持ち、授業時に発表できるようにする。授業後30分をオフィスアワーとする。連絡先は授業で開示する。

01	オリエンテーション・子どもの権利擁護
02	施設養護の特性および実際①(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)
03	施設養護の特性および実際②(障害児施設・児童自立支援施設・情緒障害短期治療施設)
04	家庭養護の特性および実際
05	社会的養護の内容(日常生活支援・心理的支援・自立支援)
06	個別支援計画の作成(自立支援計画、児童発達支援計画)・記録および自己評価
07	社会的養護における保育士の専門性および相談援助の知識と技術の実践
08	社会的養護の課題および展望・確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:教育職論	担当者:青山 佳代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
「教育職とは何か」について、望ましい教育者像を多面的に考察しながら、教職の意義、教師の役割と責任などから学ぶ。教育職についての基本的な知識を身につけ、学校や子どもに関する課題を発見し、クラスメイトの意見に耳を傾け、教育職について幅広い視野を獲得する。

授業の到達目標
教師の仕事の本質と実際について理解する（チーム学校運営への対応も含む）。
◎教師の仕事、役割について理解する【DP】。
◎日本における教職の歴史について理解できるようになる【DP】。
◎教職をめぐる法律について理解できるようになる【DP】。
○自らの教育者像について他者に語ることができるようになる【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
テキストを読んで事前学習をしておくことが望ましい。教育職を取り巻く社会情勢について、日ごろから新聞やインターネットから情報を得ておくことが望ましい。どのような教育者になるべきか、自分の教育者像について語れるようになっておくことが望ましい（教育者像は学習や実習によって変化するので、アップデートしておくこと）。

評価方法
授業内小レポート（毎回）45%、期末テスト（最終回）55%
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書	参考図書
津田徹／広岡義之編著（2021）『教職論』（ミネルヴァ教職専門シリーズ３）、ミネルヴァ書房	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領（平成29年告示）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特にありませんが、他人が不愉快になる態度・行為は控えましょう。
なお、授業担当者との連絡手段については授業内で伝えます。

01	教職の意義と教師に求められる資質・能力（ガイダンス）
02	教員の研修および教員の任免と服務
03	教師の仕事
04	学校と学童保育
05	管理職の役割
06	小学校での学習と専科教員
07	学校に関わりを持つ人々ーチームとしての学校ー
08	カウンセリングマインドと保護者対応
09	わが国の教職の歴史
10	特別支援教育
11	現代の教育課題①ー多様性を受け入れる教育（グローバル、ジェンダー）
12	現代の教育課題②ー子どもの貧困
13	安全・安心の学校づくりーいじめ
14	菊池省三の教師ー「ほめのシャワー」
15	自らの教育者像について考える（まとめとテスト）
16	

科目名:子ども理解の理論と方法	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子ども理解についての考え方や基礎的態度を理解し、教育、保育の場における実践方法を具体的に学びます。特に、一般化された発達理論を参照枠として、個々の事例に基づいた臨床的視点から発達を学ぶことで、子どもの日常的文脈に即した子ども理解を目指します。授業方法は視覚資料を使用し、一斉授業及びグループ・ワークを行います。

授業の到達目標
① 子ども理解の意義を理解している（DP）
② 子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している（DP）
③ 子ども理解を深めるための教師、保育者の基礎的な態度を理解している（DP）
④ 子ども理解の意義や原理、基礎的な態度を理解したうえで、教育、保育の場における実践的な課題解決に取り組むことができるようになる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：日常生活や実習、ボランティアなどの子どもと関わる経験を通して、子どもの意図や欲求などの感情をイメージし、授業での学修と結び付けて考えることを心がけてください。子どもを取り巻く社会状況の変化などにも関心を持ち、自分なりの考えを持つようにしてください。授業で出す課題にしっかり取り組み授業を欠席した場合でも、その回の課題は提出してください。
事後学修：授業で配布するプリントは、疑問や関心を持った内容について調べまとめなおすようにしてください。

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（試験、レポート）に対しては、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
松本峰雄監修　(2021) 子どもの理解と援助演習ブック　ミネルヴァ書房	保育所保育指針及び解説、幼稚園教育要領及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	保育・教育における子ども理解の意義
02	子どもに対する関わりと共感的理解
03	子どもの生活や遊び
04	保育における人的環境としての保育者と子どもの発達
05	子ども相互の関わりと関係づくり
06	集団における経験と育ち
07	発達における葛藤やつまずき
08	保育の環境の理解と構成
09	子ども理解のための観察・記録・省察・評価
10	発達の課題に応じた援助と関わり
11	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助
12	子ども理解を育てるための園内研修
13	保護者との連携と理解
14	事例を通して幼児理解とその他対応を学ぶ
15	授業のまとめと確認テスト
16	なし

科目名:特別支援基礎論	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:特になし		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
特別の支援を必要とする子どもについて紹介していく。障害理解、発達障害（自閉症・ＡＤＨＤ・ＬＤ）および診断がついていないものの支援を必要とする子ども（海外にルーツのある子ども、子どもの貧困、愛着障害）についてＤＶＤや資料等を通して理解を深める。

授業の到達目標
１、障害概念について理解すること（DP）。
２、発達障害について理解し、支援方法を知ること。
３、配慮を必要とする子どもについて理解し、支援方法を知ること。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読み、授業内容について予習をする。また障がいのある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
出席態度（30%）テスト（70%）。授業に関する意見・質問およびテストについて、毎回のコメントシートおよび最終授業にてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者を目指す学生にとって、障がいのある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・教育観・障がい観を見つめ直す機会になるようにしていきましょう。
連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	障害とはーICFについて理解する―
02	発達障害①　自閉症
03	発達障害②　ADHD
04	発達障害③　LD
05	配慮を必要とする子ども①　海外にルーツのある子ども
06	配慮を必要とする子ども②　子どもの貧困
07	配慮を必要とする子ども③　愛着障害
08	テストと解説
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法（人間関係）	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育所保育指針および幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める【AL】。そのうえで、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける【AL】。

授業の到達目標
1）指針や要領に示された保育・教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する（DP）。
2）乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：発表に向けて必要な資料を収集するなど、グループごとで必要な予習・復習を考え合って、進んで取り組むように心がける。
事後学修：授業内で行った事例検討について再度、他学生の意見も踏まえて考え直す。また授業内で製作した教材の活用方法を考え、実践に向けた練習を行う。

評価方法
演習ワークシート（35%）、発表（25%）、レポート（40%）
ワークシートやレポートについては、授業内でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
無藤隆監修　(2018)　新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係　萌文書林	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講生同士のグループ活動において、互いの意見を尊重すること。また、グループ活動に積極的に参加することを心がけ、より深い学びとより良い人間関係づくりに必要な姿勢を自ら学ぶこと。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。

01	領域「人間関係」の振り返りと保育内容全体像の理解
02	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方
03	自立心を育む環境構成と援助
04	友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方
05	自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方
06	きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助
07	ルールのある遊びと援助
08	個と集団の育ちを考える
09	協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考える
10	幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える
11	小学校との交流活動を考える
12	小学校以降の生活や学習でいかされる力
13	地域の人との関わりを考える
14	特別に支援が必要な子どもへの援助
15	家庭との連携
16	

科目名:保育内容指導法（表現）	担当者:淺野 卓司・基村 昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　幼稚園教育要領等の領域「表現」を理解するとともに、主に幼稚園教諭における指導者の立場として音楽・造形等に関する知識を得る。子どもの表現に関する理論を学ぶ。また子どもと豊かに関わり育ちを支えるための表現力を磨き他者と協力して創意工夫することを学ぶ。
　自分が表現するだけでなく、子どもに対してどのように指導を行えばよいのかを授業全体を通して考え、模擬授業ができるまでの技術を身につける。また保育における豊かな感性や表現する力を養い、想像力を豊かにする。

授業の到達目標
授業の到達目標及びテーマ：
(1)教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法についての知識や技能、思考力・判断力・表現力を身につけるため、題材に関する視覚的情報（図表、イラスト等）や資料を自ら進んで収集し参考にしながら意欲的に学ぶ（主体的に学ぼうとする力）
(2)乳幼児の成長発達や実態に応じて、保育における表現活動のねらいを明確にした指導計画について、適切な言葉がけ、意図的な環境の構成などを工夫し立案することができる（思考力・判断力・表現力）。
(3)他者の模擬授業を踏まえながら指導方法・内容の改善点に気づいて、自らの指導計画における環境構成や指導の流れと比較し、改善点を述べることができる（思考力・判断力・表現力）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育所保育指針、幼稚園教育要領等の「表現」に関わる解説を読み、要点をまとめておく。
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に関連する資料を読み、表現活動に関する点を要約しておく。
・教科書に付属しているDVDを授業開始までに視聴し、子どもの行為で想定される点についてまとめておく。
・保育指導計画について、事例を収集しておく。
・模擬保育に必要な教材研究を行っておく。
・模擬保育の反省点をまとめておく。

評価方法
レポートおよび課題40%･試験40%・授業態度20%
指導計画作成の留意点や保育実践の展開、環境構成等に関するコメントを、模擬保育後のフィードバックとしてMoodle上へ記載する。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 『子どもの姿からはじめる領域・表現』株式会社みらい	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書は「幼児と表現」と同じものを使用します。

01	子どもの表現活動について（幼稚園教育要領等の目標と内容）（担当：淺野・基村）
02	子どもの造形的表現について1（0－3歳児の表現活動について）（担当: 淺野）
03	子どもの造形的表現について2（4－5歳の表現活動について）（担当：淺野）
04	子どもの造形的表現について3（幼稚園教育の評価・小学校の教科とのつながり）（担当：淺野）
05	子どもの音楽的表現について1（0－3歳児の表現活動について）（担当:：基村）
06	子どもの音楽的表現について2（4－5歳の表現活動について）（担当：基村）
07	子どもの音楽的表現について3（幼稚園教育の評価・小学校の教科とのつながり）（担当：基村）
08	造形的表現活動の指導法１（環境の構成や言葉がけ）（担当：淺野）
09	造形的表現活動の指導法２（幼児の表現に至るプロセス（担当：淺野）
10	音楽的表現の指導法１（環境の構成や言葉がけ）（担当：基村）
11	音楽的表現活動の指導法２（幼児の表現に至るプロセス）（担当：基村）
12	表現活動の指導案の作成について（担当：淺野・基村）
13	模擬授業1（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング）（担当：淺野・基村）
14	模擬授業2（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング）（担当：淺野・基村）
15	模擬保育3（模擬保育のまとめ・ＩＣＴを用いた発表・振り返り）（担当：淺野・基村）
16	定期試験

科目名:国語科教育法	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校で国語の授業を行うための具体的指導方法を学ぶ機会を具体的に展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援のあり方について実践的に学べるようにする。

小学校における国語科教育の目標・内容のすべてにわたっての基礎を学んだ上で、国語科の授業を担当するための知識・技能・教材研究の方法・学習指導の方法を具体的に学び、習得します。グループ・ワーク、ディスカッション・発表などを数多く行います。

授業の到達目標
①国語科教育の目標を理解した上で、言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という力を指導するための授業を構想する力を身につける【DP】
②国語科の授業構想をもとに、子どもに適切に対応しながら授業を展開する実践力を身につける【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。さらに授業案の作成も課題になります。

評価方法
フィードバック：フィードバック：レポート・課題・模擬授業等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
授業に参加する姿勢・活動（20%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　筆記試験（40%）以上を総合して評価します。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　国語編	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
国語辞典が必要です。（電子辞書も可）　　各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	オリエンテーション（現在の現場で求められる国語の力についての理解）
02	国語科教育の目標と内容（新学習指導要領の理解）の授業への具体化についての理解
03	国語の授業と子どもの学習能力の育成についての理解
04	国語の授業の具体例から学ぶ（授業映像の分析・検討）
05	教材研究から授業づくりへ①　　文学教材をどう読み、どう指導するか（教材研究）【AL】
06	教材研究から授業づくりへ②　　文学教材をどう読み、どう指導するか（発問検討）【AL】
07	教材研究から授業づくりへ③　　文学教材をどう読み、どう指導するか（指導案作成）【AL】
08	模擬授業演習①　実践と振り返り【AL】
09	教材研究から授業づくりへ④　　説明文教材をどう読み、どう指導するか（教材研究）【AL】
10	教材研究から授業づくりへ⑤　　説明文教材をどう読み、どう指導するか（指導案作成）【AL】
11	教材研究から授業づくりへ⑥　　「話すこと・聞くこと」をどう指導するか
12	教材研究から授業づくりへ⑦　　「書くこと」「言語文化」をどう指導するか
13	教材研究から授業づくりへ⑧　　発問検討・指導案作成【AL】
14	模擬授業演習②　実践と振り返り【AL】
15	まとめ
16	筆記試験

2022年度シラバス

科目名:算数科教育法	担当者:小林 美記代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・学習指導要領に基づいて、算数科の目標や算数科の４領域のねらいや内容を具体的に解説する。
・指導方法や指導技術に関して、実際の授業のＤＶＤを視聴したり、授業場面を想定したりして、ペアやグループで演習を行う。

授業の到達目標
・小学校学習指導要領算数科の目標や算数科４領域のねらいや具体的な内容について理解する。
・子どもが「わかる」「できる」算数の授業が実践できるような授業力を身に付ける。（ＤＰ）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・次時の内容を予告し、課題を指示するので、教材研究をする。

評価方法
毎回の講義への参加態度及びレポート（毎回配布するプリントへの記入）７０％、確認テスト３０％
次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解について解説を加える。

教科書	参考図書
毎回、プリントを配布する	小学校学習指導要領解説・算数編（東洋館出版社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ペアやグループで演習等を行うことがあるので、積極的に参加するようにしてください。
連絡方法は、授業内にて開示。

01	オリエンテーション：何のために算数を教えるのか？算数科の目標・授業力とは何か。
02	「Ａ数と計算」の領域のねらい、主な内容。小学校１年４月の授業。
03	保幼小の連携。数について。小学校１年４月の授業。
04	算数の教科書の用語・記号。小学校２年「かけ算」の授業。
05	小学校２年「かけ算」の授業。小学校３年「わり算」の授業。
06	合理的配慮、ユニバーサルデザインの授業。
07	指導技術１：算数の基本的知識を定着させる指導方法とその演習。
08	指導技術２：算数の基本的知識を定着させる指導方法とその演習。 指導技術２：算数の基本的知識を定着させる指導方法とその演習。
09	「Ｂ図形」の領域のねらいと主な内容。筋密を立てて考え説明する（論理的思考）
10	小学校４年「面積」、小学校５年「面積」、小学校６年「おうぎ形の面積」の授業。
11	Ｃ測定」の領域のねらいと主な内容。小学校３年「重さ」の授業。（ユニバーサルデザイン）
12	小学校３年「重さ」の授業。（アクティブラーニング）
13	「Ｃ変化と関係」の領域のねらいと主な内容。小学校４年「変わり方」６年「比」の授業。
14	「Ｄデータの活用」の領域のねらいと主な内容。小学校６年「資料の調べ方」の授業。
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:生活科教育法	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　生活科の目標、内容、指導計画・方法等について理解する。活動や体験を通して生活科のおもしろさを味わうともに単元を構想したり指導案を作成する力を身につける。保幼小の連携・接続についても取り上げる。

授業の到達目標
　生活科の目標や内容、活動を充実させるための教師の役割について理解し、生活科の単元を構想すること、授業を計すること、指導し評価することに関する基本的な能力を身に付けることができる【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
身の回りを見つめ、授業に活用できそうなものを見つけること、実践記録を読むこと、指導案の作成など課題を指示します。

評価方法
レポート試験60%、確認テスト20%、課題・授業への参加態度20%
フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時や授業アンケートのコメントのフィードバック時に紹介する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　生活編	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　木曜日　昼休み

01	生活科の誕生・変遷、目標・内容について
02	生活科の基本的な考え方・スタートカリキュラムについて
03	内容（１）学校と生活について
04	内容（２）家庭と生活について
05	内容（３）地域と生活について
06	内容（４）公共物や公共施設の利用について
07	内容（５）季節の変化と生活について
08	内容（６）自然や物を使った遊びについて
09	内容（７）動植物の飼育・栽培
10	内容（８）生活や出来事の伝え合いについて
11	内容（９）自分の成長について
12	学習指導案の作成（１）単元設定、授業計画
13	学習指導案の作成（２） １時間の授業計画
14	学習指導案の作成（３）評価の在り方
15	ICT活用を含め、今後の生活科教育で大切にしていきたいこと
16	

科目名:図画工作科教育法	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:小学校教諭希望者		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本講は、保育学科のDP及びCPにある、教育・保育に関する専門的な知識・技能等を身につけることを目的としています。小学校図画工作の学習を通して育つ「資質・能力」、教科の特性に応じた「見方・考え方」と〔共通事項〕との関係理解を深めます（全7回）。また、子供が主体となり対話的な活動から学習が深まる授業づくりとその模擬授業（全８回)を通して、各学年においてふさわしく展開される授業の指導場面を想定し構想できる方法が身につくようにします。

授業の到達目標
・児童の成長発達や実態に応じて、授業のねらいを明確にした指導計画について、適切な発問や読みやすい板書、意図的な環境の構成などを踏まえて立案することができる（知識・技能）。
・他者の模擬授業を踏まえながら指導方法・内容の改善点に気づいて、自らの指導計画における環境構成や指導の流れと比較し、改善点を述べることができる（思考力・判断力・表現力）。
表現や鑑賞活動の展開にふさわしい教材の提示方法について考え、児童にわかりやすい示し方について述べることができる（思考力・判断力・表現力）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・その日の授業で学んだことをPowerPoint１枚程度に図表などを使ってまとめます（40時間）。
・授業前に指定された教科書の部分を熟読する（10時間）
・模擬授業に必要な教材研究とその準備を行います（10時間)。

評価方法
レポートと指導案を50%　図画工作の指導に関する基礎的な理解については定期試験を行い評価する（50%）。第8回までの授業内容について中間まとめとして評価し、フィードバックする。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年6月　文部科学省）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。資料提示はMoodleにて行う（キーボードを使った入力に慣れるため、スマートフォンの利用はしない）。
・欠席が3回を超えた時点で失格とします。ただし実習による欠席を含まない。
・連絡先　asano-t@ohkagakuen-u.ac.jp

01	小学校学習指導要領　図画工作の目標と学習領域に関する理解
02	各学年の目標及び内容と「資質・能力」について
03	造形遊びに関する映像事例を使った子供の認識や思考、学力の理解と指導上の留意点について
04	絵や立体・工作に表す活動に関する理解
05	鑑賞教育の目標と内容、〔共通事項〕についての理解
06	他教科の単元と図画工作の題材との連関についての理解（教科書研究）
07	幼児期の表現活動や小学校低学年の生活科等との関連についての理解
08	ICTを利用した授業の展開について（鑑賞教育における活用）
09	指導案の作成と評価に関する基礎的な理解
10	グループによる指導案の検討と作成
11	指導案に基づいた教材研究
12	模擬授業（指導グループ１）
13	模擬授業（指導グループ２）
14	模擬授業（指導グループ３）
15	模擬授業の振り返りと授業評価について
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:道徳教育の指導法	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
　本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようにする。
　本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う道徳科の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、児童の道徳性の発達についての知識をもち、道徳科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、授業実践例の検討や教材研究を行う。その際、「考え、議論する道徳」を想定した授業づくりの力を養う。授業の最初に道徳の内容項目に関する動画を見て、グループディスカッションを行う【AL】。

授業の到達目標
　道徳の意義や原理を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と道徳科の目標、内容、指導計画等を理解し、児童の道徳性の発達をふまえた教材研究や授業実践の分析等を通して、授業づくりの力を身につける【DP】。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　道徳資料を読むこと、指導案の作成など課題を指示します。

評価方法
レポート試験60%、確認テスト20%、課題・授業への参加態度20%
フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時に紹介する。

教科書	参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領　特別の教科　道徳編』	『小学校学習指導要領』、その他適宜連絡します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー木曜昼休み

01	道徳の本質と「考え、議論する」道徳
02	学習指導要領の理解①：学校の教育活動全体における道徳教育
03	学習指導要領の理解②：道徳科
04	日本における道徳教育の歴史
05	子どもの発達と道徳性：コールバーグ等の理論
06	道徳教育に関する授業理論
07	授業実践の事例検討①：低学年
08	授業実践の事例検討②：中学年
09	授業実践の事例検討③：高学年
10	学習指導案の構成と内容、作成手順
11	資料収集と資料分析
12	学習指導の多様な展開①：多様な教材を生かした指導
13	学習指導の多様な展開②：ICT活用を含む指導方法の工夫
14	道徳教育、道徳科における評価
15	これからの道徳教育に求められる実践的指導力と課題
16	

科目名:幼児と人間関係	担当者:森山 雅子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育・教育で保障すべき内容に関する知識を身につける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。

授業の到達目標
1）乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する（DP）。2）乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解する（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：発達心理学で学んだ知識を復習しておく。
事後学修：配布プリントを自分なりにまとめ直す

評価方法
各回の演習シート（40%）、発表（30%）、最終レポート（30%）
課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
無藤隆監修　(2018)　新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係　萌文書林	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講生同士のグループ活動において、互いの意見を尊重すること。また、グループ活動に積極的に参加することを心がけ、より深い学びとより良い人間関係づくりに必要な姿勢を自ら学ぶこと。連絡手段については授業内で伝えます。

01	現代社会と幼児の人間関係
02	3歳未満児における人間関係の発達
03	乳幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち
04	乳幼児期の自立心の育ち
05	乳幼児期の協同性の育ち
06	乳幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち
07	乳幼児期の人間関係のひろがり
08	児童期以降の育ちのつながり
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児と表現	担当者:淺野 卓司・基村 昌代・五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
領域「表現」の指導において、幼稚の発達を踏まえた表現活動の在り方や、子どもの主体的な活動に結びつく楽しさの要因について体験的に理解するとともに、総合的な表現遊びの実践づくりを通して、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

授業の到達目標
(1)乳幼児期の表現活動の意義や特徴について要領・指針等を踏まえて理解し、表現することの喜びを味わうことを通して、保育実践のための基礎的な技能を養う（知識・技能）。
(2)教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法に関する知識や技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に正確に伝える力を身につけている（思考力・判断力・表現力）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育内容指導法「表現」のねらい及び内容について解説書を事前に読み、要点をまとめておく。
・授業内容の記録をまとめる。

評価方法
授業ごとに気付いたことや感じたことをポートフォリオに図等を用いてまとめたものを評価する（70%）。ICTを用いた活動全体の総括について評価を行う（30%）。課題（実技試験、発表、振り返りシート等）について、総合的に評価しフィードバックを行う。※成績開示の際に、評価に応じたコメントを添付する。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 『子どもの姿からはじめる領域・表現』株式会社みらい	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
園での保育ボランティア等へ参加し、子どもの表現活動についての観察を行う。
連絡はyouji_hyougen@googlegroups.comまで。
教科書は「保育内容指導法（表現）」の授業でも引き続き使用します。

01	幼児の発達と領域「表現」のねらい及び内容について理解する（担当：五十嵐）
02	感じる・みる・聴く・楽しむことに着目し、幼児の表現活動の可能性を探る（担当：五十嵐）
03	生活や遊びの中にある音・声、楽器による音楽遊びを用いて、即興的な音楽表現活動に触れる（担当：基村）
04	季節や行事の歌・わらべうた・手遊び歌を用いた身体・音楽表現活動。表現とコミュニケーションの関係性について理解する（担当：基村）
05	第1講から第4講を受けて、身近な素材を使った楽器づくりや衣装など造形表現の面白さを体験し、幼児の表現を想定した活動を想起する（担当：淺野）
06	好きな歌やお話を繋げる表現活動について話し合い、目的に応じた表現活動で使用する楽器づくりをグループで行う。（担当：淺野）
07	グループによって創られた作品の発表を行う（担当：淺野・基村・五十嵐）
08	ICTを使った表現の総括（学習のまとめ）を行う（担当：淺野・基村・五十嵐）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:国語	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、教育の実践者として必要な基本的な国語力と言語表現力を養う授業を展開する。国語科は「言葉の学習」としての教科であるということの理解を深め、教材研究を中心に、国語科の授業づくりの基礎を学ぶ。講義形態だが、グループワーク・実習・発表などの活動を積極的に取り入れる。

授業の到達目標
①国語科教育の本質と意義を理解し、言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という基本的な力を育成する指導のための知識・技能を身につける。【DP】
②教育の専門職として必要な「国語科の授業」に関する知識・技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に的確に表出する力を身につける。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。

評価方法
フィードバック：レポート・課題等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
授業に参加する姿勢・活動（20%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　筆記試験（40%）以上を総合して評価します。

教科書 小学校学習指導要領解説　国語編	参考図書 適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
国語辞典が必要です。（電子辞書も可）　　各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	オリエンテーション　国語科は「言葉の学習である」ことの理解
02	国語の教材研究の重要性とその方法①（「言葉を学ぶ学習」の観点から）
03	国語の教材研究の重要性とその方法②（「主体的・対話的な学習」の観点から）
04	国語の教材研究の重要性とその方法③（「思考力・表現力を育む学習」の観点から）
05	伝統的な言語文化と日本語文法の基礎と表現についての理解
06	言葉を使って「書く」ということの理解と実習
07	言葉とイメージ（言葉のよる表現活動）の理解と実習
08	保幼小接続の観点から国語科を考える　まとめ
09	筆記試験
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:算数	担当者:小林 美記代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・幼児教育で、算数の基本的知識や数学的思考が身に付く活用場面を想定し、作品作りを行う。

授業の到達目標
・幼児教育の現場で活かせる算数の基本知識や数学的思考を習得する。(DP)
・算数の楽しさを体得する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・次時の内容を予告し、課題を提示するので、各自で解いてくる。詳細は講義で示す。

評価方法
毎回の講義への参加態度（作品作り等）とレポート（毎回配布するプリントの記入）70%、確認テスト30%
次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解について解説をする。

教科書	参考図書
毎回、プリントを配布する	幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領解説 算数科（東洋館出版社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ペアやグループで作品作り、演習等を行うときは、積極的に参加する。連絡方法は、授業内に開示する。

01	オリエンテーション：算数の有用性。紙のサイズ（白銀比）
02	白銀比（キャラクターを描く）黄金比（正五角形をかく）
03	正多面体（折り紙で作る・展開図をかく）
04	ピタゴラスに学ぶ（三角数・四角数・ストロー笛を作る）
05	折り紙やコピー用紙で作品作り（ミウラ折り・箱作り等）
06	一筆書き・確率
07	パズルに挑戦（数・図形）
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:生活	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
　本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようにする。
　生活科の目標や内容を確認しながら、子どもの立場になって活動や体験（グループワークを含む）をし【AL】、生活科の学びついてイメージをもつ。気付きを大切にし、気付きの交流を通して、生活科の在り方を考える。

授業の到達目標
活動や体験を通して、生活科における教材を研究する力を身につける。活動や体験から考えたことの交流を通して、「気付きの質を高める」ことが生活科の「深い学び」に結び付くことを理解する【DP】。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前学習として示したことをやっておくこと。授業で紹介したものを、気付きの交流の意見を踏まえ、教材研究し、レポート作成につなげる。

評価方法
レポート試験60%、授業への参加態度40%
フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時や授業アンケートのコメントのフィードバック時に紹介する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　生活編	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時の持ち物を確実に準備すること。オフィスアワー木曜昼休み

01	幼小接続としての生活科
02	身近なものを使ったおもちゃ遊びの計画と準備　内容（6）自然や物を使った遊びについて
03	身近なものを使ったおもちゃの製作と気付きの交流①
04	身近なものを使ったおもちゃの製作①おもちゃA
05	作ったおもちゃと気付きの交流①
06	身近なものを使ったおもちゃの製作②おもちゃB
07	作ったおもちゃと気付きの交流②
08	生活科の課題
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:図画工作	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本講は、保育学科のDP及びCPにある、教育・保育に関する専門的な知識・技能等を身につけることを目的としています。主として小学校図画工作の表現活動で使用する材料や用具の扱い（全7回）、コンピュータ、カメラなどの情報機器の利用の仕方についての学び（１回）を通して、指導に必要な基礎的な知識・技能・表現力を身につけるものです。

授業の到達目標
（1）学習指導要領に基づいた教科の目標及び各学年の目標や、指導における配慮事項について説明できる（知識・技能）。
（2）各学年の題材の特徴や題材の関連について理解するとともに、活動で用いる材料・用具の基本的な扱いができる（知識・技能）。
（３）自分なりの美的な捉え方を持って判断し表現することができると同時に、児童の作品や造形的な創造活動について共感的に理解することの大切さについて考えることができる（思考力・判断力・表現力）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・授業後に授業を通して学んだことをPowerPoint１枚程度にまとめたポートフォリを作成します。ポートフォリオは、制作した作品や、制作を通して学んだこと（発想や構想、技能等）を記載してください（15時間）。
・ポートフォリオは、最終授業においてMoodleへ提出します。

評価方法
学修課題に関する学びや気づきをポートフォリオにわかりやすくまとめ、学生自身の学びの過程が可視化されたものをもとに評価を行います（70%）。造形表現に必要な材料・用具に関する基礎的な理解については確認テストを行い評価します（30%）第4回までの授業内容について中間まとめとして評価し、フィードバックする。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年6月　文部科学省） 淺野卓司「よくわかる！造形あそびの材料・用具」（令和元年　サクラクレパス）	授業の事前に適宜資料を配付する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・2週ごとに1つの題材が終了するようになっているため、授業内に出来なかった内容は持ち帰って完了するように。
・実技に必要な用具（個人用絵の具、彫刻刀等）を購入してもらいます。
・連絡はasano-t@ohkagakuen-u.ac.jpまで（必ず大学アカウントをつかってメールを送付してください）

01	小学校学習指導要領　図画工作における「内容の取り扱いと指導上の配慮事項」について
02	第１学年及び第２学年における材料・用具の体験
03	絵の具を用いた造形遊びの活動事例
04	第３学年及び第４学年における材料・用具の体験
05	版に表す活動事例
06	第５学年及び第６学年における材料・用具の体験
07	土を焼成して表す活動事例
08	ICTを利用した作品の発表・鑑賞と総括
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:児童文化	担当者:浦中 こういち	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童文化を学び、保育に活用できる言葉・技術等に関する知識や技術を学ぶ。

授業の到達目標
１）子どもの発達と絵本、紙芝居、パネルシアター、紙皿シアター、言葉あそび等に関する知識と技術（２）子どもが児童文化に親しむ保育環境（３）子どもの経験や様々な表現活動と児童文化を結びつける遊びの展開についての知識と技術を習得する。（DP）そして、様々な児童文化教材の特性を理解し、実際に教材作りを行い、子どもの遊びやイメージを豊かにし感性を養う環境構成や保育の展開方法を学ぶ（DP）ことを目的とする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
グループ別にてプレゼンテーションを行う準備（２h）
シアターについての資料収集や製作(2h)
絵本の特性・理解し学んだことを踏まえた選書(1h)

評価方法
授業への参加態度40％　数回のミニレポート・製作物提出40％　シアター等の発表(グループワーク）10％
　確認テスト10％
　（製作物　授業内で製作するもの　パネルシアター、紙皿シアター等)
フィードバックは、授業時等において、制作物等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書
保育園・幼稚園で２歳からたのしい忍者あそびがいっぱい　（
著：浦中こういち　出版：かもがわ出版）

参考図書
子どもがおしえてくれましたほんとうの本のおもしろさ
保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領
1年中作れる！　0から5歳児の製作・造形あそび
センス・オブ・ワンダー

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
●児童文化を学びながらより実践に近い製作・実技・演習・グループでの発表があります。積極的に学ぶことを求めます。
●パネルシアター／紙皿シアターの教材を実際に製作します。製作材料については丸善等にて販売しております。授業時に詳細をお知らせします。
●連絡方法
Moodleまたはメール

01	子どもの発達と言葉あそびの特性と理解／児童文化についての理解
02	子どもの発達と絵本特製・理解
03	子どもの発達とパネルシアターの特製・理解
04	パネルシアター製作（教材作り　色の塗り方等）
05	パネルシアター製作　（教材作り　仕掛けの使い方、作り方等）
06	パネルシアター製作　（演じ方）
07	パネルシアターを使っての保育の展開を学ぶ（グループでの発表）
08	絵本を使っての保育展開を学ぶ（演習）指定された絵本等の準備を行う。
09	様々なシアターを使って保育展開を学ぶ
10	紙皿シアター製作　（教材作り　製作の仕方、テキストの作り方等）
11	紙皿シアター製作　（教材作り　製作の仕方、テキストの作り方等）
12	紙皿シアター製作　（教材作り　製作の仕方、テキストの作り方等）
13	紙皿シアターを使っての保育の展開を学ぶ（演習）
14	乳幼児保育に生かせる言葉遊び（製作・演習）
15	学習の総まとめ（授業と確認テスト）
16	定期試験なし

2022年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅰ	担当者:太田 早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】　保育士・保育園長
授業担当者の保育現場での経験を活かし、3歳未満児の保育について、事例を示しながら実践力を高める学びができるようにする。3歳未満児の子どもの気持ちを受け止め理解するためには保育者としての専門性と感性が必要となる。乳児保育の意義、理念、内容、方法、子育てに関する専門的知識を講義やグループ学習、事例検討のアクティブラーニングで学ぶ（AL）。手遊びや歌遊びなど乳児保育の実践に役立つ技術を演習で習得できるようにする（AL）。

授業の到達目標
①乳児保育の意義や現状を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術を習得し、乳幼児理解や保護者支援についての理解を深める（DP）。
②3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と生活の流れ、保育所、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解する（DP）。③乳児保育のために必要な実践力を身につける（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】◎知識・技能　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳児保育の基礎を理解するためには積極的に乳幼児とのかかわりを増やし、座学での学びを実体験で確認していくことが大切です。ボランティアや子育て支援センターでの観察や関わりの機会を増やしていきましょう。
日頃から以下のことを自主的に心がけ、乳児保育の学びを深めましょう。
3歳未満児の発達の理解を深めるために乳幼児との接触の機会を積極的に作る。乳児の生活に必要な環境、用具やおもちゃについて関心を持つようにする。

評価方法
筆記試験（８０％）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０％）。フィードバックは毎回の授業ノートに学び、感想や質問を記載。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
理論と実践に学ぶ「乳児保育」太田早津美（編）青踏社　・ 平成２９年告示保育所保育指針（フレーベル）	適宜授業時に紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業の空き時間や長期休暇等を利用し、ボランティアや 乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳児の理解に努める。乳児保育に必要な手遊び・歌あそびを覚え、手作りおもちゃを作るなど、保育実践に役立つ技術の習得や教材研究を積極的に行う。
研究室７４０２

01	授業概要および評価方法等の説明　乳児保育の意義
02	最近の子育て事情と課題
03	乳児保育の現状
04	保育所保育指針を基にした乳児保育のねらいと内容
05	乳幼児理解と保育の視点
06	乳幼児の心身の発達
07	0歳児クラスの子どもの発達と保育
08	１歳児クラスの子どもの発達と保育
09	２歳児クラスの子どもの発達と保育
10	言葉の発達とコミュニケーション
11	実践例から見る乳児の理解
12	実践例から見る保育の展開
13	実践例から見る援助の実際
14	乳児保育における連携・協働
15	まとめ
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:医療保育Ⅰ	担当者:棚瀬 佳見	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:医療保育に興味のある学生		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
テーマ：小児病院における保育士やホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）などの療養環境の専門家の役割やその専門性を理解する。
①パワーポイントにて講義
②病院紹介
③小児病院における保育士やホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）などの療養環境の専門家の役割やその専門性を紹介

授業の到達目標
テーマ：小児病院における保育士や療養環境の専門家の役割やその専門性を理解できるようになる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能：医療保育の具体的な支援内容を知る。
○思考力・判断力・表現力：多角的な支援を実践する医療保育士の役割や専門性を捉える。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
特にありませんが、これまでの病児・障害児保育の授業の振り返りやテキストを参考にして下さい。

評価方法
①授業態度（50%）②レポート内容（50%）
レポートから、到達目標と深く関連する学科DP内容が理解され、表現できているかを評価する。
フィードバックは、授業時等において、レポート等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
当日の講義で連絡手段などを周知する。

01	病院紹介と病棟･外来における保育・HPS活動
02	プレパレーション･ディストラクション紹介と実践
03	子ども権利条約を学ぼう
04	きょうだい支援
05	こころと身体の安全教育「ケアキットプログラム」紹介と実践
06	在宅支援・ターミナル支援
07	当センターボランィア活動・東北遊び支援紹介
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:多文化共生保育・教育論	担当者:榊原　菜々枝	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育現場には、様々な文化背景をもつ子どもたちが増加しており、保育・教育の多文化・国際化に対応することのできる保育者が求められています。この授業では、外国人増加の背景や実態を理解し、その上で、多文化社会の中で文化背景の異なる人々が相互理解し、多様性を尊重し、共に生きていくためにはどうしたらよいか考えます。

授業の到達目標
性差、民族、国籍や地域、宗教などの違いだけでなく、異なる環境で成育した様々な背景、価値観を理解し、それらを受け入れながら、豊かな保育・教育を目指していく。「（DP）」

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
新聞やニュースに触れて、時事問題や文化を知り、自分の興味や視野を広げておく。

評価方法
授業への参加態度 50%　小レポート 25%　確認テスト 25%
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
なし（必要に応じて、プリントを配布します）	「多文化保育・教育論」咲間まりこ編、(株)みらい、2014。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	多文化共生保育・教育とは何か
02	異文化コミュニケーション理解の重要性 多文化共生保育・教育の意義
03	在日外国人の動向
04	外国にルーツをもつ子どもの保育・教育
05	多文化共生保育における保護者支援
06	海外での取り組みから学ぶ多文化共生
07	多文化共生保育・教育における保育者の専門性と役割
08	今後の多文化共生保育・教育の展望
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:特別支援教育論	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】特別支援学校教諭
　この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する支援方法について具体的な検討を行う。また、特別支援教育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。
　特別支援教育について多方面から学びを深めるとともに、特別支援教育の理念と歴史、教育課程と指導法、特色ある自立活動、進路指導の概要について理解を深める。

授業の到達目標
①特別な教育的ニーズのある子どもたちに対する教育支援に主体的に取り組むことができる。【DP】②特別支援学校、特別支援学級、通常学級の役割について理解を深める。③特別支援教育の教育内容の概要について理解を深めることができる。④特別支援教育における自立活動、地域連携、キャリア教育等について理解を深めることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としては特別支援教育に関する基本文献を各自が予習すること。事後学修としてはボランティア体験など障害児に対し実践的にかかわる体験をできるだけ多く持つことが求められる。

評価方法
出席態度（10%）、レポート・小テスト(20%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。
授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたって特別支援教育に関する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただき、その答えや解決への道筋を皆さんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	特別支援教育の理念
02	特殊教育から特別支援教育へ
03	特別支援教育の場
04	教育課程の概要
05	特別支援教育（視覚障害教育）の対象と指導方法の概要
06	特別支援教育（聴覚障害教育）の対象と指導方法の概要
07	特別支援教育（知的障害教育）の対象と指導方法の概要
08	特別支援教育（肢体障害教育）の対象と指導方法の概要
09	特別支援教育（病弱虚弱教育）の対象と指導方法の概要
10	特別支援教育における自立活動
11	特別支援教育におけるキャリア教育
12	地域における社会資源との連携
13	特別支援教育の専門性
14	障害者権利条約と特別支援教育
15	特別支援教育論のまとめ
16	

科目名:教育実習Ⅱ	担当者:辻岡 和代・森川 拓也・松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:１年生時に「４０時間以上の小学校でのボランティア活動・体験的学習」を終了していること　※その他の項を参照すること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
学校現場での授業づくり・学級経営の実際を見て、教材研究や発問、児童への対応など、具体的なものとして学び、教職への意欲を高める機会とする。また、児童に関わることで、幼保小の接続の観点を確かなものとし、幼保の子どもと小学生の違いを学ぶ。

授業の到達目標
①小学校の役割や機能について実際に即して学び、教職への意欲を高める【DP】②児童の実際の姿や活動を通して子ども理解を深め、考察したことを表現することができる【DP】③学級活動・授業の観察、参加を通して、授業づくり・学級経営について理解する。①～③について、自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅱで学んだことをよく確認すること。 ②事前訪問時に実習校からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。

評価方法
フィードバック：最終授業時に、実習校からの評価を勘案してフィードバックを行う。
実習校からの評価 60%、実習日誌 20%、実習事後レポート 20%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅱハンドブック	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 本実習を行うにあたり、１年生時に「４０時間以上の小学校でのボランティア活動・体験的学習」を終了していること、小学校教員を志す強い意志があることが条件となる。また教育実習Ⅰの単位を修得済みであること、第2学年前期までに、国語・算数・生活・図画工作から2単位以上、教育原理・教育の方法・教育職論・道徳教育の指導法・特別支援基礎論から5単位以上を修得していることが必要である。 ② 実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること

01	実習実施期間：2021年9月ー10月の1週間 小学校における実習で、観察、参加を通し、教育の実際を体験的に学び、理解する。 ①小学校の役割や機能についての理解 ② 小学校における子どもの実際についての理解 ③ 小学校での授業づくり・学級経営についての理解 ④教職に対する意欲の向上
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:教育実習指導Ⅱ	担当者:辻岡 和代・森川 拓也・松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:1年生時に40時間以上の　ボランティア活動・体験的学習を終了していること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
教育実習Ⅱのための事前事後指導として、実習のあり方、観察記録の書き方、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標
①小学校教育実習の意義や目標を理解する、②観察実習や参加実習の内容について理解し、観察・参加記録の練習に取り組む【DP】。③実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を明確にする【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1年時のボランティア活動・体験的学習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。

評価方法
課題（ワークシート・実習ファイル）70%、授業への参加態度30%を総合的に評価する。
フィードバック：最終授業時に全員に対して、それまでの課題等を含めたフィードバックを行う

教科書	参考図書
教育実習Ⅱハンドブック	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、1年生時に40時間以上のボランティア活動・体験的学習（代替プログラム）を終了していること。
小学校教員を志す意思があること。

01	教育実習Ⅱの課題と事前事後指導の計画の理解
02	小学校教育について　小学校の役割と学校運営について
03	小学校教育について　児童の実態と授業づくりについて
04	観察・参加の具体的な方法と記録の書き方について
05	小学校実地観察学習
06	介護等体験について
07	教育実習に向けての直前指導・事前訪問における確認
08	教育実習事後指導　　学びの振り返り・自己課題の明確化　事後指導
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習Ⅰ（施設）	担当者:古畑 淳・勝浦 眞仁・樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する(DP)。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する(DP)。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等に加えて、普段からのあいさつは、実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
園（施設）評価60%、実習日誌20%、実習レポート10%、実習への取り組み（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。また評価に関するフィードバックも行う。

教科書	参考図書
随時紹介する。	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から健康管理に気をつけること。実習中は遅刻、早退、欠席をせず、充実した実習ができるように心がけること。急病など致し方ない事情で欠席する場合は、ただちに実習先と大学事務に電話すること。保育実習Ⅰ（施設）を再履修する学生においても、保育実習指導Ⅰを再受講することが原則で、実習の履修資格になる。

01	＜居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容＞ １．施設の役割と機能 （１）施設の生活と一日の流れ （２）施設の役割と機能 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における子どもの生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （３）子どもの活動と環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習指導Ⅰ（施設）	担当者:古畑 淳・勝浦 眞仁・樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行うための準備を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する（DP）。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する(DP)。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等に加えて、普段からのあいさつは、実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
課題状況60%、出席態度30%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。課題についてのフィードバックを行う。

教科書 特になし	参考図書 保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回出席をとり、無断欠席があった場合や遅刻が多い場合は原則として実習に行くことができない。
病欠、忌引きなどの止むを得ない事情の場合は、必ず教務課に連絡すること。翌日担当教員から課題の指示するので必ず教育・保育職センターに聞きに行くこと。（欠席課題の他に、次回までの共通課題がある場合がある）

01	施設実習オリエンテーション
02	児童福祉施設の理解を深めるための学習・実習施設の希望調査
03	実習施設の発表と実習前健康指導
04	事前訪問指導
05	日誌の書き方
06	直前指導（実習の心構え、自己課題設定、実習評価について）
07	事後指導Ⅰ（ポスター作り・自己評価）
08	事後指導Ⅱ（ポスター発表会）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:淺野 卓司・辻岡 和代・基村 昌代・太田 早津美・金子 晃之・勝浦 眞仁・森川 拓也・堀 由里・伊藤茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　それぞれのゼミで、保育、幼児教育の基礎、表現活動支援の基礎、特別支援教育・保育の基礎、保幼小連携・児童教育に関する基礎を学び、保育、教育に関する実践力を身につける。また、各領域に関する課題をもち、専門的に深く探求する力を養う。

授業の到達目標
①ゼミでの学びや活動に主体的に取り組める【DP】
②ゼミでの他者の学びや体験を共有できる【DP】
③ゼミで学ぶ知識・技能・体験を理解し身に付けている【DP】
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修）が必要である。
　随時、レポート、報告書等の課題の提出が必要である。
　自らボランティア活動・体験的学習に参加する。

評価方法
フィードバック：個別指導及び集団指導の中で、適宜講評し課題点や留意事項などを直接伝える
参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
各ゼミ担当の先生が指示する。	各ゼミ担当の先生が指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件として２年ゼミ（総合演習Ｉ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）を修了した者とする。但し１年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、１年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡方法は各ゼミ担当者から指示がある。

01	前期ガイダンス　(2年ゼミで学ぶ意義・目標・内容・年間計画の確認)　学びのカルテ確認
02	スペシャリスト基礎①
03	スペシャリスト基礎②
04	スペシャリスト基礎③
05	スペシャリスト基礎④
06	スペシャリスト基礎⑤
07	スペシャリスト基礎⑥
08	スペシャリスト基礎⑦
09	スペシャリスト基礎⑧
10	スペシャリスト基礎⑨
11	スペシャリスト基礎⑩まとめ
12	芸術鑑賞会
13	他の領域の学び①（オムニバス）
14	他の領域の学び②（オムニバス）
15	前期の学びのまとめ　夏休み課題　フィールドワークの準備
16	

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:淺野 卓司・辻岡 和代・基村 昌代・太田 早津美・金子 晃之・勝浦 眞仁・森川 拓也・堀 由里・伊藤　茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
それぞれのゼミで、保育、幼児教育の基礎、表現活動支援の基礎、特別支援教育・保育の基礎、保幼小連携・児童教育に関する基礎を学び、保育、教育に関する実践力を身につける。また、各領域に関する課題をもち、専門的に深く探求する力を養う。

授業の到達目標
①ゼミでの学びや活動に主体的に取り組める【DP】
②ゼミでの他者の学びや体験を共有できる【DP】
③ゼミで学ぶ知識・技能・体験を理解し身に付けている【DP】
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修）が必要である。
　随時、レポート、報告書等の課題の提出が必要である。
　自らボランティア活動・体験的学習に参加する。

評価方法
フィードバック：個別指導及び集団指導の中で、適宜講評し課題点や留意事項などを直接伝える
参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
各ゼミ担当の先生が指示する。	各ゼミ担当の先生が指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件として２年ゼミ（総合演習Ｉ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）を修了した者とする。但し１年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、１年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡方法は各ゼミ担当者から指示がある。

01	後期ガイダンス　学びのカルテの確認
02	夏休み課題＆フィールドワークの報告①
03	夏休み課題＆フィールドワークの報告②
04	スペシャリスト基礎⑪
05	スペシャリスト基礎⑫
06	スペシャリスト基礎⑬
07	スペシャリスト基礎⑭
08	個別研究テーマの設定と報告①
09	個別研究テーマの設定と報告②
10	個別研究テーマの設定と報告③
11	個別研究テーマの設定と報告④
12	個別研究テーマの設定と報告⑤
13	学びの振り返り
14	合同ゼミ①（各ゼミの学びの報告会）
15	合同ゼミ②（各ゼミの学びの報告会）
16	

2022年度シラバス

科目名:教育原理	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育と学校の歴史・理念・思想についての知識を理解し、特性や問題点について展望できる思考力を獲得する（保育学科DP3）。方法は、各回、ムードルに資料を掲載し、授業時に説明し、各自がその資料に書き込みをして学修を進める。それと共に、授業ノートをムードルへ提出する(7回)。映像を用いて説明し事例検討を行う。グループ・ディスカション(2回)。毎回、パソコンを持参すること。

授業の到達目標
　到達目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の理念・目的・営みの歴史について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける特性や課題は何かについて展望する思考力を身に付けることにある。（保育学科DP3）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　基本的に、次回の資料を開示するので、予習として読んでおくこと（事前学修）。授業後は、書き込んだ資料を読み直し、ポイントを振り返りながら、授業ノートを記載し後日提出すること(事後学修)。

評価方法
　事後学修として提出する授業ノート（50点）、学期末試験（50点）を合計して100点満点で評価する。授業ノートのフィードバックについては授業内で行う。

教科書	参考図書
毎回、資料と授業ノートをムードルに掲載する。	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「小学校学習指導要領」、その他については授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参して下さい。
　オフィスアワー　木曜日　昼休み。　　メールアドレス　t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	人間形成と学校教育
02	明治期以前の家族・学校・社会と人間形成
03	明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論
04	明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想
05	大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想
06	大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族
07	昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論
08	昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論
09	昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論
10	昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換
11	平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換
12	欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換
13	欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想
14	欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想
15	近代の学校と教育の特性と課題について
16	学期末試験

2022年度シラバス

科目名:保育原理	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】公立幼稚園勤務（40年：内11年園長）の経験を踏まえ、保育とは何かを体験を基に講義します。子どもの特性を知った上で、環境を通して行う教育・保育を捉え、保育者の役割について学びを深めます。具体的な事例を通して、子どもの理解・遊び・保育者の関わり・環境の構成を考察します。さらに、教育・保育における三法令・制度、保育の歴史、諸外国の保育について理解を深めます。

授業の到達目標
○到達目標１　教育・保育に関する法令及び制度、教育・保育の歴史、諸外国の保育、保育の状況等について習得する。【DP】
②到達目標２　遊びの重要性、保育者の役割、子どもの主体的な生活について理解し、子どもにとってよりよい保育を創造しようと考える。【DP】
○到達目標３　自分の考えを表したり他者の考えを聞いたりして、自ら学び仲間と一緒に学び合う。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
○ボランティア等への積極的参加をし、子どもとのかかわりをもちましょう。
○周りの環境（人・物・事・自然など）に関心をもち感性を磨きましょう。
○主体的に参加し、積極的な発言や質問を期待します。

評価方法
○授業参加（出欠・グループ討議への参加態度）30%　学びの振り返り30%　課題の提出40%
課題については、次回の授業日に、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等を紹介する。

教科書
乳幼児教育・保育シリーズ　保育士養成課程準拠　保育原理
　小田豊・神長美津子・箕輪潤子編著　　光生館

参考図書
幼稚園教育要領（解説書）・保育所保育指針（解説書）・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（解説書）
保育所保育指針
幼保連携型教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
アドレスs-itou@ohkagakuen-u.ac.jp

01	子どもの特性を知る
02	保育を知る（養護と教育、環境を通して行う教育）
03	保育・幼児教育における法令と制度　（１）保育所に関する法令と制度
04	保育・幼児教育における法令と制度　（２）幼稚園・認定こども園に関する法令と制度
05	保育者の役割
06	遊びを知る（遊びの特質・学び）
07	遊びを知る（遊びの充実・発展）
08	幼稚園の教育内容
09	保育所の保育内容・幼保連携型認定こども園の教育・保育内容
10	保育の計画と実践の方法
11	保育所の生活
12	幼稚園の生活
13	認定こども園の生活
14	保育の歴史
15	諸外国の保育・確認テスト 日本の保育の現状　確認テスト
16	

科目名:子ども家庭福祉Ⅰ	担当者:古畑 淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　子どもの成長発達と生活を保障するとともに、家庭・保護者（妊産婦を含む）に対して子育ての支援（保障）を目的として実施する種々の社会的な施策・援助を子ども家庭福祉という。講義では以下の５点、すなわち、①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷についての理解、②子ども家庭福祉と保育との関連性及び子どもの人権についての理解、③子ども家庭福祉の制度や実施体系等の理解、④子ども家庭福祉の現状と課題についての理解、⑤子ども家庭福祉の動向と展望の５点について学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。なお、本科目は、「教育・保育の本質・目的に関する科目群」に位置づく科目である。

授業の到達目標
　①子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷（DP）、②子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権（DP）、③子ども家庭福祉の制度や実施体系（DP）、④子ども家庭福祉の現状と課題（DP）、⑤子ども家庭福祉の動向と展望（DP）、を理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。
　【試験に対するフィードバックについて】
　授業アンケートのコメントフィードバック時に行う。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　子ども家庭福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	子ども・家庭を取り巻く現況について
02	子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷
03	子どもの権利と児童育成の責任主体
04	子ども家庭サービスの体系
05	子ども家庭福祉の実施体制
06	子ども家庭福祉の専門機関
07	子ども家庭福祉の専門職
08	児童福祉施設等の設置と認可の仕組み
09	児童福祉施設等に対する行政の監督
10	子どもの権利の実現のための権利救済システム
11	子ども家庭福祉サービスの利用の仕組み　措置による利用の仕組み
12	子ども家庭福祉サービスの利用の仕組み　契約による利用の仕組み
13	子ども家庭福祉サービスの費用
14	子ども家庭福祉の制度改革の動向と展望
15	子ども家庭福祉Ⅰのまとめ
16	試験

2022年度シラバス

科目名:社会福祉	担当者:古畑 淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　わが国の社会福祉は近年、少子高齢社会の進展、家族形態の変容、都市化・過疎化など地域課題の発生、雇用や経済の格差が広がる中で、ますます重要性が増している。講義ではそのような社会福祉について、①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題の５つについて学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。なお、本科目は、「教育・保育の本質・目的に関する科目群」に位置づく科目である。

授業の到達目標
　①社会福祉の意義と歴史的変遷（DP）、②社会福祉の制度と実施体系（DP）、③社会福祉における相談援助（DP）、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み（DP）、⑤社会福祉の動向と課題（DP）、について理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。
　【試験に対するフィードバックについて】
　授業アンケートのコメントフィードバック時に行う。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　社会福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の社会保障、社会福祉の話題
02	社会保障、社会福祉の理念と概念
03	憲法が保障する生存の権利について
04	社会保障、社会福祉の歴史
05	社会福祉の理念の変化と社会福祉基礎構造改革
06	社会福祉の制度と法体系
07	社会福祉制度の実施体制
08	社会福祉の専門職と地域の協力者（民生・児童委員制度）
09	社会福祉の相談援助
10	社会福祉の提供主体（社会福祉法人制度を含む）
11	社会福祉サービスの利用者と権利擁護
12	社会福祉の財政と利用者負担
13	生活保護制度の理解
14	高齢者福祉制度の理解
15	障害者福祉制度の理解
16	試験

2022年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、現代社会における保育者の在り方について理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した保育者の在り方を深く考えることを基軸に、幼稚園教諭・保育教諭・保育士など保育者の役割が変化しつつあることを踏まえながら、保育者としての制度的位置づけ、職務内容、資質、専門性などを理解するようにする。【AL】

授業の到達目標
①日本における学校教育や教職の社会的意義及び今日的課題について理解し、幼稚園教諭・保育教諭・保育士としての役割や資質能力・多様な職務について理解する（HDP3）。
②教師・保育者の全体的な職務内容を把握すると同時に、教師・保育者としての資質や専門性・義務や職業倫理について理解する（HDP3）。
③地域・家庭・社会的ニーズを踏まえた上で、多様な人材や専門家との協働・連携を通じて組織的に諸課題に対応する必要性について理解する（HDP3）。
④保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる保育者像を明確化する（HDP4）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP3：知識・技能　○HDP4：思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想の保育者像に関する課題は、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。

評価方法
理想の保育者像シート（25%）・最終筆記試験（45%）・授業への取組（各回FB：30%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：各回のFB等における質問に関しては、次回授業時に口頭とスライドで回答する。また、理想の保育者像と最終試験に関しては、成績開示後に総合評価と講評、特に留意すべき事項等をMoodle上で解説する。

教科書	参考図書
「子どもと共に育ち合うエピソード保育者論」井上孝之編 みらい（2020年改訂版）	平成29年告示版　幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
1年生の段階で「どのような保育者を目指したいか」を描くことは、今後の皆さんの道標となります。夢や理想を描きつつ、保育現場で必要な力量とは何かを考えながら、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください。また、模擬授業では、聞き手の学びなどに留意しながら、授業展開をしてください（OH等は初回に開示します）。

01	オリエンテーション、ナショナルカリキュラムにみる保育者の役割
02	保育者として働く目的と意義　―保育者になるということ―
03	現代社会と保育者　―社会の変化と保育者に求められる今日的課題―
04	保育者の制度的な位置づけと職業倫理　―責務と倫理―
05	保育者の職務内容（１）―教育課程及び全体的な計画に基づくカリキュラムデザインと評価―
06	保育者の職務内容（２）―家庭や地域との連携を重視した多様な職務―
07	保育者の職務内容（３）―個々のニーズに応じた教育的支援―
08	保育環境の意義と保育者の役割　―保育環境をデザインする意味―
09	子どもの主体的な学びを支える保育者の役割　―遊びの展開や保育の充実を支える意味―
10	保護者の専門職的成長　―キャリア形成の意義と研修―
11	保育者の協働と連携　―チーム学校（園）と組織的な連携―
12	海外の幼児教育・保育の現状　―海外の保育実情と多文化共生―
13	保育者に求められる資質や専門性　―資質向上を目指した取組・組織とリーダーシップ―
14	理想の保育者像の作成
15	理想の保育者像プレゼンテーションとまとめ
16	定期試験

科目名:発達心理学	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
人間が一生涯発達し続けることを見通しながら、現代の子どもの姿を様々な実験・観察データをもとに考えていきます。特に変化の大きな乳幼児期や児童期の発達に目を向け、保育者・教育者として子どもに関わる際に必要な発達に関する基礎的事項について、心理学的視点から学びます。授業方法はスライドを使用した一斉授業をメインとしますが、学生間の意見交流の場をもつ事もあります【AL】。

授業の到達目標
1) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得することができる（DP）。
2) 発達に関する専門用語を具体的現象にあてはめながら理解することができる（DP）。
3) 子どもの発達と保育・教育の関係について考察することができる（DP）。
4) 生涯発達の視点から、保育・教育のみならず、養育や支援についても考えることができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：各ステージの特徴を身体・運動、認知・言語、社会性など様々な視点から考えるため、自身の発達を振り返ったり、身近な人の発達の様相を自分なりの言葉でまとめておきましょう。
事後学修：準備学修したことと授業内で解説したことを再度まとめ直したり、ボランティア等で出会った子どもたちに具体的現象にあてはめながら、専門用語を復習していきましょう。

評価方法
授業への取り組み（30%）、授業内の確認テスト（70%）
毎回の授業への意見は、次回の授業内でフィードバックし、確認テストについては最終授業内で解説を行っていく。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育容量（平成29年告示）フレーベル館 その他必要な書籍は随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に疑問を持ちながら受講し、保育や教育にどのように活かせるのかを考え続けましょう。
オフィスアワーや連絡手段については授業内で伝えます。

01	生涯にわたって発達を理解することの意味
02	発達の諸理論と発達の研究方法
03	乳幼児期：愛着
04	乳幼児期：身体、運動、認知、言語発達
05	児童期：認知発達、動機づけ、道徳判断
06	児童期：親子・きょうだい・友人関係
07	青年期：第2次性徴、性意識の発達
08	青年期：アイデンティティの確立
09	発達の遅れや偏り
10	成人期：パーソナリティ
11	成人期：対人関係の親密性
12	成人期：キャリア意識、ストレス
13	中年期：子育て、子どもの巣立ちへの適応
14	老年期：心身の変化、対人関係の変化、死に対する意識の発達
15	まとめと授業内確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:保幼小連携基礎論	担当者:上村 晶・金子 晃之・小柳津 和博・松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:卒業必修		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、学校教育の社会的現状を踏まえ、保幼小の円滑な接続のための教育の基本、及び教育内容の接続や、今後求められる多様な連携の在り方について、基礎的な理解を深める。

授業の到達目標
１．多様な就学前教育・保育と小学校教育及び特別支援学校小学部教育に着目し、各要領・指針の総則に示された教育・保育の基本について理解する。[DP]
２．多様な就学前教育・保育と小学校教育及び特別支援学校小学部の円滑な接続を見据えた保幼小連携の重要性について、基礎的な理解を深める。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各授業担当者が、次週の予習部分について説明しますので、Moodleでの資料の閲覧や参考図書の該当部分の熟読などを通して、事前学修に努めてください。

評価方法
各回における確認課題（小テスト・小レポート等：80%）、授業への取組（20%）によって、総合評価する。
各授業の最後でフィードバックを行う

教科書 配布プリント	参考図書 幼稚園教育要領解説（平成29年告示版文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年度告示版 文部科学省・厚生労働省・内閣府）、保育所保育指針解説書（平成29年告示版 厚生労働省）、小学校学習指導要領（平成29年告示版 文部科学省）、特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示版 文部科学省）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
多様な子どもの育ちを、幅広くかつ見通しをもって捉えながら、各要領・指針の根幹を理解してほしいと考えています。また、保育士資格や幼稚園・小学校・特別支援学校における教諭免許など、多様な資格・免許が取得できる本学科のスタートアップとして、本授業の学びから様々な教師・保育者の在り方に関心を広げていくことを期待しています。（各授業担当者のOHや連絡手段等は、各回の初回に開示します）。

01	オリエンテーション、教育・保育に係る制度及び関連法令の理解（金子）
02	幼稚園教育要領にみる教育の基本、及び保幼小接続・連携の在り方（上村）
03	保育所保育指針にみる保育の基本原則、及び保幼小接続・連携の在り方（上村）
04	幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる教育・保育の基本、保幼小接続・連携の在り方（上村）
05	小学校学習指導要領にみる教育の基本（松永）
06	小学校学習指導要領にみる幼小接続・連携の在り方（松永）
07	特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部学習指導要領にみる教育の基本（小柳津）
08	特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部学習指導要領に基づく幼小接続・連携の在り方（小柳津）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】公立幼稚園勤務（40年：内11年園長）の経験を踏まえ、保育全般について具体的な実践例をまじえながら学んでいけるようにする。
3法を知り、幼児教育・保育の基本を学び、各年齢及び一人一人に応じた保育内容・指導計画、園と家庭や地域との連携、地域における子育て支援などについて理解する。また、保育内容の変遷、諸外国の保育内容についても学ぶ。さらに、少子化の進行、子どもの生活や遊びの変容による保育ニーズの高まりや今日的課題を考えた保育のあり方について、仲間と話し合い、発表・報告をする。

授業の到達目標
○到達目標１　幼児教育・保育の基本を習得し、各年齢の発達・保育内容・保育の計画について理解する。【DP】
○到達目標２　一人一人の子どもの理解・遊び・環境・保育者の関わりについて、子どもの姿をイメージしながら考えることができる。【DP】
○到達目標３　自分の考えを表したり他者の考えを聞いたりして、自ら学び仲間と一緒に学び合う。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を確認して授業に参加する。
・授業内容について教科書を見て予習する。
・授業内容を復習する。

評価方法
授業への参加・学習態度・学びの振り返り30%、課題の提出30%、筆記試験40%にて評価する。
課題については、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案を紹介する。

教科書	参考図書
津金美智子・新井美保子編　新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』（株）みらい	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・免許・資格を取る学生は、休まず履修する。
・ボランティア活動等への積極的参加をし、子どもとのかかわりをもつ。
・周りの環境（人・物・事・自然など）に関心をもち感性を磨くことに努める。

01	オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題＜グループディスカッション＞
02	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（社会環境の変化・保育内容の基準）
03	幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、10の姿の理解等）
04	遊びと保育内容（保育内容5領域の総合性）＜グループディスカッション＞
05	子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容）
06	子ども理解②(１歳以上3歳未満児の保育内容)
07	子ども理解③（3歳以上児の保育内容）
08	子ども理解④（3歳以上児の保育内容）
09	子ども理解⑤（3歳以上児の保育内容）
10	家庭・地域との連携、健康及び安全、子育て支援
11	保育の計画①（教育課程・全体的計画とカリキュラムマネジメント）
12	保育の計画②（指導計画と保育の展開、保育の記録と評価）
13	保育の計画③（記録の実際）
14	我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題）
15	諸外国の保育内容　＜演習＞世界の幼児教育・保育内容の調査発表　　★授業全体まとめ
16	筆記試験

科目名:保育内容指導法（環境）	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 本科目では、“保育は環境を通して行われる”と言われる、保育にとって重要な領域“環境”のねらい及び内容を学ぶ。特に、実際に環境構成案を作成するために、積極的に保育の実際の姿を自ら学び、グループで発表・討論することで、その学びを深めていく。【AL】
授業の到達目標 DP１に関連し、下記を到達目標とする。 １．一人ひとりが生き生きと生活をする環境を、学生の主体的な学びを基に皆で話し合い、そのうえで、それが多種多様であることを理解する。 ２．環境の視点から、乳幼児の生活や遊びについて、保育者が留意、配慮すべき事項を理解する。 ３．乳幼児の発達過程に即し、子ども主体の保育場面を想定し、環境構成し、振り返り等できるようになる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 毎回の授業時までに、関連する教科書の箇所・資料を熟読する。時に、事前課題を出すこともある。（２～３時間）また、事後学修として、課題レポートを完成させておくこと（１時間）。
評価方法 ルーブリックの視点から、定期試験（50%）、課題（40%）、授業への参加態度(10%)で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
「新しい保育講座９　保育内容『環境』」久保健太・高橋景子・宮里暁美編著　ミネルヴァ書房	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、幼児と環境の学びから保育内容指導法「環境」へ
02	保育における「領域」の意義、「環境」のねらいと内容
03	一人ひとりを大切にする保育－領域環境の視点から
04	乳児保育における「環境」とのかかわり
05	モノとのかかわりを支える保育の展開
06	自然とのかかわりを支える保育の展開
07	社会とのかかわりを支える保育の展開
08	社会とのかかわりを支える保育の展開（イギリスのプレイグループの事例）
09	主体性を大切にした指導案とは
10	自然とのかかわりを支える保育の指導案の作成（グループディスカッション）
11	模擬保育
12	模擬保育の振り返り
13	領域「環境」と小学校教育のつながり
14	環境における現代的課題と保育
15	共に環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ち合い
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:保育内容指導法（言葉）	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
領域「言葉」のねらい・内容の全てにわたっての基礎を学んだ上で、幼児の発達に即して具体的な「言葉」に関する指導場面を想定し、保育を構想するための知識・技能・方法を習得する。

授業の到達目標
①言葉を育む指導の工夫や指導案づくりなどに取り組み、課題解決のための具体的方法を、自ら導き出す力を身につける【DP】
②児童文化財を用いて子どもの言葉を育む具体的な指導場面を想定し、構想をもちながら子どもに適切に対応しながら指導する実践力を身につける【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配付資料のふりかえり、事前準備としての教材研究等に取り組む必要があります。絵本の読み聞かせの練習、絵本研究なども課題になります。

評価方法
フィードバック：レポート・課題・模擬保育等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
各回のふりかえり（20%）授業・演習課題に対する取り組み姿勢（20%）教材研究（20%）定期試験（40%）以上を総合して評価します

教科書	参考図書
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』	必要に応じて適宜指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	オリエンテーション　（保育内容の「言葉」とは？）
02	言葉の育ちと保育について　（言葉の育つ道筋）
03	人とつながる言葉について
04	言葉で考えること・表現することについて
05	言葉に出会い言葉を豊かにする指導について①　（絵本の楽しさと活かし方）
06	言葉に出会い言葉を豊かにする指導について②　（絵本の読み聞かせの実践）
07	言葉に出会い言葉を豊かにする指導について③　（紙芝居の楽しさと実践）
08	言葉に出会い言葉を豊かにする指導について④　（言葉遊びの楽しさと活かし方）
09	言葉を育む保育実践①（紙芝居の製作１）【AL】
10	言葉を育む保育実践②（紙芝居の製作２）【AL】
11	言葉を育む保育実践③（保育場面を想定した指導案の作成）
12	言葉を育む保育実践④（模擬保育の実施１）【AL】
13	言葉を育む保育実践⑤（模擬保育の実施２）【AL】
14	言葉を育む保育実践⑥（模擬保育の振り返り）【AL】
15	領域「言葉」から教科「国語」へのつながりとまとめ
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:幼児と環境	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本科目では、保育においてその命と成長を保障すべき、乳幼児という存在にとって環境とは何かについて学ぶ。その重要な位置付けを具体的な環境と関わる子どもの姿から学ぶ。さらに、保育所保育指針や認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領に結び付けていく。映像を取り入れる。コミュニケーションシートを使っての質疑応答を行う。【AL】
授業の到達目標 DP３に関連し、下記を到達目標とする。 １．乳幼児が多種多様な環境との関係の中で育まれていることを理解する。 ２．乳幼児の育ちには、その環境との五感を通した関わりが大切であることを理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 毎回の授業時までに、関連する教科書・資料等を熟読するとともに、課題に取り組む（２～３時間）。事後学修では、課題レポートを完成させる（１時間）。
評価方法 ルーブリックの視点から、最終レポート（50%）、課題（40%）、授業への参加態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じで全体へも伝える。

教科書	参考図書
「新しい保育講座９　保育内容『環境』」久保健太・高橋景子・宮里暁美編著　ミネルヴァ書房	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 質問等ある場合は、授業前後・オフィスアワーを使うか、私の部屋まで来てください。

01	オリエンテーション、春見つけ
02	乳幼児期に育む大切なこと：五感を通した体験と意欲・好奇心
03	子どもを取り巻く環境
04	身近な環境とのかかわりと感性の育ち
05	モノとのかかわりを通して生まれる育ち
06	自然とのかかわりを通して生まれる育ち
07	社会とのかかわりを通して生まれる育ち
08	保育所保育指針・幼稚園教育要領・保育要領をひもとこう、課題テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:幼児と言葉	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、具体的な作業・活動を通して、領域「言葉」を指導する実践力の基となる基礎知識を身につける授業を展開する。その上で、子どもが「言葉」を獲得していくことの重要性と保育者の支援を学ぶ機会とする。

授業の到達目標
①子どもの生活を支える「言葉」の重要性と働きについて理解した上で、言葉を育み、言葉の豊かな使い手となるように指導できる知識・技能を身につけ、教材理解ができる。【DP】
②教育・保育の専門職として求められる「幼児の言葉」に関する知識・技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に的確に表出する力を身につけている。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配付資料のふりかえり、事前準備としての資料や指定図書の研究、日常の子どもの言葉の聞き取り・分析等の課題があります。

評価方法
フィードバック：レポート・課題等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
各回のふりかえり（20%）授業・演習課題に対する取り組み姿勢（20%）演習課題の内容（20%）定期試験（40%）以上を総合して評価します

教科書	参考図書
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』	必要に応じて提示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	なぜ「言葉」を学ぶのか
02	乳幼児期の言葉の発達
03	幼児にとって「言葉」とは何か
04	幼児の言葉から考える
05	人とつながるための言葉
06	子どもの言葉を育てる保育者・保護者の役割
07	子どもの言葉を育てる文化的環境と文化財
08	言葉をめぐるいろいろな問題
09	定期試験
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児音楽ＩＡ	担当者:五十嵐 睦美・早瀬 順子・手嶋 麻利・田辺 美砂子・渡部 真理・竹内 理恵・森野 直子・村瀬 啓子・鈴木 真衣・鬼頭 愛・和沙 舞子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
90分授業を45分に分割して実施し、①音楽基礎理論と表現遊び、②ピアノ奏法について体験的に学ぶ。【AL】

①：予復習課題を通して音楽基礎理論を理解し、読譜力を養う。
　乳幼児の音楽的発達を理解し、「うたう」「きく」「つくる」「ならす」「うごく」表現について実践的に学ぶ。
②：ピアノ初学者はバイエル80番程度、既修者は各々の課題に合わせた楽曲を演奏できるようにする。また、弾き歌いの導入としてさまざまな子どもの歌に親しむ。

授業の到達目標
教育・保育の専門職に必要となる表現遊びの方法や音楽基礎理論、ピアノ奏法について自ら学ぼうとする力を身につける。(DP)また、乳幼児の音楽的発達に関する知識や技能を基に自らの考えを深め、自己表現の大切さを理解した上で他者に伝えることができるようにする。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日30分～1時間程度はピアノに触れ、課題の反復練習を行うこと。
歌に親しみ、積極的に声を出す習慣を身につけること。
予復習課題に取り組み、教育者・保育者に求められる読譜力を身につけること。

評価方法
音楽理論筆記試験(100点)、ピアノ実技試験(100点)、平常点(100点)の３つの平均点によって評価する。平常点は、課題、発表、振り返り、学習意欲、目標到達度を総合的に評価するものである。ピアノ実技試験は、複数の教員が個々の演奏を評価する。音楽理論の筆記試験で50点に満たない場合は、再試験を行う。
課題にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社 尾林裕美子ら『こどもの世界』ドレミ楽譜 深見友紀子ら『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社	保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽理論では五線ノートを使用するため、各自用意すること。
授業に関する質問は、各担当教員へ連絡すること。
連絡事項は、すべてMoodleに掲載する。

01	ガイダンス／楽譜の読み方
02	子どもの音楽的発達／ピアノレッスンと歌唱 1
03	子どもと音楽ーうたうー（生活の歌や季節の歌）／ピアノレッスンと歌唱2
04	子どもと音楽ーきくー（自然とのかかわり）／ピアノレッスンと歌唱3
05	子どもと音楽ーつくるー（モノを使った音表現）／ピアノレッスンと歌唱 4
06	子どもと音楽ーならすー（楽器とのかかわり）／ピアノレッスンと歌唱 5
07	打楽器の正しい奏法とメンテナンス／ピアノレッスンと歌唱 6
08	打楽器を用いたリズムアンサンブル／ピアノレッスンと歌唱7
09	子どもと音楽ーうごくー（リズム遊び）／ピアノレッスンと歌唱 8
10	子どもが楽しめる歌の活動Ⅰ（グループワーク）／ピアノレッスンと歌唱9
11	子どもが楽しめる歌の活動Ⅱ（グループワーク）／ピアノレッスンと歌唱10
12	グループ発表と振り返り／ピアノレッスンと歌唱11
13	音楽理論（調性）／ピアノレッスンと歌唱12
14	音楽理論（移調）／ピアノレッスンと歌唱13
15	音楽理論のまとめ／ピアノ実技試験
16	筆記試験

科目名:幼児音楽ＩＢ	担当者:五十嵐 睦美・早瀬 順子・手嶋 麻利・田辺 美砂子・渡部 真理・竹内 理恵・森野 直子・村瀬 啓子・鈴木 真衣・鬼頭 愛・和沙 舞子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
90分授業を45分に分割して実施し、①音楽基礎理論と表現遊び、②ピアノ奏法と幼児歌曲の弾き歌いについて体験的に学ぶ。【AL】

①：音楽基礎理論に関する予復習課題を通して、読譜力を養う。
　手遊びや歌遊び、リズム遊びなどの発表を一人ずつ行い、教育者・保育者に求められる実践力を養う。
②：ピアノ独奏曲（バイエルを含む）1曲以上、および幼児歌曲の弾き歌いを3曲以上演奏できるようにする。

授業の到達目標
教育・保育の専門職に必要となる表現遊びの方法やピアノ奏法、弾き歌いに活用できる音楽基礎理論について自ら学ぼうとする力を身につける。(DP)また、乳幼児の音楽的発達や表現遊びに関する知識や技能を基に自らの考えを深め、表現を工夫しながら他者に伝えることができるようにする。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日30分～1時間程度はピアノに触れ、課題の反復練習を行うこと。
歌に親しみ、積極的に声を出す習慣を身につけること。
音楽理論の予復習課題に取り組み、読譜力を身につけること。
弾き歌いの伴奏の難易度は問わないため、自分に合った伴奏譜を選択し、音楽理論で習得した知識を演奏に活かすこと。

評価方法
音楽理論筆記試験(100点)、ピアノ実技試験(100点)、平常点(100点)の３つの平均点によって評価する。平常点は、予復習課題、発表、振り返り、学習意欲、目標到達度を総合的に評価するものである。ピアノ実技試験は、複数の教員が個々の演奏を評価する。音楽理論の筆記試験で50点に満たない場合は、再試験を行う。
課題にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社 尾林裕美子ら『こどもの世界』ドレミ楽譜 深見友紀子ら『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽理論では五線ノートを使用するため、各自用意すること。
授業に関する質問は、各担当教員へ連絡すること。
連絡事項は、すべてMoodleに掲載する。

01	音楽基礎理論の確認／ピアノレッスンと弾き歌い1
02	劇遊びと音楽表現（絵本と音楽）／ピアノレッスンと弾き歌い2
03	即興的な音楽表現（絵本と音楽）／ピアノレッスンと弾き歌い3
04	身体を使ったリズムアンサンブルⅠ／ピアノレッスンと弾き歌い4
05	身体を使ったリズムアンサンブルⅡ／ピアノレッスンと弾き歌い5
06	発表と振り返り／ピアノレッスンと弾き歌い6
07	移調の確認／ピアノレッスンと弾き歌い7
08	音程（長短系）／ピアノレッスンと弾き歌い8
09	音程（完全系／ピアノレッスンと弾き歌い9
10	♯♭のつく音程／ピアノレッスンと弾き歌い10
11	メジャーコードとマイナーコード／ピアノレッスンと弾き歌い11
12	セブンスコード／ピアノレッスンと弾き歌い12
13	コードの活用法／ピアノレッスンと弾き歌い13
14	コードを活かした伴奏法／ピアノレッスンと弾き歌い14
15	音楽基礎理論のまとめ／ピアノ実技試験
16	筆記試験

2022年度シラバス

科目名:幼児造形Ⅰ	担当者:田端 智美・高野 真悟	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。
保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年の図画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。（DP）
（1）保育実践に必要な応用的な表現力
保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける
（2）保育実践に関する知識
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・応用的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成を理解
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）
フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について・演習１（ドリッピング・バチックなど）
02	演習２（マーブリング・染紙など）
03	演習３（スタンピングなど）
04	演習４　（紙版画）
05	演習５（お弁当屋さんごっこ）
06	ポップアップカードの制作１(とび出す仕組みについて)
07	ポップアップカードの制作２・提出
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）（AL）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児体育Ⅰ	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しみかつ創造できる力を取得する（AL)。幼児が実施している様々な運動遊びを自ら経験することによって、幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びを提供したり、運動動作の習得に対する適切な援助・指導ができるように実践的に学んで行く。そのためグループ学習やプレゼンテーションを取り入れる。（A L)

授業の到達目標
①様々な運動遊びを経験し、上達を目指して主体的に取り組む中で、運動の楽しさを知り運動技能の向上を図る。（D P)
②幼児期の運動発達過程を理解する。（D P)
③工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる。（D P)
④運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。（D P）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・事前学習として、シラバスに記載してある運動遊びについて文献等で調べておくこと。
・事後学習として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容について、授業ノートを作成・提出する。
・学外実習やボランティア活動を通して、子どもの運動発達を理解する。

評価方法
① 毎回の授業内容をまとめた授業ノート（50%） ② 授業内で行う実技発表（30%） ③ 授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
特に指定しない。	幼児期運動指針　文部科学省、「幼児の運動あそび　幼児期運動指針に沿って」（チャイルド本社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は申し出て下さい。日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。
y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、道具を使わない遊び① からだ遊び
02	道具を使わない遊び② 伝承遊び
03	道具を使わない遊び③ 遊びの創作と発表
04	小型遊具を使った遊び① 縄、フープ
05	小型遊具を使った遊び② ボール遊び
06	模倣遊び、ダンスなど表現遊び
07	新聞紙、袋、空き箱などを使った遊びの創作と発表
08	授業のまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅰ	担当者:五十嵐 睦美・伊藤 茂美・内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園園長
　本科目は、幼稚園教育実習における実践的な学びを体験・学修する。特に元幼稚園長の立場から、実習現場で求められる実践的指導力などを事前に提示し、幼稚園教育実習における学びを深められるようにする。【AL】
　幼稚園の教育の実際を体験的に学修し、自ら課題を持ちながら幼児と関わるなかで、幼稚園教育の基本、幼児理解、教師の役割・姿勢、子育て支援、地域や小学校との連携等について学ぶ。また、実際の保育と、習得した学習とを関連付けて考え、教師としての専門性や資質を理解する。

授業の到達目標
○到達目標１　　幼稚園実習を通して得られた学びと、これまでの学習とを関連付けて考えようとしたり、課題を見つけたりして自ら学ぶ。【DP】

○到達目標２　　幼稚園実習を通して、幼児理解・環境の構成・教師の援助の実際を知り、実際の保育から捉えたり考えたり、記述したりすることができる。【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力　　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①実習のための体調管理を十分に行うこと。
②事前訪問で伺った教育方針や園の概要の理解に努めること。
③絵本の読み聞かせ、手遊び等の事前準備、ピアノ課題（任意）の準備をしておくこと。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、実習への取り組み10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ｉ手引き　実習ハンドブック	幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領解説（平成２９年度告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅰ」を履修することが条件となる。（未履修者は本実習に参加できない)
②遅刻・早退・欠席等については、必ず申し出ること。連絡は事務局実習担当まで。

01	＜1日目＞オリエンテーション、園の概要（園児数、クラス編成、教育方針、教育の特徴、職員構成と園務の分掌、施設設備、環境構成、家庭や地域との関係等）についての説明を受け、観察を通して実際的に確認する。（観察） ＜2日目＞教育の様々な場面における幼稚園教諭（教師）の子どもへの働きかけ、関わり方の実際について観察する。（観察） ＜3日目＞幼稚園の１日（教育の実際、子どもたちの降園前と降園後の職員の仕事の実際）について観察する。（観察） ＜4日目＞担任教諭の指示に基づき、教育の特定の場面における子どもへの部分的な働きかけを体験する。（参加） ＜5日目＞実習生自ら子どもたちへの積極的な働きかけを体験する。（参加）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習指導Ⅰ	担当者:五十嵐 睦美・伊藤 茂美・内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園長
　本科目は、元幼稚園長としての経験を活かしながら、幼稚園教育実習における実習生の学びについて、具体的に検討する。また、実習現場で求められる実践的指導力などを具体的に検討・共有することを通じて、幼稚園教育実習に必要な知識・技術などを体験的に学ぶことができるようにする。【AL】
　幼稚園の教育の実際を体験的に学修する実習前指導として、幼稚園教育の基本、教師の役割・姿勢、子育て支援、地域や小学校との連携について、幼稚園教育要領を中心に学ぶ。そして観察記録の視点の持ち方、日誌の書き方について学ぶ。実習事後指導として、グループ討議を通して、実習で学び得たことを振り返り、実習課題を深める。

授業の到達目標
○到達目標１　　幼稚園教諭を体験することに意欲・責任・目標・課題をもち、自ら学ぶ。【DP】
○到達目標２　　幼稚園実習での気付きを仲間と交流し学びを深める。【DP】
○到達目標３　　幼稚園の役割や機能・幼稚園教諭の仕事・実習の目的を理解し、教諭として基礎的な力や態度を身に付ける。【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
「実習ハンドブック」、「教育実習Ⅰ手引き」、「幼稚園教育要領」を読んで予習・復習をし、理解に努めること。（事前・事後学習）

評価方法
事前の課題等50%、事後課題等40%、授業への取り組み10%を総合的に評価する。
課題については、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説やよくできた答案等を紹介する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅰ手引き、実習ハンドブック	幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成２９年度告示板）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
公欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、必ず、教務課実習担当に電話連絡をすること。（欠席者課題有）

01	ガイダンス、教育実習Ⅰの目的
02	幼稚園教諭とは
03	幼稚園の概要及び幼稚園教育要領について
04	教育実習とは
05	保育実技指導
06	実習日誌の書き方について
07	直前指導、幼稚園教育要領ミニテスト
08	事後指導（実習で学んだこと、課題　討議・発表）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:海外幼児教育インターンシップ	担当者:内田 政一・加藤 あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
海外（主にニュージーランド）における保育・幼児教育の分野でのインターンシップを通して、国際的な視野を持った教育者・保育者としての素地を養います。また、現地での研修に参加することにより、実践的な英語を学びつつ、様々な人や文化と接触し、異文化理解を深める機会とします。授業は、事前指導と現地での語学研修・実習、及び事後指導で構成されています。渡航期間は2月下旬から3月中旬までの3週間程度の予定です。【AL】【EN】

授業の到達目標
研修先であるニュージーランドを中心とする海外の保育・幼児教育事情を知る。また、現地での研修により、異文化に直接触れ、異なる他者への理解を深める。（DP）加えて、日常的な英会話を身につけ、英語を使って現地のこどもと簡単なコミュニケーションをすることを目指す。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ニュージーランドで研修を行うことを踏まえ、その準備段階に当たる事前授業への出席は必須とします。また、事前授業では、コミュニケーションに特化した英語を学んでいきますが、授業以外においてもListening,・Speakingを中心とした英語の学習を怠らないようにしましょう。

評価方法
授業への参加度　30%　現地実習評価　40%　実習記録作成　30%
現地実習終了後に実習記録返却および授業、現地実習に対するフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布します。	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この科目は後期科目ですが、海外への渡航を伴う科目であるため、事前に説明会を開催します。受講を希望する学生は、必ず参加するようにして下さい。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	事前授業では、プログラム内容の詳細な説明や旅行業者による渡航に関わる提出書類等についての説明を丁寧に行っていきます。また、現地でのコミュニケーションに必要な実践的な英会話のトレーニングにも取り組みます。さらに、昨年度参加者によるプレゼンテーションの機会を設け、海外渡航への不安解消に繋げていく予定をしています。 研修実習国はニュージーランドで、滞在先はホームステイを予定しています。また、参加費用は40～50万円後半までの設定となる見込みです（参加人数等により変動します）。1週目は語学及び文化研修を主とし、2、3週目は現地の保育施設にて実習に参加していきます。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	